

一、戊正月廿二日。星野又右衛門上地割殘
下谷長者町拾四坪餘

(家) 天保十亥年十二月廿日。柏木慎兵衛江預替ル。消印。

一、戊二月廿五日。大島金藏上地
四谷内藤宿北裏通百貳坪餘

同日。井口理兵衛上地
青山百人町百拾六坪餘

同日。高梨官平上地
小石川諏訪町百六十坪餘

一、戊二月二日。鈴木亦之進上地
湯嶋天神下六十四坪餘

一、戊二月六日。井田良助上地之内
本所北割下水御幕同心町六拾九坪餘

同日。同斷
同所六拾九坪餘

一、戊二月十一日。石野善太郎上地
小日向江戶川端四百拾七坪餘

同日。同斷
駒込右衛門督殿上ヶ地九十六坪餘

同日。前同斷
右同斷

一、戊二月十六日。内藤十右衛門御預地
小石川白山御殿跡三拾坪

西丸奥醫師
多紀安叔
御預地。

西丸山里伊賀者
張谷利兵衛

御普請役
佐藤郷助

西丸御頭頭
北條新太郎

支配勘定
朝比奈藤八郎

小普請組
渡邊宗四郎

御作事下奉行
杉本金一郎

西丸御留守居
中根能登守正

表御臺所人格
天笠茂十郎

御留守居石河美濃守與力
青山庄兵衛

二丸火之番
出野金左衛門

豐藤省吾

菰田源三郎

古賀小太郎

加藤新助

太田資始

阿部正瞭

太田資寧

日向成襄

松平藤九郎

同日十三日。石野鶴之助上地之内
一、麻布網代町百貳坪餘

同日。前同斷
右同斷

一、戊二月十五日
學問所御構地柵矢來通八坪餘

同日十八日。松波傳右衛門上地
一、淺草元三十三間堂前五拾一坪餘

天保九戌年二月十九日

越前守殿水野。林阿彌を以御渡、備前守井上。請取。

御普請奉行。

阿部能登守拜領下屋敷本所小名木川通
五千七百坪

太田隱岐守拜領下屋敷巢鴨千八百五拾坪之内
六百坪

太田備後守拜領下屋敷駒込千駄木貳萬三千三百貳拾九坪餘之内
三百坪

松平藤九郎拜領屋敷深川小名木川通
九百五拾五坪餘

日向七郎拜領屋敷本所三ノ橋通り裏手菊川町
百坪

殷昌期

御作事下奉行
豐藤省吾

溶姫君様添番格御持
菰田源三郎

儒者
古賀小太郎
增拜借地

小普請方改役下役
加藤新助
屋敷書拔

太田備後守資始

阿部能登守正瞭

御留守居
太田隱岐守資寧

中奥御番
日向七郎成襄

西丸御書院番菅谷山城守組
松平藤九郎成襄

東京市史稿

勝部又十郎
長尾藤四郎
横地所左
松浦鉦太郎

長尾藤四郎拜領屋敷土手四番町四百坪之内
三百坪
勝部又十郎拜領屋敷表貳番町
貳百五拾坪
松浦鉦太郎拜領屋敷巢鴨火之番町
貳百坪
横地所左衛門拜領屋敷小川町裏猿樂町
三百坪

御小性組石川大隅守組
勝部又十郎
大御番永井信濃守組
長尾藤四郎
御書院番森川下總守組
横地所左衛門
小普請組後藤佐渡守支配
松浦鉦太郎

右願之通、屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致し。
同○天保九年二月廿九日

越前守殿○水野林阿彌を以御渡、備前守○井上秀繁。請取。
御普請奉行に。

土岐朝旨
酒井忠誨
渡邊藤右
佐々木五郎右
村上彌一
六郷忠五郎

酒井八十之丞拜領屋敷本所横川端
貳千坪
土岐豊前守拜領屋敷同所貳千坪之内
百坪
佐々木五郎右衛門拜領屋敷裏貳番町七丁目横町
四百貳拾九坪
渡邊藤右衛門拜領屋敷麻布仙臺坂下新屋敷
四百坪餘
六郷忠五郎拜領屋敷南本所三ツ目橋通り
貳百五拾五坪餘
村上彌一郎拜領屋敷深川富川町
貳百貳拾坪餘

御土岐豊前守に
火消役酒井八十之丞に
新御番米倉大内藏組與頭
渡邊藤右衛門に
御小性組石川大隅守組
佐々木五郎右衛門に
大御番船越駿河守組
村上彌一郎に
小普請組夏日向守支配
六郷忠五郎に

山名繁三郎
大久保鐵次郎
青沼五郎左
附記、鎌倉松ヶ岡駈込願

大久保鐵次郎拜領屋敷小川町裏神保小路
百貳拾坪
青沼五郎左衛門拜領屋敷小石川築地柳町五百四坪之内
貳百五拾貳坪
山名繁三郎拜領屋敷本所菊川町中之橋向貳百九拾七坪之内
九拾七坪
右願之通、屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致し。

大御番北條遠江守組
山名繁三郎に
小普請組丹羽五左衛門支配
大久保鐵次郎に
小普請組戸塚備前守支配
青沼五郎左衛門に
相對替御書附書拔

〔附記〕 鎌倉松ヶ岡駈込願

以飛脚申達し。其元娘いくと申女、山内へ駈入離縁寺法願い之付、様子相尋い得共、女之儀故一向相分り不申の間、此書狀着次第當山役所へ早々可被罷出し。尤其趣名主組頭にも可被相届し。此段申達し。以上。

此書付持參可被致し。

乍恐以書付御訴奉申上し。

一、南鞘町家主作兵衛奉申上し。私店卯兵衛娘いくと申、當戌○天保九年。貳十壹歳之相成いその、去酉年○天保八年。二月下旬小網町登丁目家主新藏妻乙差遣置い處、同○天保八年。三月上旬不熟之趣之立歸り、卯兵衛方は差置、離縁之義右新藏方へ度々掛合い得共、埒明不申、打過罷在い處、右いく義、當月○天保九年。廿三日不斗罷出相歸不申い之付、心當所々相尋罷在い内、相州鎌倉松岡御所へ同○天保九年。二月。廿四日駈入、離縁御寺法相願い趣之、右卯兵衛義罷出い様、昨廿六日○天保九年。二月。右御所へ御書付參い間、差遣申度、依之此段御訴奉申

松岡御所
役人
江戸南鞘町家主作兵衛店
卯兵衛

上。以上。

天保九戌年二月廿七日

御番所様

南鞘町家主	訴人
五人組	作
甚	兵
八	衛
藏	
名主新右衛門煩ニ付代	文

右之通御月番筒井伊賀守様○改へ御訴申上い得え、差遣い様被仰渡いニ付、御非番大草安房守様○高好にも御訴申上い。同月○天保八年二月晦日立歸いニ付、左之通御訴申上い得え、御聞被置い旨、被仰渡い。乍恐以書付御訴奉申上い

一、前文前書之通。

○先月○天保九年二月廿六日右御所御書付参り候間、翌廿七日御訴申上い得え、卯兵衛義差遣い様被仰渡いニ付、罷越い處、前書之始末御尋之上、娘いく願之趣聞届い間、立歸い様被申渡、昨晦日○天保九年二月歸着仕い間、此段御訴奉申上い。以上。

天保九戌年三月朔日

名前前書之通。

御番所様

一、南鞘町作兵衛店卯兵衛娘いく義、青物町治兵衛店神職兼子因幡媒人ニる、去西○天保八年二月中小網町壹丁目横町北藏店新藏妻ニ貰請い處、同○天保八年三月月中子細不知いく儀新藏に無斷罷出、所々相尋罷在い内、右卯兵衛方ニる見當、夫々掛合之上、いく離縁狀因幡に相渡い處、同人義右書付取落い事起り、彼是差違罷在い内、いく義松岡御所に駈入離縁寺法相願い由ニる、三月廿二日○天保九年高木常三郎と申役人名主

西丸火災
西丸火災事蹟

三月十日壬午

江戸城西丸

燒ク。

西丸火災

變災篇之ヲ記ス。

是時町火消亦救火ニ從ヒ、内一部ハ災後ノ土瓦取片付ヲ爲ス。

伊兵衛方に相越、寺法書付持参ニ付、新藏にも拜見爲致相辨、離縁狀一同連印、右御所宛ニる差出、右之段同○天保九年三月廿三日御月番北御番所に御訴申上、御聞置ニ付、南へ相廻い處、卯兵衛訴も有之ニ付、双方可訴出旨被仰渡い由、普勝通達ニ付、翌廿四日○天保九年三月一同罷出、書面差上い處、書面相混分り兼い間、小網町之方計ニる御訴可申、南鞘町ニ當月○天保九年四月朔日末御訴相濟い事故、調印之不及旨被仰渡い。

撰要永久録

天保九戌年三月十日曉七ツ時頃西御丸大奥御殿向御表御座敷向長局共不殘炎上ニ付、出役、町火消早速消防ニ相掛り、鎮火後壹番組貳番組之下火迄相鎮いニ付、格別出情致い段御譽有之、且上御粥被下い旨、坂下御門内ニる筒井伊賀守様○改我等に被仰渡い。人足共御門外迄引取いニ付、早速頂戴爲任可申旨御請申上、其後御粥二十四桶味噌二手桶御賄方役人差添、人足持参ニ付、我等壹人ニる請取い處、二番組人足共一同引取、持人無之ニ付、壹番組人足殘居い間、右組人足頭取に申談、我等宅迄持参、同夜○天保九年三月西丸下組人足ニ爲持参、七組世話番名主人足頭取に割渡、惣人足行事へ頂戴爲致い。右明荷桶二○天保九年三月手桶二、翌十一日○天保九年三月北御番所へ返上、御番所御賄方御返之積。

一、右御奉行様被仰渡相濟い後、無間も壹番組貳番組町火消人足共引取不申、直ニ西丸大手御門外に御沙汰有之い迄、晝夜共詰切居可申旨、被仰出い趣、人足改被申渡いニ付、早速通三丁目壽と申水茶屋に、貳番組七組人足頭取共呼集、世話番同役にも相達、一同人足召連、西御丸下に相詰罷在い。翌十一

殷昌期

七三七

戊○天保九年三月三月廿一日

名前前書之通。

右之通、樽藤左衛門殿の届書差出い。

以書付申上い。

一、當三月十日○天保九年三月西御丸炎上之付、焼瓦焼灰等取片付方、町火消壹番組人足共被仰付、同月○天保九年三月十日○天保九年三月十八日迄、日々五百人宛罷出い處、右貨銀御手當之儀、御尋之御座い。右之町々御國恩爲冥加御奉公筋と奉存相勤い義之御座い。併人足共一體町方取極賃錢之儀と、一日壹人之付錢三百文之極之御座い。御尋之付、此段申上い。以上。

戊○天保九年閏四月閏四月十日

町火消
壹番組
貳番組
世話番
世話懸
名主共。

右之閏四月八日○天保九年三月樽藤左衛門殿大塚益田千柄此方之尋之付、翌九日○天保九年四月世話番同役寄合相談之上、書面差出ス。

乍恐以書付申上い。

一、當三月十日○天保九年三月西御丸炎上後、同○天保九年三月十二日○天保九年三月十八日迄、壹番組貳番組町人足共、日々五百人宛、土瓦爲取片付差出可申旨被仰渡、日々罷出い始末、御尋之御座い。

此段三月十一日○天保九年三月夜樽藤左衛門方之る、明十二日○天保九年三月六半時捕之る、壹番組貳番組人足五百人宛、西御丸下御作事方御小屋場之差出可申旨、小口世話懸世話番名主之申渡い之付、同夜中一番組二番組

世話掛世話番名主共寄合、人足頭取共呼集メ申付、翌十二日○天保九年三月五百人宛罷出申い。

一、御場所柄之儀之付、右五百人之外之、人足頭取共、兩組之る四十人程宛付添罷出、毎朝御小屋場之て歛百挺并人足札五百人分請取、引取い節之入足札取集、御渡之歛共返上仕い義之御座い。且又焼灰瓦等取片付場所之儀と、定人足并壹番組貳番組と申札三ヶ所之御建有之、繩張之る日々御場所相分りい之付、右人足共打混不申い故、互之勵ミ合、御場所取片付申い。尤一番組二番組人足共と、御場所早く片付い故、定人足之日々先へ引取申い。

一、右御場所の日々一番組二番組之る申合、名主共日々廿二三人宛罷出、終日付添、混雜之儀無之様心付罷在い義之御座い。且御場所内之る人足共出情仕、如何敷儀及見聞不申い。

一、右人足共早出之る罷出い事故、朝晝兩度之辨當、町々行事共番人之爲持罷出い故、御門出入仕い義之御座い。尤明キ辨當箱持返りい節と、御作事方御役所之御届申御印鑑受取、御門之御斷申上罷歸い義之御座い。

一、三月十二日○天保九年三月十八日迄、町人足五百人宛、都合三千五百人之外、人足頭取共凡三百人程罷出い得共、右之御場所柄之事故、付添罷出い様、名主共之申付置い義之御座い。

一、三月十八日○天保九年三月主瓦取片付御用相濟引取い節、壹貳番組人足共名主共之、於御場所御作事御奉行土岐丹波守様○頼格別出精取片付い段御言葉被下い間、町年寄樽藤左衛門方之相届置申い。右御尋之付、此段申上い。以上。

天保九戌年五月十八日

品川町
名主庄右衛門

御番所

右之小普請方より出い焼灰取片付人足銀銅類持出しし者有之、御吟味中之處、町人足共格別出情取片付、如何敷義も無之、御奉行にも御満足之有之、右之付御場所之様子御尋有之旨、北御年番谷村源左衛門殿御尋之付書上い。

消防御場所書上

貳番組消防相掛御場所

一、西御丸御玄關前御門并左右。

一、御大廣間御車寄御作事方下小屋。

一、御書院二重橋續御多門。

同消留御場所

一、二重橋左之入、銅之堀并御茶屋御庭之橋。

一、御切手御門續御構御塀、御太鼓櫓邊消防仕い。

同相詰防い御場所

一、二重橋御門續御櫓。

一、御靈屋内。

右之通消防之相掛り申い。

一、御裏御門内并山里御庭共、貳番組一同下火鎖之方相勤申い。

右之外人足高月行事高出役名主名前北御番所之書上い。組合同役名前高野父子、和田倅、飯田、富澤。

一、五月八日○天保九年大草安房守様○高好被召出、左之通被仰渡い。

申渡

町火消壹番組

い組、よ組、は組、に組、万組。

同貳番組

ろ組、せ組、も組、す組、め組、百組、千組。

同三番組

て組、あ組、さ組、き組、ゆ組、み組、本組。

同五番組

く組、や組、ゑ組、ま組、け組、ふ組、い組。

し組、こ組。

同八番組

ほ組、わ組、か組、た組。

同十番組

と組、ち組、り組、ぬ組、る組、を組。

同深川南組

一組、二組、三組、四組、六組。

右

人足共。

月行事共。

町火消 番組

其方共儀、當三月十日○天保九年西丸炎上之節、早速駈付、消防之相掛、出情骨折い之付、爲御褒美一同の鳥目千貫文被下之。

千貫文被下之。

般昌期

町火消

番組

其方共儀、當三月十日^{○天保九年}西丸炎上之節、消防相掛り人足共の附添、出清骨折ゆ之付、爲御褒美一同の銀五十枚被下之。

二	番	組
三	番	組
五	番	組
八	番	組
十	番	組
深	川	南
名	主	共

町火消六番組
な組、む組、う組、ゐ組、の組、ね組。
同九番組
れ組、そ組、つ組、ね組。

右

人	足	共
月	行	事
名	主	共

其方共儀、當三月十日^{○天保九年}西丸炎上之節、六番組之御裏御門前、九番組之大手二重橋際の相詰、消防こそ不相掛ゆ得共、遠方之組合も有之處、早速駈付、一段之事ゆ。依之譽置。

町火消壹番組貳番組
人 足 共

其方共儀、西丸炎上鎮火後、下火高くゆ間、呼上爲相鎮ゆ處、猶又火氣鎮切ゆ迄、晝夜相詰、翌十一日^{○天保九年三月}夕七時迄罷在ゆ之付、爲手當兩組鳥目貳百五十六貫四百文とらせ遣ス。

二番組
月 行 事 共

其方共儀、西丸炎上後、下火爲鎮ゆ之付、人足共呼上ゆ處、附添罷出、水之手之世話いたし、且人足共翌十一日^{○天保九年三月}夕七ツ時迄引續爲相詰ゆ處、附添同様罷在ゆ之付、一同爲手當鳥目四拾壹貫貳百文とらせ遣ス。

町火消六番組
人 足 共

其方共儀、西丸炎上鎮火後、一旦引取ゆ處、下火も高くゆ之付、呼上遣ゆ節、早速坂下御門外に相詰ゆ處、一番組二番組之翌日迄詰切ゆ之付、御用無之爲引取ゆ得共、遠方之處呼上ゆ節早速罷出ゆ之付、爲手當一同の鳥目二十八貫文とらせ遣ス。

六番組
月 行 事 共

其方共儀、西丸炎上後、下火高くゆ之付人足共呼上ゆ處、早速附添、坂下御門外迄罷出ゆ處、壹番組二番組詰切ゆ之付、御用無之爲引取ゆ得共、遠方之處早速罷出ゆ之付、爲手當一同の鳥目五貫七百文とらせ遣ス。

町火消
一 番 組
二 番 組
名 主 共

其方共儀、西丸炎上後下火爲鎮い之付、人足共呼上い處、附添罷出、水之手其外差配いし、人足共詰切い節も、附添心付罷在い之付、爲手當二同の金二千六百五十疋とらせ遣ス。

六番組 名 主 共。

其方共儀、西丸炎上後、下火高くい之付、六番組町火消共呼上遣い節、遠方之處、早速召連、坂下御門外迄相詰い處、壹番組二番組翌日迄詰切い之付、御用無之爲引取い得共、呼上之節遠方之處早々呼集引纏罷出い之付、爲手當二同の金五百五十疋とらせ遣ス。

戌○天保九年五月八日

右之通被仰渡御褒美御手當頂戴之付、御廣間へ同役二同御禮罷出い。但、最初麻上下着用。南御廣間にも、小組にて一兩人宛罷出い申合、御組屋敷に大組方壹人ツ、之積。

乍恐以書付御訴奉申上い

一、町火消一番組外八組月行事并名主共一同、奉申上い。

當三月十日○天保九年西御丸炎上之節、早速駈付消防之相掛り出情骨折い之付、爲御褒美一番組二番組三番組五番組八番組十番組深川南組右七組人足并月行事に、鳥目千貫文被下之、右七組名主共銀五十枚被下之、六番組九番組右兩組人足并月行事名主共儀と、御裏御門大手二重橋に相詰、消防こそ不相懸い得共、遠方之處早速駈付い段御譽被置い。猶一番組二番組人足共儀と、鎮火後下火高くい之付、御呼上之相成、火氣鎮切い迄相詰、翌十一日○天保九年三月迄罷出い之付、爲御手當鳥目二百五十六貫四百文被下之、同組々月行事共同様附添罷出い之付、爲御手當鳥目四拾壹貫貳百文被下之、六番組人足共是又同様下火高くい之付

御呼上之相成い節、早速坂下御門外に相詰い處、一番組二番組之詰切、御用無之引取い得共、早速罷出い之付、爲御手當鳥目二十八貫文被下之、同組月行事に同様爲御手當鳥目五貫七百文被下之、且壹番組二番組名主共儀も、翌十一日○天保九年三月、鎮火迄附添罷出い之付、爲御手當金二千六百五十疋被下之、六番組名主共御呼上之節早速人足共引纏メ罷出い之付、爲御手當金五百五十疋被下之、一同難有仕合奉存い。爲御禮此段御訴申上い。以上。

天保九戌年五月八日

い組本石町壹丁目月行事 利 助

安針町名主

雄左衛門

貳番組七組惣代も組竹川町月行事 基 五郎

西紺屋町名主 六 右衛門

外七組 同 斷。

御番所様

右之通筒井紀伊守様○改の御訴申上い。

御褒美御手當割左之通、

一、鳥目千貫文

惣人數四千五十五人之割、壹人分貳百四十四文宛。

内、三千百四十七人 人足高。九百八人 月行事高。

一、鳥目貳百九十七貫六百文 一二番組へ別段御手當。

殿 昌 期

千貳百八拾貳人。人足 壹人分 貳百文宛。
四百十三人。月行事 壹人分 百文宛。

一、銀五拾枚

出役名主百貳十貳人之割、壹人分銀十七匁宛。

一、金貳千六百五十疋

一二番組名主六十壹人之割、壹人分銀六匁五分壹厘餘。

一、六月十二日○天保九年。大草安房守様○高好被召出、左之通被仰渡○天保九年。

壹番組町々

家持共。

當三月○天保九年。西丸炎上之付、燒灰瓦取片付人足都合三千五百人、爲冥加其方共町々之る相勤、人足賃錢小間

割を以差出度旨相願○天保九年之付願之通申付○天保九年。右躰人足差出○天保九年段、寄特之事之付、一同譽置。

町火消 壹番組

人足頭取共。

當三月○天保九年。西丸炎上之付、燒灰瓦取片付人足其方共申合付添罷出、取締方も行届○天保九年趣、一段之義之付、依之譽置。

町火消壹番組

左衛門

名主 雄

外廿八人

同二番組

右衛門

名主 八

外三十八人

當三月○天保九年。西丸炎上之付、燒灰瓦取片付人足其方共申合付添罷出、取締方も行届○天保九年趣、一段之義之付、譽置。

右之通被仰渡、難有奉畏○天保九年。仍如件。

天保九戌年六月十二日

乍恐以書付奉申上○天保九年。

一、町火消壹番組貳番組家持共名主共申上○天保九年。當三月十日○天保五年。西御丸炎上跡燒灰瓦取片付方、同○天保九年三月十日。同日同十八日迄、右組々人足共日々五百人宛罷出、無滯相勤○天保九年之付、今日安房守様○天保九年。御番所○天保九年被召出、人足共儀之、右取片付方出精相勤、家持共義之、右人足賃錢御國恩を存、爲冥加小間割を以差出、寄特成義之有之、名主共義之人足共○天保九年付添罷出、取締方行届、一同御譽被置○天保九年旨、於御白洲被仰渡、難有仕合奉存○天保九年。依之此段奉申上○天保九年。以上。

天保九戌年六月十二日

町火消壹番組地主惣代 駿河町家持次郎右衛門京都住宅之付店支配人專藏煩之付代 政 吉

同貳番組同惣代 通三丁目家持町醫周庵後見 宇 兵衛

同壹番組名主惣代 室町助右衛門煩之付悻 三郎兵衛

同貳番組同惣代 佐内町 名主 八右衛門

御番所様

殷昌期

右之通筒井紀伊守様○改に御訴申上い。

撰要永久録

屋鋪受授

十六日戊子

○天保九年(紀元二四九八年)三月。○戊子、三正綜覽。

屋鋪受授有り。外ニ是月

○天保九年(紀元二四九八年)三月。

若干屋鋪ヲ受授

ス。○屋鋪書拔。

屋鋪受授事

天保九年三月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

天保九戌年

大原陶太郎

戊三月十六日。右同斷○内田豊録上地割殘上地割之内

小十人三木勘解由組 大原陶太郎

新村藤兵衛

同日。右同斷

刑部卿殿側用人番頭兼 新村藤兵衛

鈴木莊五郎

同日。右同斷

御普請方 鈴木莊五郎

深谷盛房

同日。右同斷添地之渡

御勘定奉行 深谷遠江守○盛添地

志村只助

同日。右同斷

御臺様御侍 志村只助

船越景有

同日。右同斷

大御番頭 船越駿河守○景有

出野新三郎

同日。右同斷

油方同心 出野新三郎

沼田久左

戊三月十六日。右同斷

御勘定評定所留役 沼田久左衛門

關根正三郎

同日。右同斷

油方同心 關根正三郎

岩村昌兵衛

同日。右同斷

評定所書役 岩村昌兵衛

荒井精兵衛

戊三月十七日。山崎太平上地

小普請方 荒井精兵衛

横田孫兵衛

戊三月十七日。櫻田捨藏上地

御臺様御廣敷添番 横田孫兵衛

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

榊原駿河守組御徒 中村龍平○差辰

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

三科安平

徒組屋鋪

細川興德

水野忠義

松平齊善

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

關根正三郎

沼田久左

出野新三郎

船越景有

志村只助

深谷盛房

鈴木莊五郎

新村藤兵衛

大原陶太郎

屋鋪受授事

屋鋪受授

十六日戊子

右之通筒井紀伊守様

東京市史稿

右之通筒井紀伊守様○改に御訴申上い。

撰要永久録

十六日戊子

○天保九年(紀元二四九八年)三月。○戊子、三正綜覽。

屋鋪受授有り。外ニ是月

○天保九年(紀元二四九八年)三月。

若干屋鋪ヲ受授

ス。○屋鋪書拔。

屋鋪受授事

天保九年三月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

天保九戌年

大原陶太郎

戊三月十六日。右同斷○内田豊録上地割殘上地割之内

小十人三木勘解由組 大原陶太郎

新村藤兵衛

同日。右同斷

刑部卿殿側用人番頭兼 新村藤兵衛

鈴木莊五郎

同日。右同斷

御普請方 鈴木莊五郎

深谷盛房

同日。右同斷添地之渡

御勘定奉行 深谷遠江守○盛添地

志村只助

同日。右同斷

御臺様御侍 志村只助

船越景有

同日。右同斷

大御番頭 船越駿河守○景有

出野新三郎

同日。右同斷

油方同心 出野新三郎

沼田久左

戊三月十六日。右同斷

御勘定評定所留役 沼田久左衛門

關根正三郎

同日。右同斷

油方同心 關根正三郎

岩村昌兵衛

同日。右同斷

評定所書役 岩村昌兵衛

荒井精兵衛

戊三月十七日。山崎太平上地

小普請方 荒井精兵衛

横田孫兵衛

戊三月十七日。櫻田捨藏上地

御臺様御廣敷添番 横田孫兵衛

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

榊原駿河守組御徒 中村龍平○差辰

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

三科安平

徒組屋鋪

細川興德

水野忠義

松平齊善

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

關根正三郎

沼田久左

出野新三郎

船越景有

志村只助

深谷盛房

鈴木莊五郎

新村藤兵衛

大原陶太郎

屋鋪受授事

屋鋪受授

十六日戊子

右之通筒井紀伊守様

東京市史稿

右之通筒井紀伊守様○改に御訴申上い。

撰要永久録

十六日戊子

○天保九年(紀元二四九八年)三月。○戊子、三正綜覽。

屋鋪受授有り。外ニ是月

○天保九年(紀元二四九八年)三月。

若干屋鋪ヲ受授

ス。○屋鋪書拔。

屋鋪受授事

天保九年三月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

天保九戌年

大原陶太郎

戊三月十六日。右同斷○内田豊録上地割殘上地割之内

小十人三木勘解由組 大原陶太郎

新村藤兵衛

同日。右同斷

刑部卿殿側用人番頭兼 新村藤兵衛

鈴木莊五郎

同日。右同斷

御普請方 鈴木莊五郎

深谷盛房

同日。右同斷添地之渡

御勘定奉行 深谷遠江守○盛添地

志村只助

同日。右同斷

御臺様御侍 志村只助

船越景有

同日。右同斷

大御番頭 船越駿河守○景有

出野新三郎

同日。右同斷

油方同心 出野新三郎

沼田久左

戊三月十六日。右同斷

御勘定評定所留役 沼田久左衛門

關根正三郎

同日。右同斷

油方同心 關根正三郎

岩村昌兵衛

同日。右同斷

評定所書役 岩村昌兵衛

荒井精兵衛

戊三月十七日。山崎太平上地

小普請方 荒井精兵衛

横田孫兵衛

戊三月十七日。櫻田捨藏上地

御臺様御廣敷添番 横田孫兵衛

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

松平越前守○齊

同日。右同斷

水野出羽守○忠

同日。右同斷

細川長門守○興

同日。右同斷

榊原駿河守組御徒 中村龍平○差辰

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

同日。右同斷

御代官柴田善之丞手附 三科安平○御預地

三科安平

徒組屋鋪

細川興德

水野忠義

松平齊善

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

岩村昌兵衛

荒井精兵衛

横田孫兵衛

關根正三郎

沼田久左

出野新三郎

船越景有

志村只助

深谷盛房

鈴木莊五郎

新村藤兵衛

大原陶太郎

屋鋪受授事

屋鋪受授

十六日戊子

右之通筒井紀伊守様

東京市史稿

右之通筒井紀伊守様○改に御訴申上い。

撰要永久録

十六日戊子

○天保九年(紀元二四九八年)三月。○戊子、三正綜覽。

屋鋪受授有り。外ニ是月

○天保九年(紀元二四九八年)三月。

若干屋鋪ヲ受授

ス。○屋鋪書拔。

屋鋪受授事

天保九年三月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

天保九戌年

間、其段向々可被達い。尤西丸并右大將様御目付にも可有通達い。

四月廿日○天保九年

天保九戌年五月六日河内守殿○増山正繁御書取。明日○天保九年五月七日觸。

此度西丸御普請之付、万石以下御役人上納金相願い面々も有之い。誠ニ非常之儀故、左様可有之を勿論之事い。乍去無礙譯る累代之舊財等有之輩杯、同役之内上納金相願い之付るハ、其儘ニ之難罷在杯との意味合を以、上納金にたしい共、往々御奉公難勤續、退役等相願い様ニある、却る御忠節ニ不相成、思召にも不應事い。たとへ同役之内上納金相願い共、格別身上不如意之者も、觸面之通上納いへも、少しも身之恥辱等ニ不相成儀之い間、末永く精勤之儀を心懸い様有之度事い。

右之通年寄衆被及噂い段、最前相達い趣有之い間、觸面之外別段上納金之儀不相願い共、不苦儀之い處、觸面之割合も、聊員數相増、或之借財多之輩杯、無理成才覺を以、金子手段致し、上納金相願、右之付るも如何敷次第も可有之哉之相聞い。左いるハ、前書相達い趣意之齟齬致しい間、自己之名聞之拘り、上納金相願い儀も不可然旨、年寄衆被申い間、其段各支配之御役人ハ、早々可被達い。尤西丸并右大將様御目付にも、可有通達い事。

政保間記

十六日○天保九年三月○中略。西城營作にて紀尾兩家の家司をめして助役の事傳へられ、その他松平加賀守○前田齊泰、松平越中守○定水、酒井左衛門尉○器、小笠原大膳大夫○思、松平肥後守○容、酒井雅樂頭○思、松平隱岐守○定、藤堂和泉守○高、松平下總守○思、かつ井伊掃部頭○直。ともに助役の事命せらる。松平讃岐守○頼。こたひ西城炎上により、請ひて金二万兩をたてまつる。

廿二日○天保九年三月○中略。こたひ西城營作によりて、三家のかた／＼はじめ助手命せらる。よて萬石以下のともから諸職人番士寄合小普請五百苞以上は勤務不勤をいはず祿百苞に金二圓つゝ、五百苞以下百苞より上は、おかしく祿百苞に金一圓半つゝを、この冬○天保九年までに收むへしと命せらる。

廿四日○天保九年三月。西城營作にて、請ふまゝに寺社奉行のともから金三千兩を收納せしめられ、奏者番は助役の事命せらる。

廿六日○天保九年三月。西城營作により、請ふまゝに榊原式部大輔○政。は一萬五千兩、水野出羽守○思。は一萬兩を獻る。○下

廿八日○天保九年三月。阿部伊勢守○正。は、請ふまゝに二萬兩、秋元但馬守○久。は一萬兩の獻金を命せらる。○下

二日○天保九年四月。北條遠江守○兵。は西城營作により、請ふまゝに金一千二百兩を獻るべく命せらる。

三日○天保九年四月。松平甲斐守○柳澤。西城營作により、金三萬兩を獻る。○下

四日○天保九年四月。松平伊豆守○信。西城營作により、金一萬五千兩を獻る。○下

五日○天保九年四月。南部信濃守○和。西城營作により、請ひておのか領知の檜材延鐵をたてまつる。○下

六日○天保九年四月。松平大隅守○島津。西城營作により金十萬兩をたてまつる。○下

十二日○天保九年四月。西城營作により、榊原越中守は金三百兩、本堂内藏助は千兩、留守居駒木根大内記は二百兩、儒臣林大學頭は百兩をたてまつる。

十三日○天保九年四月。西城の事により、百人組の頭近藤石見守は金五百兩、中奥小姓加藤伊勢守は五百五十兩をたてまつる。○下

十六日○天保九年四月。西城營作により、内藤豊後守大岡紀伊守は五百兩、菅沼織部正は三百兩、大番頭石川伊豫守船越駿河守は二百兩、小普請奉行村瀬長門守は五十兩をたてまつる。また本多下總守は營作助役たるへしといへとも、請ふによりおさじく一萬兩を納めしめらる。

二十日○天保九年四月。西城營作により、高家畠山式部大輔は金五百兩、書院番頭大久保紀伊守は二百兩、森川下總守は千兩、高井但馬守は百五十兩、右大將殿書院番頭本多對馬守は千兩、小姓組番頭秋田淡路守は百五十兩、西城小姓組番頭酒井隱岐守は百兩、浦賀奉行太田運八郎は八十兩をたてまつる。

廿二日○天保九年四月。西城營作により松平隱岐守助役命せられたりといへとも、請ふまゝに金三萬兩を納めしめらる。おなじ事により、佐竹左京大夫は銅瓦ことく鑄立たてまつり、大久保仙丸は所領の石たてまつり、また酒井大和守は金二千兩、水戸家々司鶴殿平七は一萬五千兩、書院番會我伊豫守は二百兩、小笠原若狹守、小姓組番頭久貝因幡守、朽木周防守、西城小姓統番頭菅沼伊賀守、本多日向守、關播摩守、右大將殿小姓組番頭杉浦出雲守、徒頭石川太郎左衛門獻る。

廿四日○天保九年四月。西城營作により、九鬼長門守助役命せられぬといへとも、請ふまゝに金六千兩を納めしめらる。同じ事により高家宮原彈正大弼、畠山飛驒守、大澤右京大夫、浦賀奉行池田將監マ、。

廿五日○天保九年四月。西城營作により、高家横瀬駿河守、由良播磨守マ、。

廿七日○天保九年四月。西城營作により、小姓組番頭齋藤内藏頭、西城裏門番の頭筒井平右衛門マ、。

廿九日○天保九年四月。西城營作により細川越中守金八萬五千兩をたてまつる。西城書院番頭瀧川安藝守、高力丹波守、菅谷山城守、右大將殿書院番頭淺野壹岐守、日光奉行山岡但馬守、稻生出羽守、火消役酒井蟲之助、

寄合北條左衛門、深津彌左衛門、おさじく納金差あり。○下略。

四日○天保九年四月。西城營作により、加納遠江守は五百兩、高家武田大膳大夫は二百兩、織田大藏大輔有馬兵部大輔はおのく百兩、小姓組番頭逸見甲斐守、田安邸家司朝倉播磨守、渡邊能登守、清水邸家司本多佐渡守、三上筑前守、小普請組支配丹羽五左衛門、戸塚備前守、久留十左衛門、藤懸米女、夏目日向守、土屋伊賀守、右大將殿小姓組頭諷訪庄右衛門、飛驒郡代大井帶刀、代官山本大膳、川崎平右衛門、青山九八郎、大原左近、平岡又次郎、高山又藏、中奥番朝倉賢次郎、武田與左衛門、日向七郎、西城書院番岡部主税、松田善右衛門、おのく請ひて納金差あり。

五日○天保九年四月。西城の事により、松平出羽守金三萬兩をたてまつる。

八日○天保九年四月。西城營作により、有馬滿丸、建部内匠頭は六百兩、戸田隼人正は二百兩を獻る。又駿河町奉行牧野左衛門、先手頭立花丹下、寄合松平邦之助、淺野金之丞、伊丹駒次郎、酒井新三郎、西城小姓組鈴木兵九郎、富永主馬おのく納金差あり。

十日○天保九年四月。駿府城代大久保主膳正西城の事にて、金二萬兩をたてまつる。

十三日○天保九年四月。松平伊賀守はじめ西城營作助役の事命せられしが、寺社の奉行とかりしにて助役の事は免るされぬ。請ひて金三千兩をたてまつる。京都町奉行佐橋長門守、本多左内、先手頭梶川庄兵衛、西城裏門番之頭秋山祺左衛門、寄合片桐帶刀、おさじ事にて納金差あり。○下略。

十八日○天保九年四月。西城營作により寄合淺野金之丞金百兩をたてまつる。

廿二日○天保九年四月。西城營作により、大番頭永井信濃守金五百兩をたてまつる。その他佐渡奉行篠山十兵衛、

鳥居八右衛門、槍奉行中山五郎左衛門、森山安藝守、勝志摩守、三淵土佐守、西城旗奉行内藤近江守、同じき新番頭近藤頼母、武田兵庫、先手頭深津彌七郎、使番横山土佐守、書院番小笠原金十郎、松崎藤十郎、奥右筆組頭大澤彌三郎、田中休藏、寄合神保磯三郎、宮崎平四郎、使番横山土佐守父内記、清水邸用人紅林勘解由、本多左京、泉本正助、大番與頭横山伊左衛門、小姓組小栗又一、永見健次郎、西城小姓組戸田寛十郎、寄合宮崎平四郎子西城小姓組次郎大夫、兩番格村垣左大夫、清水邸物頭匠田兵庫、同じき小十人格河内仁三郎、おのゝ納金差あり。

廿五日天保九年閏四月西城營作の事により、駿府城番松平右近、山田奉行柴田日向守、百人組之頭遠山安藝守、中奥小姓仙石能登守、松平織部正、戸川因幡守、留守居番石川與次右衛門、高井主水、同じき次席勘定吟味役田口五郎左衛門、西城先手頭窪田主水、使番伊丹三郎右衛門、永井求馬、松平伊勢守、村上信濃守、書院番與頭向井六郎左衛門、小姓組與頭服部五郎左衛門、西城裏門番之頭小出大助、勘定吟味役中野又兵衛、村田幾三郎、根本善左衛門、寄合勝田龜次郎、小姓組大久保與三郎、西城小姓組保々監物、疊奉行江連小市右衛門、清水邸旗奉行伊丹次郎兵衛、おのゝ納金差あり。

二日天保九年五月西城營作により、松平大和守、松平主殿頭は一萬二千兩、大番頭戸田淡路守は五百兩をたてまつる。

十一日天保九年五月西城營作により、大坂定番米倉丹後守は金五百兩、大番頭松平但馬守は二百兩、横田筑後守は二百五十兩をたてまつる。その他長崎奉行久世伊勢守、中奥小姓戸田近江守、佐野大隅守、徳永伊豫守、伊澤美作守、諏訪備前守、留守居番下田幸大夫、先手頭本多主税、戸田久助、落合長門守、書院

番與頭神谷八右衛門、右大將殿書院番與頭久貝又三郎、小姓組與頭佐々隼之助、大河内金之丞、西城小姓組與頭間宮庄五郎、二丸留守居松平左衛門尉、田中龍之助、牧播磨守、金田帶刀、河尻甚八郎、井關縫殿頭、應匠頭内山七兵衛、戸田五助、寄合久世三四郎、一橋邸側用人兼番頭新村藤兵衛、同じ番頭兼用人青木傳八郎、同じ用人格山本太郎大夫、小姓組向坂清之助、淺野助右衛門、書院番戸川助九郎、西城書院番稻葉大膳、留守居番格應匠頭可兒孫十郎、一橋邸郡奉行飯田庫三郎、おのゝ納金差あり。

五日天保九年六月西城營作により、西城留守居朽木駿河守、新庄長門守、山中壹岐守、吉松土佐守、持筒頭小堀織部、中奥小姓大島甲斐守、津田美濃守、金田丹波守、水野出雲守、松平鷲三、岡部弟次郎、留守居番太田善大夫、西城小姓組與頭安藤八郎左衛門、右大將殿小姓組與頭田邊十左衛門、西城徒頭山中又兵衛、土屋帶刀、船手頭大久保與右衛門、二丸留守居中川忠五郎、山角市左衛門、寄合松平勘介、鍋島内匠、大岡兵庫、堀田彈正、秋月金次郎、本多主水、佐藤金之丞、御膳奉行明樂八五郎、鳥居市十郎、中奥番長崎彌左衛門、小姓組田中唯一、佐野宇右衛門、書院番宅間伊織、神保織部、大前總次郎、西城書院番村越茂助、曾根内匠、青木新五兵衛、川勝又兵衛、朝比奈六左衛門、寄合久志本左京、納金差あり。

九日天保九年六月西城營作により、松平土佐守請ひて金三萬五千兩をたてまつる。
廿一日天保九年六月稻葉丹後守西城營作により助役の事命せられしが、こたひ寺社の奉行をかねしより助役のかたは免されぬ。よて請ひて金三千兩をたてまつる。おなじ事により、松前隆之助は五千兩をたてまつり、その他大坂町奉行跡部山城守、堀伊賀守、中奥小姓小笠原下總守、大坂船手頭本多大膳、使番服部中、川勝舍人、書院番與頭本多兵庫、徒士頭朝比奈治左衛門、勘定吟味役川路三左衛門、寄合蒔田權佐、長

谷川利十郎、安藤裕次郎、書院番市戸助次郎父致仕主水、納金差あり。その他諸番士ら三十三人また同じ。略。○下

廿九日○天保九年六月○中略西城營造により、信濃衆和久主殿金二百兩をたてまつる。略。○下

二日○天保九年七月堺奉行曲淵甲斐守、中奥小姓青山内記、寄合宮城大膳、船橋勘左衛門はじめ、諸番士にいたりて納金差あり。

二十日○天保九年七月○中略西城構造により諸士納金の者多し。略。○下

十六日○天保九年八月奈良奉行本多淡路守、火消役酒井八十之丞、酒井采女、室賀兵庫、内藤惠之助、近藤織部、能勢帯刀、駿府勤番與頭大橋平左衛門、西國郡代寺西藏太、西城構造にて、おの／＼納金差あり。

十日○天保九年九月○中略西城構造により、松平三河守金箔を獻す。略。○下
——慎徳院殿御實紀

三月七日○天保十年○中略

西丸御普請ニ付上納金仕候旨相願ハ段達ニ御聽ニ奇特ノ事ト被ニ思召ニ候。依レ之願之通上納金被ニ仰付一ハ。

岩松滿次郎

右於躑躅之間、老中列座、同人○水野忠邦申渡之。

——柳營日記

同○天保九年三月十六日

一、此度西丸炎上ニ付御普請御手傳御三家方始、諸大名に上納被仰付一ハ由。

但し、水戸家ニ在リ、當日直ニ松板上納有之、外々ニ上納無之由。

一、兩御丸右大將様御附共、御老若方御普請ニ付依御願、御上納金被成由及承一ハ。

御老中方 金三千兩之由。

右御所様御附松平伯耆守様 金四千兩之由。

若年寄衆 金五百兩之由。

金六百兩の由。水井肥前守様。大岡主膳正様。

被仰出之外ニ、御側衆ハ別段上納金有之由。

右之通り之由及承一ハ。

同○天保九年三月二十四日

寺社奉行

右西丸御普請ニ付、金三千兩上納仕度旨、願之通被仰付一ハ。

御奏者番

右西丸御普請ニ付、御手傳被仰付一ハ。

右於芙蓉之間、老中列座、和泉守○松平乗寛申達之。略。○中

西丸御造營御手傳御上納、

御手傳。

同。

金壹萬五千兩。松板一万枚。松材木。

御手傳。

金十萬兩、

殷昌期

尾張大納言殿
紀伊大納言殿
水戸中納言殿
松平加賀守
松平大隅守

金箔。

溜之間

御手傳。

同。

金二万兩。

御手傳。

同。

金三万兩。

御手傳。

同。

大廣間

金三万五千兩。

金八万五千兩。

銅瓦。

金三〇兩。

御手傳。

松平大和守

井伊掃部頭

松平肥後守

松平讚岐守

松平越中守

酒井雅樂頭

酒井左衛門尉

松平隱岐守

小笠原大膳大夫

松平下總守

松平土佐守

細川越中守

佐竹右京大夫

松平出羽守

藤堂和泉守

檜、延鐵。

柳之間

若。

金六千兩。

金千貳百兩。

御手傳。

金六百兩。

金五千兩。

帝鑑之間

老。

金三千兩。

老。

右老。

金一萬兩。

金一萬兩。

石獻上。

金三千兩。

殷昌期

南部信濃守

堀大和守

九鬼長門守

北條遠江守

新庄主殿頭

建部内匠頭

松前隆之助

松平和泉守

松平甲斐守

脇坂中務大輔

堀田備中守

本多下總守

水野出羽守

大久保仙丸

牧野備前守

金一万二千兩。

金三千兩。

御手傳。

同。

同。

若。

御手傳。

同。

雁之間

老。

老。

老。

金一万五千兩。

老。

金三千兩。

金二万兩。

御手傳。

松平主殿頭

松平伊賀守

內藤紀伊守

土岐山城守

鳥居丹波守

小笠原相模守

松平玄蕃頭

堀田加賀守

水野越前守

松平伯耆守

太田備後守

松平伊豆守

土井大炊頭

稻葉丹後守

阿部伊勢守

戶田因幡守

秋元但馬守

青山因幡守

久世大和守

板倉周防守

安藤對馬守

永井肥前守

增山河內守

大岡主膳正

水野壹岐守

內藤豐後守

大久保出雲守

加納遠江守

林肥後守

酒井大和守

米倉丹後守

大岡紀伊守

金五百兩。

金五百兩。

金二千二百兩。

若。

金五百兩。

御手傳。

金五百兩。

菊之間

金千五百兩。

若。

若。

若。

同。

同。

御手傳。

金三千兩。

金一万兩。

若。

金五百兩。

金千兩。

金五百兩。

金千兩宛上納。

金五百兩宛上納。

金三百五十兩宛上納。

金三百兩宛上納。

金貳百五十兩宛上納。

金貳百兩宛上納。

金百五十兩宛上納。

金百三十兩宛上納。

金百貳拾兩宛上納。

本堂内藏助
本多對馬守

昌山式部大輔
大原左近

久貝因幡守

加藤伊勢守

横田筑後守

横山土佐守

宮城大膳

戸田近江守

森川内膳正

戸田淡路守

有馬滿丸

永井信濃守

森川下總守

松浦出雲守

蔦田權佐

神保磯三郎

拾壹人。

四拾三人。

大島甲斐守

菅谷山城守

諏訪備前守

安藤祐次郎

金百兩宛同。

金八十兩宛同。

金七十兩宛同。

金六十兩宛同。

金五十兩宛同。

金四十五兩宛同。

金四十兩宛同。

金三十兩宛同。

金貳十五兩宛同。

金貳十兩宛同。

金十五兩宛同。

但、百姓町人及大家之者に御用上金被仰付之。

四月朔日壬寅○天保九年(紀元二四九八年)○壬寅、三正綜覽。屋鋪ヲ受授ス。外ニ是月○天保九年(紀元二四九八年)四月。受授スル所ノ屋

鋪若干有リ。○屋敷書披。

屋鋪受授 天保九年四月若干屋鋪ノ受授有リ。

天保九戌年

殷昌期

屋鋪受授事

屋鋪受授

—藤岡屋日記

鈴木猪左
塚本五郎次
佐野甚内
加藤繁三郎
遠山景元
井上重左
村瀬岸右
田中順平
三浦平十郎
眞田幸貫
石原瀧次郎
酒井鐵藏

戌四月朔日。湊勝左衛門上地之内
一、青山權田原七拾坪餘
同日。前同斷
一、同所百坪餘
同日。石野鍋之助上地
一、青山三筋町六拾坪
戌四月朔日。湊勝左衛門上地之内
一、青山權田原七拾坪餘
四月三日
一、愛宕下藥師小路公事人腰掛地所
戌四月四日。中岡三郎上地
一、市谷火之番牛込富士見馬場共都合貳百九十八坪餘
(朱)
當五月廿九日貳百壹坪餘戸田阿波守添地之相成。殘地猶重左衛門に預定。
四月十日。平田翁助上地
一、小石川鷹匠町百三拾貳坪餘
戌四月十五日。松波傳左衛門上地
一、小日向茗荷谷九拾五坪餘
同月十五日。大島金藏上地
一、小日向築地裏通百六十五坪餘
戌四月十九日
一、麻布江戸見坂上組合辻番所地所
同月(○天保九年四月)十九日
一、赤坂築地三坪餘
(朱)
但深尾巳之助屋敷石原瀧次郎相對替之處、右屋敷續永御預地瀧次郎之預替。
同月(○天保九年四月)廿三日
一、小石川安房町拾四坪
但、曾根傳一郎屋敷酒井鐵藏屋敷前同斷。

西丸御臺所口石之間番
鈴木猪左衛門
御裏門切手番之頭伴藤五郎組同心
塚本五郎次
御作事方手代
佐野甚内
吹上御座敷方
加藤繁三郎
御勘定奉行
遠山左衛門尉景元
大御臺様御廣敷伊賀者
井上重左衛門景元
御預地。
御臺様御膳所御臺所人
村瀬岸右衛門
御普請役
田中順平
表御臺所人
三浦平十郎
眞田信濃守幸貫
西丸小十人山田三十郎組
石原瀧次郎
御小性組逸見甲斐守組
酒井鐵藏

鈴木清兵
中川半右
笹間秀藏
附記、
江戸大火

戌四月廿七日
一、本郷丸山貳拾坪
但山本寛兵衛屋敷鈴木清兵衛屋敷相對替之處、右屋敷續御預地。
戌四月廿八日。岩右衛門上地
一、本所林町六拾坪餘
戌四月廿八日。金左衛門上地
一、深川大和町六拾九坪餘

御留守居太田隱岐守同心
鈴木清兵衛
鈴木宇右衛門組黒鉄之者組頭
中川半右衛門差戻
鈴木宇右衛門組黒鉄之者組頭
笹間秀藏差戻
一、屋敷書拔

〔附記〕 江戸大火

變災篇之ヲ記ス。

十七日○天保九年四月○中略。この日未の刻はかりに、日本橋小田原町より火いで、神田のうちあなたこなた火うつり、門外武家邸宅も多く災にかゝり、丑刻ばかりに撲滅しぬ。すでに本城ハ餘烟を覆ひて、立退かせたまはんとせしが、まづその事なしに止みぬ。

——慎徳院殿御實紀

四月十七日○天保九年。晝九ツ時小田原町湯屋ハ出火也。南ハ日本橋川岸迄限り、西ハ御堀端限り、北ハ神田鍋町多町二丁目佐柄木町三河町四丁目、夫ハ屋敷町、小川町十の字内藤の通り迄焼ル。夜八ツ時ニ消るなり。風初富士南風、眞南風、八ツ半時頃より東南之風にて、大火ニ成也。
鎌倉川岸にて御城御普請小屋之材木多く焼失也。十の字内藤ハ小遣迄焼ル。但、三河町邊ハ鎌倉川岸、西神田本銀町紺屋町邊、假普請ハ不苦、本普請ハ可見合旨、被仰渡之。

但し、此節神田橋ハ筋違橋迄、眞直ニ往來付ルとの評判也。

——藤岡屋日記

食物商人取
締事蹟

廿九日庚午○天保九年(紀元二四九八
年)四月。○庚午三正綜覽。幕府食物商人取締ヲ令ス。○天保撰
要類集。

食物商人取締 天保撰要類集云フ。

天保九戌年四月二十九日水野越前守○忠殿御渡御書付

町奉行 御勘定奉行 行

近來町方又ハ在方ニ有、菓子類料理等、無益之手敷を相掛ケ、結構ニ致イモの共有之由ニ由。右之類其儘差置いてハ風俗益奢侈ニ相成、不可然儀ニ付、差留イ様可被致イ。都る食物類高直之品賣買ハ、まじき旨申渡、若不相用ニ有之由ハ、吟味之上、急度咎申付、且又食物商人追々相減イ様可被致イ事。一、往來ニ有無益之食物商イモの、近年増長致シイ段、不宜事ニ付、向後可成多ク相減イ様、可被申付イ事。

四月○天保九年

天保九年戌五月十四日越前守殿○田中休藏を以上ル。同○天保九年五月十五日承り付イ様、同人を以御下ケ。同○天保九年五月十六日町觸案並名主共ニ申渡案共、同人を以返上。同○天保九年五月十七日樽藤左衛門○町觸申渡。同○天保九年五月十八日名主共ニ申渡ス。

安房守殿○天保九年御扣

食物商人取締筋之儀取調申上イ書付

書面伺之通取計可申旨被仰渡、奉承知イ。

戊○天保九年五月十五日

筒井伊賀守○政憲 町奉行

近年町方又ハ在方ニ有、菓子類料理等無益之手敷を相掛、結構ニ致シイモの共有之由ニ由。右之類其儘差置いてハ、風俗益奢侈ニ相成、不可然儀ニ付、差留イ様可致イ。都る食物類高直之品賣買致スまじき旨申渡、若不相用ニ有之由ハ、吟味之上急度咎申付、且又食物商人追々相減イ様可致、且往來ニ有無益之食物商イモの、近年増長致シイ段、不宜事ニ付、向後可成多ク相減イ様可申付旨之御書付御渡、此上御觸之趣、虛文ニ不相成行届イ様、被仰渡イ。

此儀、御沙汰之通、近年世上奢侈超過致シイ儀ハ無相違、別る衣食之類甚敷、食類之儀ハ、生命を養イ物ニ得共、當時之如ク有ハ、詰り口腹之慾を恣ニ致シイ事ニ有、奢侈申内、衣類諸道具類ハ、後代ニも残り、又品々高直成ハ、忝合宜敷、夫々保方便ニ有之ハ譯違ハ、追々新製之品工夫致シ、詰り風味之上品、仕立之風流等を賞シイ迄之儀ニ有、實ニ無此上無益之事ニ有之、乍併只今迄數年來追々超過致シ來イ事ニ得共、米穀鹽味噲酒杯之日用雜關品違ハ、高直成迎、世上及雜儀イ程之儀ニも無之間、今更古來ニ立戻リ、悉ク龜末之品而已ニ申付イハ、差支之儀も可有之、且習俗人情ニも悖、行はれざる様ニ有、却る無詮儀ニ有之、其上唯犯科之もの多ク可相成哉ニ有、是又不穩事ニ有之、畢竟ハ前々觸之趣も有之由所、新製初物及手敷相掛ケイ品、格別珍敷、時時らざる品等を用イ故、直段も高直ニ相成イ事ニ御座イ間、別紙之通町觸致シ、猶世話懸リ名主共ニ、別紙之趣申渡、時々心附、厚く世話爲致イハ、行届可申、且商人減方之儀ニ、是迄表店之分計町年寄方○名前爲差出讓渡等届來イ得共、裏店又ハ掛床ニ有商賣致シイ分ハ、員數之外ニ有之由間、一同相調、減方可仕イ得

共、夫之るハ俄ニ商賣ニ離れ、連年大火凶作等ニテ勞シ町方之もの共、難儀當惑可仕、其上右様相成ハハ、又々其人數株式之様ニ心得ゆる、流弊も可生哉ニ付、御宥恕を以、先其儘被差置、此後不相増様申付、讓渡之儀ハ、町年寄方ハ名前帳差出ハ分ハ、先年極之通、父子兄弟之外不相成積取極置、右之外死失欠落等ニる、相續人無之、或ハ答請ハ分ハ減切ニ致シハ管ニ定メ、裏店又ハ掛床等ニテ商賣致シハ分ハ、名主共方ニ右振合取計、支配限リ食類商人共銘々ハ篤ヲ爲申諭、万一申渡しを相背ハもの、又ハ讓渡方等之儀差障、出入杯ニテ訴答申ハ寄相顯ハ分も、觸後之儀ハ、吟味之上答申付、以來食類商賣差留ハ様仕ハハ、其度毎相減可申哉。尤右之趣相背、紛敷取計相顯ハハ、急度沙汰可有之儀ニ付、銘々心得違無之様、厚ク爲申諭ハハ、行届可申哉ニ奉存ハ。

一、家臺見世ヲ唱、往還ハ家臺差出、食類商ハハもの、近來ニ夥敷相成申ハ。是ハ食類商人前々取調ハ外之もの故、勝手儘ニ相増ハ儀ニ御座ハ間、前々差出来ハ兩國廣小路邊所々橋詰或ハ廣場等ハ差出来ハ分ハ、其儘差置、其外町々往來ハ追々出来ハ類、近來相増ハ分ハ、糺之上可相成又爲相止、可然哉ニ奉存ハ。乍併一體食類商之儀ニ、聊之元手錢ニるも、雜菓子團子油揚鮮等之類、龜末之品ニる、相應商ニ相成ハ故、裏店住居之もの之妻子或ハ後家老人子供杯ニるも、右家臺見世ニる聊之商ハ致シ、其日を送リハもの多クハ間、俄ニ差留ハハ、右類ハ渡世ニ離レ難澁可仕ハ。乍併近來ハ家臺見世も追々超過致シ、種々之新製物或ハ高直之品取扱、入物杯も立派取器物ヲ用ハハ類ヲ相見、右等々其日稼之もの取續ニ商ハハ趣意ニ相見不申ハニ付、爲相止ハとも、難澁可及事ニも無之ハ間、右様之類ニ、糺之上爲相止、其餘ハ此上不相増、減シハ分ハ減シ切ニ致シハ積取計ハハ、追々相減可申哉ニ奉存

ハ。依之町觸並町々名主共ハ之申渡案相添、此段奉伺ハ。以上。

戊○天保
九年五月

筒井紀伊守○政
大草安房守○高

町觸案

近來町方又ハ在方ニる、菓子類料理等無益之手數ヲ相掛ケ、結構ニ致シハもの有之由、風俗奢侈ニ相成、不宜ハ。武家方ハ誂之分ハ格別、其外高直之品賣買致間敷ハ。若不相用ハもの有之ハハ、吟味之上、急度答申付ハ條、此旨町中不洩様可觸知ハもの也。

右之通從町御奉行所被仰渡ハ間、食物商賣人共ハ不及申、町中家持借家店借裏々迄、不洩様可觸知ハ。

戊○天保
九年五月
名主共ハ申渡案

此度食類之儀ニ付、町觸申付ハ間、名主共支配限、精々申諭、厚ク世話致シ、此上心得違之もの無之、御趣意行届ハ様可取計ハ。乍併當時之人情時習ニるも、年來之習風ニ成ハ得也、俄五七十年前以前之如クニ相成間敷、却る差支之筋も可有之哉。畢竟ハ前々度々町觸申渡も有之ハ得共、有ハハ品ニ珍ハ様相心得、種々新製之品ヲ製シ、無益之手數相掛、或ハ初物ヲ唱、時取らさる品ヲ遣ハ、高價之種物等相用ハ故、自ら直段も相増ハ儀ト相聞ハ間、以來新製初物ニ共、下直成ハ格別、高直之品ハ取扱不申、是迄有ハハ品直段ニ致シハ様申諭、無益之手數、時節違之初物等不相用、格別高直之品商ハ不申様、町々名主共ハ支配限、精々申聞、猶違失不致、急度相守ハ之様、其方共ハ組合限時々心附、行

届の様可取計い。万一相背キ、格別高直之品商ひいもの有之趣相聞い、吟味之上、急度申付間、是又相心得、御趣意行届い様、取計可申い。

但、食類商人取調改方之儀ハ、町年寄共得差圖、可取計い。

天保九戌年五月二十七日樽藤左衛門方まで申渡

申渡

組々世話掛
名主共

食物商人之儀、去々申年天保七年。親子兄弟養子之外までも差障無之分も、讓替可申出旨、申渡置い處、此度食物之義ニ付、町觸并被仰渡有之御趣意を以、先年極之通、親子兄弟養子之外、讓替不相成、死失欠落等之相續人無之、或ハ御咎請い分ハ減切之いさしき管ニ定メ、其時々可申立、右之外裏屋又ハ掛床助成地内等之、食物商賣いたし分ハ、名主共方にて右振合ニ取計、支配限食類商人共銘々ハ、篤申論、万一申渡を相背い者、又ハ讓渡等之儀ニ付紛敷取計有之得ハ、御吟味之上、急度御沙汰可有之の間、心得違無之様、精々申論、猶此上減し様相心得、名主支配限進退可致い。

一、家臺見世与唱、往還の家臺差出、食類商ひいもの、近來夥敷相増い。右ハ其日稼之者爲取續、聊之品商ひい儀有之い處、中ハ右商ひ不相當之高直之品取扱、入物杯も立派成器物相用い類も相見い、右等ハ其日稼之もの取續て商い趣意ニ相見い不申、不埒之至之い間、以來相止メ可申い。且前々出し來い兩國廣小路邊、所々橋詰、或ハ廣場等ハ差出來い分も、其儘差置、此上不相増、減し分ハ減限之い多し積相心得、名主支配限銘々商人共ハ申論い様可致い。

右之趣、組々ハ勿論、月行事持之場所ハ、寂寄世話懸り名主共ハ、不洩様可申通い。
右之通被仰渡、奉畏い。爲御請御帳ニ印形仕置い。以上。

天保九戌年五月廿七日

組々世話掛
壹番組本銀町名主 惣 藏印

本町三丁目名主 左衛門印 貳番組堺町同 五郎兵衛印

村松町同 源 三印 三番組淺草新島越町同兵藏煩ニ付倅 四郎 八印

淺草平右衛門町同平右衛門外御用ニ付代 彌平 次印 四番組吳服町同三郎右衛門煩ニ付代 助印

西河岸町同清右衛門煩ニ付代 嘉 七印 五番組鈴木町同 源 七印

南傳馬町同 新右衛門印 六番組銀座町同權兵衛外用ニ付代 伊三郎 印

同町同佐兵衛煩ニ付代 半兵衛 衛印 七番組上柳原町同 善三郎 印

八番組柴井町同 八郎右衛門印 番外品川をも 藤 八印
可相心得い。

麻布永坂町同次郎左衛門外御用ニ付代 伊助印 十番組麻布櫻田町同十兵衛煩ニ付代 喜兵衛 衛印
拾九番組をも 可相心得い。

十二番組神田佐久間町名主 源太郎 印 十三番組谷中町同忠次郎後見助左衛門煩ニ付代 五郎兵衛 衛印

十四番組小石川春日町同 小石川金杉水道町同市郎右衛門煩之付代 平印
 長 左 衛 門 文
 十五番組市谷田町同左内煩之付代 四谷傳馬町同 茂 八 郎 印
 兵 三 郎 印
 牛込改代町同 拾六番組本所線町同
 三 九 郎 印 拾八番組をも
 同所徳右衛門町同 可相心得之。 長 兵 衛 印
 太郎 兵 衛 印 拾七番組深川海邊大工町
 同所熊井町同理左衛門外御用之代 助印 二十番組雜司谷町同平次左衛門煩之付代
 武 助印 半 次 郎 印
 柏木成子町同紋右衛門煩之付代 忠 次 郎 印

天保撰要類集

組々世話懸リ 主 共

組々世話掛名 主 印

組々世話掛リ 主 共

此度食類之義之付町觸申付の間、名主共支配限精々申諭、○下略。前記名主共被申渡案ニ同ジ。

右之通被仰渡、奉畏い。仍如件。

天保九戌年五月十八日

右之筒井紀伊守様○政被仰渡い。

申 渡

食物商人之儀、去々申年○天保七年。親子兄弟養子之外なるも、差障無之分之讓替可申出旨、申渡置い處、○下略。前記申渡

成○天保九年。五月廿七日

右之通樽藤左衛門殿被申渡い之付、左之通伺書差出い。

今般被仰渡御座い食類商人之内、裏屋又之掛床助成地内等なる食類商賣人之振合を以、名主共方なる取計可申旨被仰渡、尤調方之儀を、町々人別帳店主渡世書を以相調可然旨、御沙汰之御座い處、多人數之内、店主之日雇稼等仕、家族之者食物商ひ致い分も可有之の間、人別帳なる取調いハ、洩い分も出来、調方行届兼可申奉存い。依之裏屋掛床助成地内等にて食類商賣致居い分、當時有委取調、別帳の名前認置、親子兄弟讓替等相記置い様仕度、左いハ、追々減い人數も相顯可申奉存い。尤是迄裏屋并掛床助成地等に出い食物商人も、調外之義之付、勝手次第新規相始い義之御座い處、書上有之い食物商人同様之、名主共手元なる取調い様被仰渡い義之付、以來人數之外、已後新規決る不相成い段、支配町々之申渡置い様可仕、且又表店に出い書上之を同様渡世仕義不相成旨、是又心得違無之様申渡置い様可仕奉存い。且家臺見世之義を、其日稼之を共爲取續商仕い義之付、立派成器物杯相用、高直之品商いなる不相當之付、爲相直い様可仕得共、多く之裏屋住居之者共なる、家族多之者杯、晝之内日雇其外出稼仕、夕刻罷歸家臺見世等差出し商仕い類有之、全妻子爲扶助種々之稼方仕、中々之兩三ヶ月之内之渡世替致い者共御座い間、相休い者共時々減切之仕いハ、輕キ者共差支難澁可仕哉之奉存い。以來高直之品商ひ不爲仕其餘妻子扶助之爲相當之品商ひい分を、是迄之姿之差置い様、御聞濟被成下いハ、輕キ者共御救一助之

般 昌 期

七七七

も相成、難有奉存也。此段奉伺也。以上。

戊○天保
九年。五月

組
世、
話
掛

今般食類之義ニ付御觸并被仰渡御座也付、町々食物商人共ニ御觸被仰渡之趣、一同申聞、奉畏也。依之名主共取扱心得方申也。

一、料理茶屋等ニ有、魚青物類時候違之品并手數相掛ケ高直之品、以來爲取扱賣と爲仕申間敷也。前と有振也品取扱、商賣爲致也様心得可申也。

一、菓子類、近頃新見世并別ニ新製工夫致し、景曜之手數相懸ケ高直之品、已來賣と爲仕申間敷也。古來之菓子屋共、仕來之品相製賣と爲致也様、精と心付可申也。

但、何きも御武家方々誂之品也、別段之義ニ有之也。

右之通、同役中以來之心得方書取を以、樽藤左衛門殿ニ申立也處、御伺之上、前書之通相心得可然、尤裏屋又ハ懸ケ床助成地内等ニ有食物商ニ致居也分、名前別帳ニ不記置也有と調方届兼可申、併西之内帳面等ニ當人共印形杯取事々敷仕立置也、株式之様ニ心得違可致義ニ付、名主支配限、半紙帳ニ名前記置取計也、無印可然旨被申聞也間、右御心得御取計可被成也。且當人死去病身等ニ有、親子兄弟之その跡渡世致也ハ、是又名前上ノ右譯認、名前書改置可申、何きも株立不申、此上不相増様、御心付可被成也。

一、家臺見世之義也、其日稼同様之義、年中商ニ致也義も無之、時候ニ隨ヒ賣之の杯違也義も有之也間、當時有姿也いし置、尤家臺見世不相當高直之品等賣と不致様、精と右組合區とニ不相成様、得と

御申也、月行事持場所ニ寂寄御同役ニ有御心付可被成也。此段御達申也。以上。

戊○天保
九年。六月廿日

南北小口
世
話
掛

是迄樽藤左衛門殿ニ書上來候食物商賣人讓替等、已後被承届也廉、左之通可有之也。

一、父々妻子養子共、子々父也、兄々弟也、弟々兄也相讓、承届可申事。

一、病死跡、前同斷。

一、欠落跡も同斷。

一、他所ニ居也有、親子兄弟養子也ハ、前同斷。

一、他所住家ニ有店支配人付置也分、支配人替也當人ニ不拘也間、都る是迄之通、已後他所ニ住宅ニ相成新規ニ支配人相付也儀也如何ニ付先見也、他所住宅ニ有相續以來之分也是迄之通。

一、幼年ニ有後見付置也分、後見替是迄之通、尤已後十五歳已下ニ後見ヲ付可申事。

一、所替當人印形改改名等、都る是迄之通、連印也ハ、承届可申事。

一、當人久離、養子離縁等ニ有、悴又父也讓替之筋ニ相當也有、書上振合相替也分申出也ハ、其節伺之上可取計事。

右之趣也。

戊○天保
九年。六月

右ニ樽藤左衛門殿ニ有被取扱方ニ有之、爲御心得御達申也。以上。

六月廿日○天保
九年。

南北小口
世
話
懸
り

節約令

晦日辛未天保九年(紀元二四九八年)四月。○辛未、三正綜覽。

幕府諸士二三箇年ノ節約ヲ令ス。

政保間記。御徒方萬年記。

節約令事蹟

節約令 政保間記其他ニ據ル。

天保九戌年四月晦日、相模守殿○小笠原長親。來月○天保九年四月。六日觸。

近來質素節儉之儀取失ひ、專外見をのみ心懸、奢ケ間敷族も有之哉ニ相聞い。右之風儀ニ有之い得と、おのつら勝手向も不如意ニ相成い。勤向并武備等之心掛、家中領内之手當迄も心底より不任様ニ可相成哉とい。常々儉素といふも、不如意とい者ハ、不及是非い。儉素之儀を心懸不行届い、不如意之儀而已相敷いハ、一己之不覺悟ニい。

享保年中被仰出い通、衣食を勿論、嫁娶之規式、饗應并普請其外道具類、及び供廻り等之儀迄も、堅く相守、專儉素相用い、下々風儀之手本ニ愈厚可被相心掛い。

右之趣、可被相觸い。

八月○天明七年。

万石以下御旗本之面々に申聞い覺

一、衣服諸道具等、隨分有合を用い、古くいも見分無構可用之、新規之義可爲無用い。朔望廿八日其外御規式等之節々格別、平日ハ白小袖着用ニ不及い事。

但、上着ニ唯今迄島類着用無之い。向後有合可着用事。

一、家來之衣類、猶以見苦い共取用い程ハ可用之、并綿布取交い共、いつきを勝手ニ能様可申付い。尤女之衣服可爲同前事。

一、家作等不急儀ニ無用之事。

一、惣公儀に懸い儀ニ格別、家督嫁娶を始、一類中之贈答、唯今迄之半分たるべき事。

一、家督嫁娶之振舞ハ、近年御定之趣を以、猶又軽く致せし。其餘之祝儀ニハ、吸物盃計ニ、振舞無用とい。小身之輩ハ、一向ニ吸物盃計ニあるべき事。

但、常之參會、平日用い給物之外、取締申間敷事。

一、可成程ニ知行所之者召置可然い。惣公相對ニ召置い者も、何様にも用事辨じいハ、男振無構可召置事。

右之通、三ヶ年急度可被相守い。以上。

二月○享保十六年。

右享保十六年被仰出い趣、猶又心得之爲相觸い。近年衣類飲食無用之費而已多く、簡要之心懸之儀ハ薄く相成、并定之人數等を不足ニ有之い類も相聞い。畢竟本末取失ひい事とい。能々可被相心懸い。

未○天明七年。八月。

右之通天明七末年相觸い處、近來忘却致し、衣食住共奢侈相慕、又い供連等之外見を飾り、自然困窮ニ及ひい族も有之哉ニ相聞い。殊此度西丸炎上ニ付るハ、莫大之御入用ニい間、公儀も格別御儉約被仰出い事ニい得と、何も厚く心を用ひ、來々子年○天保十一年。迄三ヶ年之間。嚴敷省略可被致い。且又右年限中ハ、供連之儀、一統格外ニ省略致、減少之趣等、銘々大目付御目付に相届い様可被致い。尤衣類等隨分儉服を着し、召連い家來共衣類、見苦敷いを苦しからせい。都る無益の費を省き、武備非常之手

當、專一之心懸可被申也。

右之通可被相觸也。尤西丸并右大將様御目付にも可有通達也。

四月○天保九年

——政保間記

天保九戌閏四月九日御渡。大御番頭衆。

此度御儉約被仰出候に付ても、万夏御觸面之通相心得候義ハ勿論之義に候へ共、一體是迄衣食住之奢侈相募、自然困窮におよひ候向も有之哉にて被仰出候間、銘々年限中ハ嚴敷質素相守、月切駕籠願濟之者も病氣快候ハ、可成又馬上にて相勤、都て省略致し、儉約厚行届候様可被致候。右に付るハ、伴連も相減し、相減候人數可被申聞候。

右之通越前守殿○水野被仰渡候間、人數減候書面、拙者共之内に御差出可有之、依之申達候。以上。

閏四月○天保九年

初鹿野 河内 守○信政

神尾 豊後 守○守富

大澤 主 馬○信豊

水野 舍 人○思一

別帯

此度來々子年迄○天保十二年三ケ年之間嚴敷儉約相用候に付るハ、衣食住ハ不及申、召連候者迄も格外省略致し、衣類も随分鹿服ヲ用ひ、見苦敷候共不苦、家來之衣類ハ、綿布取交候とも、何レにも勝手能様可被致候。右に付るハ聊こても花美形容成義無之、質素節儉に相慎候義ハ勿論之事項得共、若心得違にて等閑に致し、御觸之趣不相守御沙汰も有之候て、如何に付、彌厚く儉素行届、目立候様可被心掛候。右之趣、拙者共も可申達旨、越前守○水野被仰渡候付、此段申達候。以上。

閏四月○天保九年

初鹿野.....

神尾.....

大澤.....

水野.....○中

閏四月○天保九年
御老中方

御駕籠脇 二人減、 六人。

御徒 同 斷、 六人。

押 一人減、 四人。

合羽籠 二荷減、 五荷。

御供挾箱 一ツ減、 四ツ。

若年寄衆

御駕籠脇 一人減、 四人。

平日 御曲輪外廻リ之節ハ 同 斷、 五人。

御徒 同 斷、 五人。

押 同 斷、 三人。

合羽籠 一荷減、 四荷。

般 昌 期

一、井伊掃部頭殿○置。駕籠脇十二人之處ハ八人、徒士十四人之處八人之相成、下々右準○辭シ可成丈被致減少、尤非常并遠方ハ被相越候節ハ、相増召連候義も有之由。是迄御拜領之馬并自分牽馬共平日三疋ツ、被爲牽、格立ハ節ハ三疋被爲牽候處、供連之義被仰出候ニ付、馬ハ御拜領之馬取交平日一疋ツ、格別出立候節ハ三疋被爲牽候由。

一、今般御儉約被仰出候付、供家來衣服省略之義被仰達。奉承知候。以來絹木綿縮小紋取交致着用候様申付候。此段御届申上候。以上。

閏四月廿日○天保九年

一、松平伊豫守○池田齊敬。供連減少御届

供連減少覺

一、跡乘 二騎。

右相減申候。尤跡乘之者、駕籠之跡ハ召連申候。

十三人之内 四人減。

一、駕籠脇 九人之内 三人減。

一、先 供 壹人減。

一、茶坊主 壹疋減。

一、二疋之内 壹疋減。

一、供馬 壹疋減。

一、三本之内 壹本減。

一、十九荷之内 三荷減。

一、合羽籠 三荷減。

一、供家來之衣服之義履服相用、徒以下絹木綿取交爲相用申候。右ハ今般被仰出候趣ニ付、伊豫守○池田齊敬。供連之内右之通來々子年○天保十二年迄三ヶ年之間相減申候。此餘惣供之者多人數省略仕候。尤式立候節ハ、是迄之通召連候心得ニ御座候。勿論年限相立候上ハ、家格之通召連申候。此段御届申上候。以上。

五月十日○天保九年

松平伊豫守家來
山内 權左衛門

一、松平大隅守○島津齊興。御府内召連候供立之内、此度ハ一往相減、左之通。

一、力 番 二人。 一、駕籠脇 十人。

一、先供中小性○辭 八人。 一、小人頭 二人。

一、外○一人、此度ハ一往減少仕候。 一、仕坊主 一人。

一、足輕并小人 二十四人。 一、六尺并中間 二十七人。

一、人 足 三十二人。 外○二人、前條同斷。

一、又 者 六十三人。 外○二人、前條同斷。

爲持道具左之通。 但、持人之義、前條人數之内ニ御座候。

一、先挾箱 二。 一、對 鐘 七八五

- 一、長刀 一本。
- 一、立傘 一本。
- 一、跡挾箱 二。
- 一、桐油箱 一。
- 一、兩掛 壹荷。
- 一、合羽籠 十五。 内、壹ッ兩掛、内四又供用。
- 一、跡乘馬 二疋。
- 一、供 鐘 二本。 外、一本、此度一往減少仕候。外ニ飼料桶 一荷。前條同斷。
- 一、手鐘 一本。
- 一、茶辨當 一。
- 一、簀箱 二。
- 一、牽馬 壹疋。
- 一、沓籠 二。
- 一、供馬 壹疋。 外、一疋、前條同斷。前條同斷。
- 一、狹箱外 二十一。

右ハ此度御儉約被仰出候ニ付、供連人數致減少、其段可申上旨、御達之趣承知仕候。別帛申上候通、天明八申年ノ減少仕置候故、此上格別減少之義調兼申候。乍然分る御達之趣御座候ニ付、此度前條外書之通、尙又一往減少、追てハ先規之通召連可申候。尤豊後守○島津齊彬儀も同様召連申候。左候る供方之義も鹿服用候様申付候。此段申上候。

松平大隅守○島津齊興内

閏四月十三日○天保九年

- 一、此度相減召連候供人數 拾七人。
- 一、刀番供頭駕籠脇徒迄

右之者共着服絹袖袴棧留川越平類、或ハ綿服取交着用爲致候事。

- 但、是迄ハ二十三人召連申候。
- 一、牽馬 壹疋。
- 一、押足輕以下下供迄 八十二人。
- 但、是迄ハ百十人召連申候。
- 都合惣人數九十八人。

右ハ此度御達ニ付、當戊年○天保九年ノ來々子年○天保十一年迄三ケ年之間、書面之通減少召連申候。式立候節、或ハ遠方廻勤等之節ハ、駕籠脇其外人數相増候義も御座候。且非常等之節ハ是迄之通召連申候。此段申上候。以上。

閏四月廿三日○天保九年

小笠原大膳大夫○忠國内

- 一、此度相減召連候供人數
- 一、刀番駕籠脇徒迄 十四人。
- 右之者着服、絹袖袴棧留川越平類綿服をも用候矣。
- 但、是迄二十二入召連申候。
- 挾箱前後簀箱共五ツ之處跡箱二ツ減。
- 一、先挾箱并簀箱共 三。

一、牽馬是迄一疋爲牽甲候。

三荷之内壹荷減。

一、兩掛 二荷。

拾荷之内三荷減。

一、合羽籠 七荷。

二人之内一人減。

一、用使 壹人。

六人之内一人減。

一、押 五人。

一、手廻小頭以下下供迄 七十七人。

但、是迄八百二人召連申候。

都合惣人數九十一人。

但、是迄惣人數百二十四人召連申候。

右之外裝束にて兩山參拜之節ハ、刀番之馬三疋、其外人數相増候儀も可有御座候。且非常之節ハ、是迄

之通召連申候。此段申上候。以上。

閏四月廿一日○天保九年

酒井左衛門尉○忠器内

天保九戌閏四月二十二日御目付大澤主馬殿○信へ差出。

覺

一、御城に差出候使者、御役所向へ差出候使者、式立候外、平日ハ袖太織類取交着用不苦義ニ御座候哉。

一、御大老様御老中様若年寄様方差出候使者、袖太織綿服取交着用仕不苦候哉。

一、内櫻田御門番并西丸大手御門番被仰付候節、式立候外、平日ハ番士袖太織類取交着用仕、徒士綿服取

交、羽織も小紋取交着用仕、且遠御成之節平伏罷出候家來、袖太織小紋寫類取交着用不苦候哉。番士袴之

義ハ、前々々棧留相用、夏氣ハ諏訪平葛袴取交着用不苦義ニ御座候哉。

右ハ此度省略之義被仰出候之付、著服之義奉伺候。以上。

閏四月廿二日○天保九年

岡部内膳正○長和家來

岡部

屯

同○天保九年閏四月二十六日御附札

書面之通。

御成之節平伏罷出候家來寫類ハ遠慮いさし可然候。其外書面之通相心得可申候。

天保雜記

閏四月廿五日○天保九年

大目付

初鹿野河内守殿○信

御

徒

頭

殿 昌 期

七八九

小札 神尾 豊 後 守殿○守
 御目付 大澤 主 馬殿○信 西 御丸 徒 徒 頭 頭
 水野 舍 人殿○忠 右大將様御附 御 徒 頭

此間御達有之候此度御儉約被仰出候供連減少之儀、寛政度被仰出候節減少致し、今以右之振合にて召連罷在候人數、左之通。

- 一、侍 貳人 一、鎗持 壹人。
- 一、草履取 二人 一、挾箱持 壹人。
- 一、馬口之者 二人 一、傘持 壹人。
- 一、物持 壹人。

右之内尙又此度馬口之者一人、天氣之節傘持壹人相減、且又俄之病氣等にて差支候節ハ、當番登城退出歩行にて罷出候も不苦候哉。此段及御問合候。以上。

閏四月十三日

西 御丸 徒 徒 頭 頭
 右大將様御附 御 徒 頭

右之通相認、御目付水野舍人ハ本御番二番朝比奈次左衛門達。右之書面文談之内好有之由にて、御目付水野舍人ハ返達有之候間、左之通認直し差出。

初鹿野 河内 守殿○信 御 徒 頭

神尾 豊 前 守殿○守 西 御丸 徒 徒 頭 頭
 大澤 主 馬殿○信 御 徒 頭
 水野 舍 人殿○忠 右大將様御附 御 徒 頭

此間御達有之候此度御儉約被仰出候供連減少之義、寛政度被仰出候節致減少、今以右之振合にて召連罷在候人數、左之通。

- 一、侍 貳人 一、鎗持 壹人。
- 一、草履取 壹人 一、挾箱持 壹人。
- 一、馬口之者 貳人 一、傘持 壹人。
- 一、物持 壹人。

右之通ニ候得共、時宜寄、尙又此上ニも減し召連候様可致候。依之御達申候。以上。

西 御丸 徒 徒 頭 頭
 右大將様御附 御 徒 頭

右之通相認、御目付水野舍人ハ本御番五番大屋三郎右衛門相達。御徒方万年記

同○天九年戌の三月西丸災○忠をけれ、同○天閏四月ニ幕府より節儉之命令○忠をけるにそ、君大不悦たまひ、文政の頃より此時に至迄、世の中の奢侈甚しかりけれとも、幕府より是を禁し給ふ事なきゆへ、君も國中の人のくるしめ給ふよふに、小人婦女子の類ハ歎きしよ、此年幕府よりも節儉の命令ありけれハ、おしめなきしものも漸々君の難有。家中の諸士、木綿服着て營中にのほる夏をゆり給ひ、此事幕府ニ聞へしよ、君と御供いよくを感し奉りぬ。家老の外ハ綿服をゆり給へり。

殷 昌 期

七九一

平常無用の費を省て、武備の心掛怠るへあらざる旨被仰出、此外亦も儉約を守り奢侈をとくむへきよしを觸給ふ夏、猶多けきとも、わつらへしなれをせらしつ。ある人の曰、服そ身の章なり。されど卿大夫ハ卿大夫、士庶人ハ士庶人、各其位ニより、貴人ハ美服を用ひ、賤きもの程廉服を用るをまにておそ、中庸の道にあらふべなれ。然る君三家の貴き小備りさまひぬら、木綿の御服麻の御羽織取とを用ひ給ふハ、いとゆる通下とも申奉るへき御夏からにや。此説一とさりハ聞へぬきとも、尙奢侈の風小そみたる心より出ぬる説あり。唐土聖人も衣服を悪うし宮室を卑れるといふ夏あり。君官服禮服をも脱捨給ひて、士庶人ニひとしき衣服をめされむハ、下ニ通るとも申奉るへし。官服等先格を守り給ひて、全く平生の衣服を悪くし給ふハ、聖人の教にも叶給ふへし。然のみぬらに國移る時は是示は小儉を以てはといふ古語あり。文政の末つあさ奢侈の風いと甚しありなれハ、此時不當てぬましいの儉約を以て示し給ふとも、多の民草ぬひくへきこあらに。されハ、斯までとも御身を苦しめ給ひて、昔よ返んとし給ふハ、却て中庸共申奉るへし。ある人の説ハあの子莫か中といへる如、時をあらはといふへし。諸候も士庶人も同じ服といへるハ、今の世、麻上下を以て専平常の禮服とほきとも、後光明帝の宣ふ如く、袖ぬき服といふこと元あるましきこととして、あしこくも大將軍の君をはし免奉り、賤しき商人までも同じく用る夏いぬる故よしにや。是等こ弊、ある人のあけつらふへき夏ぬぬあるへんき。

常陸帶

齊定^{○上}。六月十七日^{○天保九年}。於米府去ル巳年^{○天保四年}以來連年ノ違作ニ付、御藏元必止ト御差支、御借財ヲ以テ御内外御取凌之處、今般西丸炎上ニ付テハ、格別ノ儀ニ付、御普請御用勤被成度御内願被仰立候。乍去無

御滯。御勤被成候義無覺束夏ニ付、猶又重御節儉可被仰出、御内慮ノ處、於公儀、來ル子年^{○天保十一年}迄三ヶ年ノ間、格外ノ御儉約被仰出候續旁、右御年限中、御内外不尋常御大儉改テ被仰出候段、世子并ニ御方々へモ御附政府へ召出、大夫中老列座、毛利與元傳命之。

來々子年^{○天保十一年}迄、改テ三ヶ年ヲ限、格外御大儉之大旨。

一、年始歳暮御祝儀物御延引、御直參或御使者ニテモ、御祝詞一通、且御不斷ノ御膳差上御祝被遊、蓬萊の御節等無之。

一、御煤納無之。

一、年中御振舞夏、且御餞別御出產、都テ御贈答物御延引、鶴御啓トイヘテ御取分被進候迄ニ候事。

但、時々御親敷御出入之節、御不斷ノ御膳御懸合被進、酒等尤御手輕ニ差上候夏。

一、高家衆始年頭之御祝義獻上御免、御盃御流不被成下、一列ニテ被召出、並方次第被成下御意、且御慰斗頂戴、十一日御旗御武具之餅ハ前々之通。

一、月次之出仕、御用捨ニ候。

一、五節句八朔、一列ヨリ一人宛爲總代登城、御祝詞可被申上候夏。

但、二之丸御殿へ御祝詞申上候義同斷。

一、御留守年元日登城之列、前々之通。

但、御祝之御酒御喰摘等不被成下、御慰斗頂戴之筈ニ候。

一、右同日二之丸へ參殿御祝詞申上候儀、是迄之通ニ候。

- 一、十一日御旗御武具之餅被成下候儀、是迄之通ニ候。
- 一、五節旬八朔、不及登城候。
- 一、右佳日二之丸へ御祝詞、爲總代一列ヨリ一人宛參殿之夏。
- 一、十二月大晦日登城、是迄之通。
- 但、二之丸へ參殿之儀も同斷。
- 一、於江戸表御供立夫々御減省、於此表モ、文化十年之通御減之夏。
- 但、右ニ准、奉行中小姓一人鎗持省略、御曲輪外ハ鎗爲持候方。
- 一、江戸御供方御近習并外様之内御人省、且江戸詰諸有司始足輕夫方等迄御減之夏。
- 一、御鷹御繫無之御鳥屋御減之事。
- 一、上覽馬役馬共御延引、御厩馬御召御召替、二之丸御召御召替、右之外在方へ御渡置、尤御獻上馬御心懸ハ格別之事。
- 但、右ニ准、御家中役馬、在方へ年中相渡置、尤稽古ノタメ牽入候儀ハ勝手次第之夏。
- 一、上覽御鐵砲御延引短二枚通。
- 但、侍組足輕鐵砲ハ、先年御免之例ニ被相任候夏。
- 一、興讓館寄塾勤學生御年限中御斷。
- 一、開講之節始都テ御酒不被成下。
- 一、試業ハ館中切相試、秀逸生限奉行中出席。

- 一、武藝上覽御延引、頭取見届。
- 一、武藝所御物初之御酒始、弓弦或ハ無闕年數續之御賞不被成下候。
- 一、九十以上へ養老ノタメ御小袖御扶持生育御祝、右御手當筋、孝子順孫貞婦奇特力田、是等ノ御賞ハ、乍御氣毒不被成下、尤格別ノ者へハ格別之夏。乍去人情不張合ヲ唱、不出精ニ可至哉ト、御氣毒被思召候へト、今日差當テ御家國ノタメ御大夏ニ付、重條々ヲ被仰出候續無御據儀ニ候條、斯ル御時節相勵ニ於テハ、末頼母敷被思召、且面々實意タルヘク候。此段ハ頭々へ御任可被遊トノ夏ニ候。
- 一、御役儀相勤候面々、其分内ノ太儀ハ是又乍御氣毒、御年限中暮ノ御賞ハ不被成下候。尤御擬ニ準シ候御賞ハ、是迄ノ通ニ候。
- 但、御役儀無之面々、年限勤諸廻勤等へハ、都テ是迄ノ通被成下候事。
- 一、火事場働人御賞ノ儀ハ、是迄之半減被成下筈ニ候夏。
- 一、御武器ハ新規御修復共ニ是迄之半減。
- 一、政所始諸役場都テ簡易ノ御取行、小細ノ御費用トイヘト減方相立候様申達之。
- 一、御年限中林泉寺時鐘延引。
- 一、江戸米澤御惠荷、春夏秋之度ニ限リ候夏。
- 一、江戸書通不用ノ爲取替無之様、度々被仰出候通、彌以可相守夏。
- 右之通、非常之御大儉嚴重御執行ニ付、一統右ニ準シ、不心得無之、幾重ニモ格外之儉約相立、御奉公道疎意無之様、頭々へ御任被遊トノ御夏候。

六月○天保九年

諸組頭々
一列筆頭

先般西丸炎上、右御普請莫大之御入用付、追々御諸家御手傳被仰付、又ハ御上納金御申立ノ向モ有之候處、御家之儀ハ、兼テ御逼迫ノ御國柄、於公儀、御知察之御沙汰ニモ可有之哉。文化十年紅葉山御普請御用御勤被遊候以來、御更多ノ御時節ナカラ、御家ノミニ二十ヶ年餘御手傳不被蒙仰ハ難有御儀ニ被思召候。併此度ノ儀ハ、格別之御更ニ付、被遊御獻金、度御本意候處、去ル巳年^{○天保四年}以來連年ノ違作ニ付、打續非常ノ御大檢御執行ニ候ヘ、御藏元必止ト御差支、御借財ヲ以テ御内外御取凌之御行廻ニ付、御殘念ニハ被思召候ヘ共、其段ニハ難被爲至。去ハトテ御義ニオケル餘所餘所敷可被爲遇様モ無之御時節故、御普請御用御勤被成度旨御内願被仰立候。乍去無御滯御勤被遊候儀無覺束事ニ付、猶又重御節儉可被仰出御内慮之處、令先達候通、於公儀來ル子年^{○天保十二年}迄三ヶ年之間、格外之御儉約被仰出候續旁、右御年限中江戸米澤共ニ御行列御省略之儀ヲ始、御内外猶又尋常ナラサル御大檢改テ被仰出候。依之衣食住音信贈答諸參會ニ至マテ、都テ文化之度御大儉之通、嚴重可相守旨被仰出候。右君慮之趣組中支配下ヘモ懇ニ申達、不心得無之様頭々ハ被遊御任トノ御更ニ候。

六月○天保九年

右兩通、頭々筆頭召出相渡之、隨而以別番諸向へ御達。

上杉年譜○編年史料收。

屋鋪受授

閏四月朔日壬申^{○天保九年(紀元二四九八年)○壬申、三正綜覽。}持筒組收上屋鋪ヲ返付ス。外ニ是月^{○天保九年(紀元二四九八年)閏四月。}受

授スル所屋鋪若干。

^{○屋敷書披。相替御書附書披。}

屋鋪受授 天保九年閏四月受授スル所ノ屋鋪左ノ如シ。

天保九戌年

蹟
屋鋪受授事
持組屋鋪
徒組屋鋪
徒組屋鋪
徒組屋鋪
徒組屋鋪
土岐頼旨
先手組屋鋪
岡田義功

戌閏四月朔日。藤野金助上地
一、小日向水道端百九十五坪
戌閏四月三日。金子正助上地
一、下谷和泉橋通壹枚橋貳百坪
戌閏四月三日。中澤源左衛門上地
一、下谷貳丁目貳百拾九坪餘
同日。山田文左衛門上地
一、下谷壹枚橋南方百九拾九坪餘
戌閏四月四日。佐藤捨四郎上地
一、目白臺百貳拾七坪餘
戌閏四月七日。白須甲斐守上ケ屋敷之内
一、神田橋外百拾九坪餘
戌閏四月十二日。杉浦源兵衛上地
一、本所南割下水三百坪
同月十四日。松平筑後守上ケ屋敷之内
一、神田橋御門外千四百七十坪

股 昌 期

西丸御持筒頭松平作左衛門組與力

松尾 五郎 差辰

松平藤十郎組御徒
山本 橋之助 差辰

土屋三郎右衛門組御徒
開田 猪三郎 差辰

朝比奈次左衛門組御徒
桃井 歡藏 差辰

中嶋三左衛門組御徒
櫻井 財十郎 差辰

御側衆
土岐 豊前守^{○頼} 添地

御先手大久保彌右衛門組與力
古郡 孫左衛門 差辰

御書院番頭
岡田 伊勢守^{○義}

矢村岩松
築田八郎
右

同日。右同斷
一、右同所貳百六十坪餘

一、神田橋御門外五拾坪
一、神田橋御門外百九十八坪餘

一、神田橋御門外百九十八坪餘

天保九戌年五月四日矢嶋岩松江預替ル。消印。

一、下谷中御徒町通百八十六坪餘

一、淺草本多喜十郎上地四十坪餘

一、同月廿六日。白須甲斐守上ケ屋敷之内

一、神田橋外小川町七百貳十四坪

同日。前同斷
一、右同所千三百七坪

池田右京
大貫次右
鋪
森川鉄次郎
黒鐵組屋

一、神田橋外小川町白須甲斐守上ケ屋敷之内

天保九戌年閏四月七日渡。

一、閏四月朔日

天保九年。

御勘定
矢嶋岩松

御留守居駒木根大内記與力
築田八郎右衛門

御書院番頭
岡田伊勢守

遠藤近江守組御徒
森川鉄次郎

鈴木宇右衛門組黒鐵之者組頭
太田藤次郎

御代官
大貫次右衛門

寄合
池田右京

御側衆
土岐豊前守

表高家
京極兵庫助

御書院番頭
岡田伊勢守

屋敷書拔

京極高福

土岐頼旨

松平正名

白須政徳

永田馬場屋敷御用ニ付差上、家作ニ引取可申。爲代地神田橋御門外松平筑後守屋敷内千四百七拾坪餘被下、爲引料、金百兩被下之。

小川町眞名板橋屋敷御用ニ付差上、家作共引取可申。爲代地裏猿樂町松平主馬屋敷被下之、爲引料、金五十兩被下之。

神田橋外小川町白須甲斐守屋敷之内百十五坪餘爲添地被下之。

永田馬場池田右京屋敷千三百七坪餘同地續岡田伊勢守屋敷之内七百九十三坪被下之。只今迄之屋敷可被差上。○五月ノ條ニ記ス。

小川町眞名板橋京極兵庫助屋敷九百五十七坪同所地續十貫次右衛門屋敷七百廿四坪同所續矢島岩松屋敷貳百六拾坪被下之。只今迄之屋敷可被差上。右於奥被仰付之。

同○天保九年。戊年閏四月十一日

備後守○太田資始。殿林阿彌を以御下ケ、助之丞請取。

御普請奉行也。

殷昌期

七九九

天保雜記

津輕信順
松前良廣
遠山景元
福島正敷
小野左太夫
石河寅之助
井戶覺弘
布施孫兵
山本大膳
賀茂信之丞
青木傳八郎
澤井祐次

松前隆之助拜領屋敷淺草新寺町貳千坪餘之内
百五拾坪
津輕越中守拜領屋敷北本所大川端
三千五百坪
福島左衛門拜領屋敷芝露月町八百拾貳坪之内
百九拾七坪餘
遠山左衛門尉拜領屋敷駒込四軒寺町三百五拾坪之内
百五拾坪
石河寅之助領拜屋敷小石川富坂
百七拾壹坪餘
小野左太夫拜領屋敷濱町山伏井戶六百貳拾五坪餘之内
貳百坪餘
布施孫兵衛拜領屋敷裏六番町
七百三拾三坪餘
井戶大内藏拜領屋敷本所猿江貳千五百坪之内
千五百坪
賀茂信之丞拜領屋敷大久保大景屋敷
百貳拾四坪餘
山本大膳拜領屋敷駿河臺鈴木町
百三拾六坪
澤井祐次郎拜領屋敷土手四番町
百坪餘
青木傳八郎拜領屋敷牛込岩戸町
五拾坪

津輕越中守信順
松前隆之助良廣
御勘定奉行
遠山左衛門尉景元
御使番
福島左衛門正敷
御先手
小野左太夫
表火之番
石河寅之助
御使番
井戶大内藏覺弘
西丸御書院番高力丹波守孫兵衛
御代官
山本大膳
奥御右筆所留物方
賀茂信之丞
刑部卿殿番頭用人青木傳八郎
小十人高林左兵衛佐組
澤井祐次郎

赤井五左
加藤助右
小河惣右
三宅左兵
小宮山富三郎
大熊新助
稻村増五郎
山下清左
米倉四郎左
興津清三郎
松浦百兵
小林邦太郎
幸田友之助

加藤助右衛門拜領屋敷南本所林町
三百坪
赤井五左衛門拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷六軒町
貳百坪
三宅左兵衛拜領屋敷表四番町
三百四拾七坪餘
小宮山留三郎拜領屋敷小石川築地馬場
四百五坪
小河惣右衛門拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷六軒町
貳百八拾坪餘
稻村増五郎拜領屋敷本所二ツ目三ツ目之間
三百坪餘
大熊新助拜領屋敷築地輕子橋
百五拾四坪
米倉四郎左衛門拜領屋敷小日向新小川町
三百貳拾五坪餘
山下清左衛門拜領屋敷牛込加賀屋敷
貳百坪
松浦百兵衛拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷
三百七拾五坪
興津清三郎拜領屋敷四ッ谷内藤宿新屋敷大名小路
三百四拾七坪餘
野尻太兵衛拜領屋敷赤坂築地仲ノ町
貳百五拾坪餘
酒井東次郎拜領屋敷小石川安房町
百坪

西丸御小性組本多日向守組
赤井五左衛門
大御番石川伊豫守組
加藤助右衛門
西丸御小性組本多日向守組
小河惣左衛門
御書院番高井但馬守組
三宅左兵衛
小普請組後藤佐渡守支配
小宮山留三郎
御納戸
大熊新助
西丸表御臺所組頭
稻村増五郎
大御番北條遠江守組
山下清左衛門
小普請組久留十左衛門支配
米倉四郎左衛門
小普請組藤懸采女支配
興津清三郎
土屋伊賀守支配
松浦百兵衛
小十人柳澤八郎右衛門組
小林邦太郎
高林左兵衛組
幸田友之助

酒井東次郎

野尻太兵衛

石原鉄五郎

秋月徳之進

附記、一
地廻米穀問屋番組
繰替

小林邦太郎領屋敷小日向若荷谷
貳百三坪

幸田友之助領屋敷四谷右京町三百六拾坪之内
百五拾坪

秋月徳之進領屋敷市ヶ谷火之番丁
四百坪

石原鉄五郎領屋敷小石川柳町裏通り四百九拾坪之内
貳百坪

右願之通屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致し。

〔附記、一〕 地廻米穀問屋番組繰替

一、地廻米穀問屋之儀、享保年中仲ヶ間組合被仰付、月々入津歸帆員數高書上任、其初、御役所組合
名前帳面差上置、組々之行事相立、株讓又之新規加入所替印形改等迄、其時々組合行事加判、名主奥印
之書付を以申上、仲間取締仕來い處、前々差上置い名前帳、入狂ひ混雜仕い之付御調中、當十一日○天保九年閏四月
井紀伊守様○改於御白洲、番組繰替、朱引境相直可申旨被仰渡、奉畏い。依之組合人數相調、朱引境相
改、名前帳面奉差上い。尤前々仕來之通、猥之無之様、急度申合、新規加入、株讓り、所替、名前印形
改、家主替等迄、其時々組合行事加判、名主奥印之書付を以、御書替御願可申上い。依之連印名前帳
奉差上い。仍如件。

天保九戌年閏四月

一、地廻米穀問屋。
但、三番組。

南傳馬町貳丁目武兵衛店

伊勢屋 小兵衛

外六十貳人

南傳馬町貳丁目名主
新右衛門

右喜多村殿掛り、同年○天保九年八月十三日當人并行事名前帳面持參之付、奥印致遣ス。

——撰要永久録

附記、二
火消役戒
飭

〔附記、二〕 火消役戒飭

天保九戌年閏四月十四日

申渡之書付

火消役

同役被仰付の間、古役、新役の傳達之儀之付るハ、先年相達、并去々申年○天保七年相觸い趣も有之い處、兎
角取締風儀不_レ宜、傳達等万端事六ヶ鋪致し成、其上參會之節酒宴遊興之長じ、如何敷次第有之由相聞
い。急度可被及御沙汰い得共、御宥免を以皆相慎、風儀宜不取締之儀無之様可被致し。

右堀大和守○親宅に火消役酒井蟲之助大久保彦八郎呼寄、大和守申渡之。柳生伊勢守相越い由。

——天保雜記

廿一日癸巳○天保九年(紀元二四九八年)閏四月。○癸巳、三正綜覽。農商民ノ櫛笄其他ニ金銀ヲ用フルヲ禁ス。○政保間記。天保撰要類集。

農商金銀具禁止 左ノ如ク傳フ。

天保九戌年閏四月廿二日、大和守殿○親兩丸御目付に。廿五日○天保九年閏四月。

櫛笄かんざしきせ類又之多葉粉入紙入あかをの、其外無益なる翫之品ニ、金銀用い儀停止之旨、前々相觸
い趣も有之い處、近來猥ニ金銀具相用并賣買致し者有之由相聞、如何之事之い。以來百姓町人、右躰
之品ニ金銀用い儀、決る不相成、主人或之出入屋敷等とて貫請又之持傳及之い共、金銀器類一切持申間

農商民金銀
具禁止事蹟

敷い。右に付るハ武家要用之品是迄之通、其外を武家ハ誂い分ち格別、都る金銀具相用い品内證之る拵置、賣買致間敷い。只今迄商人共仕入い分ハ、當年^{○天保九年}限^{○天保十年}賣買致し、來亥年^{○天保十年}より可爲停止い。

閏四月^{○天保九年}

右之通可被相觸い。

同年^{○天保九年}六月廿一日。肥後守殿^{○林忠英}。西丸御目付に。廿四日^{○天保九年六月}觸。

百姓町人金銀之品相用い儀停止之旨、當閏四月^{○天保九年}中相觸い之付るハ、是迄百姓町人共心得違等之る所持致居い分ハ、別段咎之不及沙汰い間、其品早々金銀座ニ差出可申い。左いハ、座方ニおるて相當之代金下ケ遣い管之い間、少しも不隱置差出、尤金銀座手遠之場所ニ、領主地頭役場ニ取集、座方ニ差出い敷、又ハ寂寄遠國奉行所或ハ御代官并御預役所へ爲差出いハ、座方ニ相廻し、相當之代金下ケ遣い管い條、其旨相心得、領主地頭、領分知行不洩様可被申付い。

六月^{○天保九年}

政保間記

天保九戌年九月六日

申渡

組々世話掛	主	共	井
名	主		
十番組麻布谷町	太	一	郎
名	主		
十一番組雉子	市	左	衛
名	主		
衛門			

百姓町人金銀之品相用候義停止之旨、當閏四月中相觸候い之付て、是迄百姓町人共心得違等之て所持ハ居候分ハ別段咎之不及沙汰候間、其品早々金銀座に可差出旨、猶又當六月^{○天保九年}相觸候處、在方ハ追々右品差出候得共、御府内町人共所持之金銀之出方不宜之付、此度其方共當分金銀具取集掛り申付候間、金銀具其位ニ寄相當之代金下ケ遣候管之候條、右品所持之ものを共ニ申諭、所持主名前ハ不及申立、其方も方之て品物目方等改記置、其組限一手ニ取集、座方ニ差出、代金請取、銘々持主に渡遣候様可致、尤品柄之儀之付、目方等改方入念可取扱。

但、其組限座方ニ差出候金銀貫目、書面之いたし樽藤左衛門方ニ相届可申。

右之通申渡間、其旨可存。

右之趣、證文申付ル。

九月六日^{○天保九年}

天保九戌年九月八日町觸

櫛笄簪其外無益之品々々金銀用候義停止之旨、當閏四月^{○天保九年}中觸置候之付、當時右類相用候ものハ有之間敷、眞鍮錫箔等之る仕立候儀之可有之候得とも、其筋商人共之内ニハ、此節象牙唐木等之る櫛笄簪等拵、種々手敷を懸、金銀之高蒔繪いたし、模様ニ寄切金ならひニ珊瑚珠等相用、或ハ四分一赤銅杯に金銀之象眼致し、高直ニ商ひ候ものも有之趣、右ハ不益之品之て、只一花之品々々金銀相用、纔宛之可有之候へ共、數多仕入之品々、多分之金銀費ニ相成、度々被仰出候御趣意之も相振、不埒之憂之候。以來相止可申候。若相背候もの於有之ハ、吟味之上、急度可申付條、心得違無之様可致候。

殿 昌 期

八〇五

右之趣從町御奉行所被仰渡候間、其筋商人共ハ勿論、町中家持借屋店借裏々まで、不洩様可相觸候。

九月六日○天保九年

天保九戌年九月二十五日樽藤左衛門方ニテ申渡。

町方金銀具類取集方之儀、金銀具類悉位甲乙有之候間、名主共ハ取集候分、一同ニ差出、買上代金一口ニ相渡、平等ニ割渡候てハ持主損益有之、疑惑可致哉ニ付持主名前品柄目方とも名主共方ハ巨細ニ記置、一品限り小札番付致し、是又目方をも相記、銀座ニ差出候ハ、一品限りニ買上代金相認候書付を銀座年寄ハ相渡候積り候矣。

右之通御勘定所ハ御達有之候間、金銀取集懸り名主共ハ早々申談置候様可仕旨被仰渡、奉畏候。以上。

金銀具當分取集懸り小口

天保九戌年九月廿五日

本銀町

名主

惣

藏印

堺町

同

五郎

兵衛

印

同

吳服町

同

助印

同三郎右衛門煩之付代

丈

同

雄子町

市左衛門

印

天保九戌年十二月十日町觸

百姓町人金銀之品相用申聞敷、是まで心得違ニテ所持いたし候分ハ、金銀座ハ差出可申段、當聞四月○天保九年六月相觸、其後名主共之内當分掛り申付、追々銀具類取集差出候處、響きせる類而已少分之夏ニテ

器物金物等ハ差出不申、如何之夏ニ候。寂前相觸候通、此度ハ別段答之不及沙汰、其位目方ニ寄代金座方ハ相渡候等候間、品柄之無差別、町人共所持之金銀具不隠置可差出處、無其儀申譯迄ニ聊之品差出候趣も相聞、以之外之夏ニ付、以來ハ少しも不隠置早々差出可申候。來亥年○天保十年ハ至ク停止之夏ニ付、其節ニ至於相觸候ハ、急度可申付候。尤右之通相觸候通、途中ニ取押、品物取上候儀等ハ無之條、此旨町中不殘可觸知をの也。

右之趣從町御奉行所被仰渡候間、町中家持借屋店借裏々迄不洩様、名主共支配限、月行夏持之場所共、入念申聞、町人共致所持居候金銀具ハ、何品ニ不限爲差出、一組限取集、座方ハ可差出候。

十二月十日○天保九年

天保十亥年二月二十九日樽藤左衛門方ニテ申渡。

組々金銀具當分取集懸り

名

主

申渡

町人共金銀具所持之儀、當亥年○天保十年ハ全停止ニ付、心得違ニテ所持候金銀具、早々座方ハ可差出旨、町觸之上、當分取集懸り申付置候ニ付、市中町人共所持之分、去戌○天保九年十二月迄ニ取集、座方ハ差出候處、猶此上質屋共之内、武家方ハ質物ニ取置候品流レニ相成候分ハ、其譯申立、座方ハ爲差出候様可致候。

右ハ南御役所ハ伺之上申渡候間、其旨可相心得、尤右品座方ハ差出候ハ、其段此方役所ハ相届可申候。右之通被仰渡、奉畏候。爲御請御帳ニ印形仕置候。以上。

金銀具取集懸り物代

堺町

天保十亥年二月二十九日

名主	五郎兵衛印
同	本町三丁目
同	文左衛門印
同	南傳馬町
同	新右衛門印

天保十亥年五月二十七日樽藤左衛門方にて申渡。

口達

金銀具取集當分懸り
名主 共。

櫛笄のんさしきせり亦ハ多葉粉入昏入の形物其外無益なる翫之品々、金銀用候儀停止之旨。前々觸有之候處、近來猥ニ金銀相用ひ、并賣買いさし候者有之由相聞、如何之事ニ付、武家方ハ誂候分ハ格別、都て金銀具相用候品、内證にて拵置賣買致間鋪、只今迄商人共仕入候分ハ、當年^{○天保十年}限賣買致し、來亥年^{○天保十年}ハ全停止之旨、去戌^{○天保九年}閏四月被仰出、町觸有之、其後追々觸申渡等有之、町人共所持之金銀具懸り名主共方ハ取集、座方ハ差出候間、右品新規ニ拵候儀ハ勿論、取扱候者も有之間敷候得共、万一心得違之、去戌年^{○天保九年}賣残り之品なるも所持いさし居、右品持歩行賣買なしたし候商人共有之候ても、以之外之更ニ候間、名主支配限取調、今以金銀具賣買いたし候もの有之候ハ、名住所認南役所^{○天保十年}可申立候。

亥^{○天保十年}五月

右之通被仰渡、奉畏候。爲御請御帳ニ印形仕置候。以上。

天保十亥年五月廿七日

金銀具當分取集懸り
名主 壹番組本町三丁目
文左衛門印
外十九人。

天保撰要類集

櫛笄かんさしきせる又ハ多葉粉入紙入かきその、其外無益之翫之品々、金銀用候儀停止之旨、前々相觸い趣も有之候處、^{○山路。○政保開記ニ同シ。}

右之通御書付出候間、町中不洩様入念可相觸い。 閏四月廿三日^{○天保九年}

百姓町人金銀之品相用候儀停止之旨、當閏四月^{○天保九年}中相觸いニ付る也、^{○山路。○政保開記ニ同シ。}

右之通御書付出候間、町中不洩様可相觸い。 六月廿三日^{○天保九年}

櫛笄簪其外無益成翫之品々金銀用候儀停止之旨、當閏四月^{○天保九年}中觸置いニ付、當時右類用いものも有之間敷處、眞鍮鋤箔等なる仕立候儀も可有之候得共、其筋商人共之内ニモ、此節象牙唐木等なる、櫛笄簪等拵、種々手數ヲ拵、^{○山路。○天保撰要集ニ同シ。}

右之趣從町御奉行所被仰渡候間、其筋商人共ニ勿論、町中家持借屋店借裏々迄、不洩様可相觸い。

九月九日^{○天保九年}

百姓町人金銀之品相用申間敷い。是迄心得違之る所持致い分也、金銀座に差出可申段、當閏四月同六月^{○天保九年}相觸、其後名主共之内當分掛り申付、追々銀具類取集差出候處、簪喜世留類而已少々之事なる、器物金之等ニ差出不申、如何之事ニ付。^{○山路。○天保撰要集ニ同シ。}

右之通從町御奉行所被仰渡候間、町中家持不洩様、借屋店借裏々迄、不洩様、名主支配限、月行事持場所迄入念申間、町人共致所持居候金銀具も、何品ニ不限爲差出、一組限取集、座方^{○天保九年}に可差出い。

十二月十日^{○天保九年}

撰要永久錄

閏四月○天保九年

銀の櫛痒きせる其外共、銀類百姓町人持事一切御停止之事。

○天保九年九月ノ候 四月中旬○天保九年御觸有之御銀物御取上ケ之相成申。家毎之銀の簀登本位宛差出し申。

——藤岡屋日記

〔参考〕 江戸沿革ニ、

食欲ももと人よ増らんの癖より、彌生のかつほ奇也とせに。寒月用る納豆、炎暑比頃に賣歩行、冬比箕、春の茄子、其味美仍らにも、珍菓をのみ好み、松の鮓、船橋の汁粉、鯛の天麩羅、八百善、田川、平清好手奇品比料理、何事も己々の分量をこえ、一つとして奢侈ならざるをぬし。天明度ば、賭博のたゆに、盲目人の高利をかりて、玄關先迄も下駄杖にて高聲に催促るゝを、今そ奢より財乏しく、公金比御代官の貸附を願ひ、御藏前取ハ札指入こんで、口入の謝禮を貪る。宿師をおつけて高借にのほり、果ハ加判借といふ悪徒の時勢を計り、己を富さんに便り、三季の賜りものを押して、高利を引とるが故に、窮するものまほしく窮に。

屋鋪受授

五月二日壬寅○天保九年(紀元二四九八年)○壬寅、三正綜覽 屋鋪ヲ受授ス。是月○天保九年(紀元二四九八年)五月 外ニ若干屋鋪ノ受授

有リ。○屋敷書披。相替御書附書披。

屋鋪受授事

天保九年五月若干屋鋪ノ受授有リ。左ノ如シ。

天保九戌年

松平正名

一、戊五月二日。岡田伊勢守上ケ屋敷池田右京上ケ屋敷之内、永田馬場貳千百坪

御側衆 松平筑後守○正名

矢島岩松

一、戊五月四日。前同前、同所百九十八坪餘

御勘定 矢嶋岩松

彦坂丹右

一、同月九日。山高專太郎上地、青山馬場先貳百坪餘

小普請組藤懸采女支配 彦坂丹右衛門

朽木縫殿助

一、戊五月十日。小栗翁之丞引替上地三百五十八坪之内、小石川春日町三百拾四坪餘

交替寄合 朽木縫殿助

谷津會助

一、同日。前同前、同所四十三坪餘

柳田勝太郎御小人 谷津會助

賭組屋鋪

一、戊五月十一日。村瀬岸右衛門上地、深川元椀藏四拾坪

御附六尺頭 坂手林左衛門

先手組屋鋪

一、戊五月十二日。和田源六郎上地、千駄ヶ谷御鹽焔藏脇百四十四坪餘

西丸御先手窪田主水組與力 水谷定右衛門

曲木又六郎

一、同月十三日。貳番明地之内、神田橋御門外三百坪

御馬預り 曲木又六郎

大木次兵

一、戊五月十四日。相澤久助上地、四谷内藤宿新屋敷百坪餘

西丸小十人山田三十郎組 大木次兵

(朱) 天保十亥年四月十三日竹内市十郎に渡ス。消印。

先手組屋

一、戊五月十五日。林茂平上地
下谷三枚橋貳百拾貳坪餘

西丸御先手水野讚岐守組與力
橋本大三郎
差戻。

松平政名

一、戊五月廿二日。池田右京上屋敷之内割殘地
永田町六百七十七坪餘

御側衆
松平筑後守○正
御預地。

白須政徳

天保九戌年七月廿一日同人永御預地ニ預替ル。消印。
戊五月廿四日。京極兵庫助上屋敷大貫次右衛門上屋敷
矢嶋岩松上ケ屋敷袋田八郎右衛門上ケ屋敷之内
一、小川町眞名板橋千九百九十一坪餘
一、戊五月廿六日。彦坂丹右衛門上ケ地
一、本所石原辨天小路三百坪

西丸御側衆
白須甲斐守○政
小普請組夏日向守支配
松前主馬

松前主馬

一、同月廿九日。中岡三郎上地之内
一、市谷火之番町貳百壹坪

右大將様御側衆
戸田阿波守○氏
添地。

戸田氏寧

二月廿九日。(○天保九年)備後守殿(○太田資始)
一、神田橋御門外二番明地之内圍込願
(○朱)
天保九戌年五月十三日御渡。
二月廿九日。(○天保九年)備中守殿(○堀田正篤)
一、市ヶ谷大番町中岡三郎上地二ヶ處御添地願
(○朱)
天保九戌年五月廿九日渡。

御馬頭
曲木又六郎

右大將様御側
戸田阿波守○氏

同○天保九年。戊戌年五月廿八日
和泉守殿○松平啓阿彌を以御下ケ、助之丞○松平請取。

屋敷書拔

鈴木備前

御普請奉行
中村八太夫拜領屋敷本所石原辨天小路
百拾坪餘
鈴木備前守拜領屋敷麻布仙臺坂下
貳百貳拾坪餘

仙洞附
鈴木備前守

中村八太夫

山縣忠五郎拜領屋敷本所南割下水永倉町
貳百貳拾坪餘

御代官
中村八太夫

松平源五郎

永野留太郎拜領屋敷小日向江戸川端通り
貳百坪餘

御小性組秋田淡路守組
松平源五郎

山縣忠五郎

松平源五郎拜領屋敷神田柳原元誓願寺前
貳百七坪

御留守番高井主水組與力
山縣忠五郎

永野留太郎

町野捨三郎拜領屋敷小石川氷川明神坂上貳百九拾八坪餘之内
百五拾七坪餘

小普請組藤懸采女組
永野留太郎

岸彦次郎

同所之内
百四拾坪餘

西丸御小性組本多日向守組
岸彦次郎

大森善次郎

大森善次郎拜領屋敷大久保
百三拾坪

御勘定評定所留役
大森善次郎

町野捨三郎

神谷勝太郎拜領屋敷本所二ツ目三ツ目之間
貳百坪

小普請組土屋伊賀守支配
町野捨三郎

須藤宗左

須藤宗左衛門拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷五百坪餘之内
貳百貳拾坪

御書院番會我伊豫守組
須藤宗左衛門

神谷勝太郎

飯田健助拜領屋敷四谷内藤宿番衆町
百八拾坪餘

小普請組夏日向守支配
神谷勝太郎

小倉十兵衛

御腰物方
小倉十兵衛

股昌期

八二三

八二三

矢野權之
飯田健助
加藤平左
揖斐巳之
中根登兵
由井理八
樋口忠一
中村延之
羽鳥眞之
助
岡本良右
上原富三
河嶋助太
郎
梶田磯五
郎
小林八郎
治

小倉十兵衛領屋敷小日向新小川町
貳百坪
矢野權之進拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷
六拾六坪
揖斐巳之助拜領屋敷牛込御細工町
百八拾五坪餘
加藤平左衛門拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷
三百坪
由井理八郎拜領屋敷目白臺
百九拾坪餘
中根登兵衛拜領屋敷小石川築地馬場
三百坪
中村延之助拜領屋敷神田明神下金澤町貳百四拾坪之内
百五拾貳坪
羽鳥眞之助拜領屋敷巢鴨大原町
百五拾坪
樋口忠一郎拜領屋敷小石川戸崎町
九拾七坪餘
河嶋助太郎拜領屋敷下谷貳丁町
貳百八坪
岡本良右衛門拜領屋敷青山權田原三筋町
六拾三坪餘
上原富三郎拜領屋敷同所百貳拾五坪餘之内
百五坪
小林八郎治拜領屋敷本所吉岡町
百四拾三坪餘
梶田磯五郎拜領屋敷澁谷弁橋貳百貳拾坪餘之内
百拾坪餘

御作事方御披官助
矢野權之進
火消役坪内左京組同心
飯田健助
大御番石川伊豫守組
加藤平左衛門
小普請組後藤佐渡守支配
揖斐巳之助
大御番石川伊豫守組
中根登兵衛
小普請組土屋伊賀守支配
由井理八郎
奥御右筆
樋口忠一郎
御普請役
中村延之助
小普請組岡村丹後守組
羽鳥眞之助
御作事下奉行
岡本良右衛門
御鐵炮玉藥同心
上原富三郎
小普請組岡村丹後守組
河嶋助太郎
御鳥見
梶田磯五郎
御中間
小林八郎治

右願之通屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致し。

相對替御書附書拔

〔附記〕 建築制

同日○天保九年五月十四日。河内守殿○榊山正盛。十八日○天保九年五月。觸。

今度類焼之跡家作之儀、隨分小住居之致、尤成丈棟不高様之仕、内造作等々、質素之可心懸事。但、瓦葺之儀々、是迄之通相心得、尤見分不拘、平瓦にてもさん瓦之るも、先年被仰出之通、勝手次第可致し。

右享保年中被仰出之趣也。今度も作事申付の面々々、猶更一同之相心得可申。并屋敷々々之圖等も、外見之不拘、質素成様之致し可申。尤葺簀垣竹垣生垣杯を勝手次第之事。八月○寛政四年。右之通寛政四子年相觸、其後度々火災有之由處、年曆を経之隨ひ、忘却之向も可有之哉、殊之近來々、諸山共年々過分之伐出之付、自然大材拂底之成行。旁以向後武家町家共、類焼又之家作建直し由面々々、成丈棟高手廣く不相成様、分限相守、普請可被致し。尤葺簀垣竹垣生垣など、見合可申。是迄仕來之分ハ不苦也。

五月○天保九年

政保間記

奢侈僭上禁止事蹟

廿三日癸亥○天保九年紀元二四九八年五月。市人ノ奢侈僭上ヲ禁ス。○撰要永久錄

奢侈之儀之付るを、前々度々町觸申渡も有之處、致忘却也、近來髮髻之類、別る超過致シ、其外町

附記、建築制

人共身分不相應之義相好、僭上高金之品相用候ものも有之由、不埒之事也。此度公儀なるも御儉約被仰出、諸家なるも格外質素節儉可致旨、御觸も有之間、町方におゐても、向後身分不相應奢侈僭上之儀、急度相慎、前々町觸申渡之趣、堅相守可申。相背をの於有之を、吟味之上、急度可申付。右之通從町奉行所被仰渡の間、町中家持借屋店借裏々迄、不洩様入念可相觸。五月廿三日○天保九年

組々世話掛
名 主 共

今般町觸之趣、名主共支配限精々申諭、此上違失心得違無之様可致。尤町人共義と武家と違、金銀融通を以家業相續致事之間、一概之儉約質素を己心掛の様申渡いへ、業躰に寄ると、差支儀も可有之哉とい得共、譬も町人共衣類之儀、一躰絹細麻布を可用處、身分ヲも不顧、紗綾縮細縫模様杯之類相用い、不相應之儀なる、則僭上と申もの有之、又何なるも用辨可成品を花美風流に致し、高金之品相用い、則奢侈有之、右様なるも無益之金銀費而已からに、貴賤之差別もなく、御制度風俗にも拘り事之間、右品商ひ町人共こいたる迄、右等之意味能々相辨、此度之町觸并前々觸申之趣、無違失相守の様可爲致。若相背いもの有之、咎受け様なるも、名主町役人共迄可爲越度間、猶此の共々も、組合限精々心付、下々迄行届、心得違之義無之様、厚ク世話可致。右之通被仰渡、奉畏。爲後日仍如件。

組々世話懸
名 主 印

天保九戌年五月廿四日
右之筒井紀伊守様○政被仰渡。

撰要永久録

五月○天保九年町人共紗綾縮細之縫模様等衣類之義、御停止し、細太織絹麻布を不用由也。其外共絹布相からに。家普請へ、高サ棟瓦共二丈三尺限、大坂建中路次建御法度御觸也。——藤岡屋日記

天保撰要類集ニ據レハ、左ノ如シ。

天保九年戊五月十七日水野越前守殿○忠に田中休藏を以上ル。同○天保八年五月廿二日承付候様同人を以御下ケ、同○天保九年五月廿三日町觸案并名主共の申渡案共、同人を以返上。同日○天保九年五月廿三日。樽藤左衛門の町觸申渡。同○天保九年五月廿四日名主共の申渡ス。

町方奢侈之儀ニ付取締方相伺候書付、書面伺之通取計可申旨、被仰渡、奉承知一候。
筒井紀伊守○政
町奉行

近來町方之もの共奢侈之風俗に相成、別る女之衣類等、其外都て身分不相應之類相見候。右體之儀無之様可申付旨、御書取を以被仰渡候。

此儀御沙汰之通、近來世上一般奢侈超過致し候間、別る衣類髮飾食類之儀、尤増長仕候儀に御座候處、食類之儀ハ、先般被仰渡候に付、別段取調相伺候儀に御座候。一體此度之儀ハ、連年大火凶作等相續、其上當春○天保九年西丸炎上に付るハ、公儀にても格別御儉約被仰出、且万石以上以下輕き御家人倍臣に至迄、夫々省略可仕旨御觸も御座候儀に付、町方迎も同様之夏に御座候間、何レも儉約質素に仕、奢侈ケ間敷儀致ス間敷ハ勿論之儀に御座候へ共、町家之儀ハ、武家と違、専金銀融通を以家業相營、其利潤之多

少、身上之厚薄なる、身分之高下階級も付候夏之有之候間、一槩小儉約質素而已之相成、銘々金銀を貯所持致し候計之るを融通差支、遊所芝居ハ勿論、都而盛り場茶屋向等家業相續相成間鋪儀之付、奢侈を見免し候筋之ハ無之候得共、少々無益之金銀費候とを於彼等と是も又融通之一廉之有之候間、強而儉約質素と而已相觸候而之差支も可有之哉不付、奢侈僭上之儀無之様申渡ゆ方可然哉。畢竟身上宜敷之共々、奢侈之儀仕候共、敢る勝手向小響キ候儀も無之間、世上之風俗之様、追々超過僭上之儀も多ク相成候間、其間之立交り候身薄之もの迄も見様見真似之る、終之一般奢侈押移、上を僭し候様相成候と、年來之習俗之候得ハ、五六十年以前之儀ハ不存之の多ク、世間並之心得之る、奢侈僭上之至り候夏之有之候間、一通り觸渡候而已にてハ行届申間敷間、別紙之通町觸申付、猶世話掛り名主共之申渡案相添、此段奉伺候。以上。

戊○天保九年五月

筒井紀伊守○政
大草安房守○高

町觸案

奢侈之儀之付、前々々度々町觸申渡シも有之處、致志却候哉、近來衣類髮飾之類別を超過致し、其外町人とも身分不相應之儀相好、僭上高金之品相用候もの有之由、不埒之夏候。○中略。提要。永久録ニ同シ。

戊○天保九年五月

名主共之申渡案

今般町觸之趣名主共支配限り精々申諭、此上遺失心得違無之様可致候。○中略。提要。永久録ニ同シ。

戊○天保九年五月

屋鋪受授

六月朔日庚午○天保九年(紀元二四九八年)○庚午、三正綜覽。大番組屋鋪ノ收公地ヲ返給ス。外ニ是月○天保九年(紀元二四九八年)六月。

受授スル所若干屋鋪有リ。○屋敷書抜。相對替御書附書抜。

屋鋪受授事

屋鋪受授 天保九年六月受授スル所ニ若干屋鋪有リ。

天保九戌年

大番組屋鋪

一、成六月朔日。松尾儀左衛門上地

一、麻布龍土百八拾壹坪餘

大御番頭建部内匠頭與力 小葉重三郎差戻

嶋村辨藏

一、成六月五日。松浦勝太郎上地

小普請組岡村丹後守支配御勘定出役 嶋村辨藏 當分拜借地

同日。前同斷

同 同 前 同 前 同 人

一、前同斷三拾坪餘

同 同 前 同 前 同 人

脇坂甚兵

一、成六月十九日。本郷御弓町組合辻番所地所

脇坂甚兵衛

但、當分拜借地御除殘地嶋村辨藏に御預。

——屋敷書抜

戊年○天保九年六月

和泉守殿○松平兼寛啓阿彌を以御渡、備前守○井上秀發請取。

御普請奉行也。

殷昌期

曾我助順

御書院番頭
曾我伊豫守助順

仙石彌三郎

寄合
仙石彌三郎同

秋山龜太郎

同
秋山龜太郎西丸御留守

吉松土佐守

吉松土佐守御小性組秋田淡路守組

諸星傳左

諸星傳左御小性組齋藤内藏頭組

蜂屋七兵衛

蜂屋七兵衛與御右筆

小野田熊之助

小野田熊之助小普請組久留十左衛門支配

笠原惣五郎

笠原惣五郎御腰物方

土屋四郎次郎

土屋四郎次郎小普請組戸塚備前守支配

横山孫市

横山孫市小普請組久留十左衛門支配

矢橋喜兵衛

矢橋喜兵衛同長井五右衛門支配

仙石彌三郎拜領屋敷本所三ツ目四ツ目之間
千拾七坪

秋山龜太郎拜領屋敷元飯田町橋木坂下千九百貳拾九坪餘之内
三百坪

曾我伊豫守拜領屋敷目白臺千五百坪餘之内貳拾坪餘新規定式
之致し残り千四百八拾坪餘之内
四百八拾坪餘

同所之内
千坪

諸星傳左衛門拜領屋敷小川町
貳百四拾坪

吉松土佐守拜領屋敷淺草鳥越千貳拾四坪餘之内
百坪

小野田熊之助拜領屋敷本所横綱御竹藏前
千拾六坪

笠原惣五郎拜領屋敷本所林町四丁目
四百九拾貳坪

蜂屋七兵衛拜領屋敷三番町通五百三拾坪之内
三百三拾坪

同所之内
貳百坪

矢橋喜兵衛拜領屋敷牛込若宮八幡町
四百六拾餘

土屋四郎次郎拜領屋敷市谷新本村片町八百貳拾坪之内
六百坪

横山孫市拜領屋敷小石川
三百坪

岩澤敏五郎

中村七郎右衛門屋敷四谷角管
貳百坪

中村七郎

岩澤敏五郎拜領屋敷牛込白銀町
貳百坪

河原八郎

青木一平拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷貳百五拾坪餘之内
百四拾八坪

青木一平

河原八郎左衛門拜領屋敷青山新屋敷
百三拾六坪餘

鈴木八十

蜂屋重藏拜領屋敷小石川鷹匠町
百四拾坪

蜂屋重藏

鈴木八十郎拜領屋敷小石川柳町築地
百坪

右願之通屋敷相對替被仰付御間、得其意、例之通可被致し。

相對替御書附書拔

大判金増鑄

廿四日癸巳天保九年(紀元二四九八)六月。○癸巳、三正綜覽。幕府大判金ヲ増鑄ス。○政保間記。撰要永久錄。

大判金増鑄事蹟

左ノ如ク傳ス、

天保九戌年六月廿四日肥後守殿○林忠英兩丸御目付○天保九年六月。觸。廿七日○天保九年六月。

大判之儀、享保之度吹改後、年數相立、慶失等ニ減少なたしひニ付、此度吹増被仰付御間、新古取交

無滞可致通用い。

右之趣可被相觸い。

政保間記

大判之儀、享保度吹改後、年數相立、○中略。前文ニ同ジ。

般昌期

右之通御書付出の間、町中不洩様可相觸い。

六月廿六日○天保九年

——撰要永久録

屋鋪受授

七月朔日庚子○天保九年(紀元二四九八年)○庚子、三正綜覽。屋鋪預有リ。

外ニ是月○天保九年(紀元二四九八年)七月。

及八月○天保九年(紀元二四九八年)

九月中、若干屋鋪受授セラル。○屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授 天保九年七月八月九月中ニ左ノ屋鋪受授ヲ見タリ。

屋鋪受授事蹟

天保九戌年

一、○天保九戌年筋違橋御門外八拾七坪餘

一、○天保九戌年目白臺會我伊豫守下屋敷之内仙石彌三郎

秋山善之進切坪相對替新規定式證文。

一、○天保九戌年裏猿樂町九百五十三坪餘

一、○天保九戌年小川町雉子橋通御堀ニる惣揚場地所

一、○天保九戌年永田町六百七十七坪餘

一、○天保九戌年築地海手ニる水稽古竹立置地所

德川齊順

松平正名

本郷泰固

京極高福

馬場藤五郎

御金奉行

馬場藤五郎○預地。

表高家 京極兵庫助○高福。

御側衆 本郷丹後守○泰固。

松平筑後守○正名。永預地。

紀伊 殿○德川齊順。

——屋敷書拔

戊○天保九年七月十三日

中務大輔殿○松平正名林阿彌を以御渡、助之丞○松平正名請取。

御普請奉行

大久保治郎左衛門拜領屋敷市谷新村谷町上七百六拾坪之内三百六拾坪餘

尾張殿下屋敷四谷内藤宿六千貳百八拾三坪餘之内百坪

御願之通屋敷相對替被仰出之。

田中鐵三郎拜領屋敷芝伊皿子横町貳千五百坪

片桐石見守拜領下屋敷麻布六本木鳥居坂千八百坪

京極壹岐守拜領下屋敷白金新堀千五百貳拾九坪之内三百五坪

矢葺熊藏拜領屋敷北本所中之郷松倉町百拾九坪

中條平助拜領屋敷小日向百八拾坪

松崎潤之助拜領屋敷本所南割下水五百坪

土屋長三郎拜領屋敷下谷向柳原五百拾貳坪餘之内貳百七拾九坪餘

服部八郎五郎拜領屋敷菓鴨火之番町貳百四拾六坪餘

殷昌期

八二三

尾張 殿○德川齊順。

小普請組後藤佐渡守支配 大久保次郎左衛門

片桐石見守○貞信。

京極壹岐守○高福。

小普請組土屋伊賀守支配 田中鐵三郎

御小性組石川大隅守組 中條平助

右大將様小十人西尾藤四郎組 矢葺熊藏

西丸御小性組菅沼伊賀守組 土屋長三郎

御書院番高井但馬守組 服部八郎五郎

小普請組土屋伊賀守支配 松崎潤之助

西郷八郎
松平量助
猪俣近六郎
平野助之
宮本十五郎
高柳久助
馬場三左郎
近藤彦八郎
高柳清八郎
栗田鐵三郎
今井田半次郎

猪俣近六郎拜領屋敷四谷北伊賀町百三拾六坪餘
西郷八郎左衛門拜領屋敷赤坂築地五百坪之内五拾坪
松下量助拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷貳百八拾七坪之内百六坪
高柳清八郎拜領屋敷四谷仲町百坪
近藤彦八郎拜領屋敷谷中三崎三百坪之内百五拾坪
同所之内百坪
同所之内五拾坪
宮本十五郎拜領屋敷小石川小原町貳百坪之内百五拾坪
今井田半次郎拜領屋敷巢鴨九拾四坪餘
平野助之進拜領屋敷小石川牛込天神下貳百拾坪餘
馬場三左衛門拜領屋敷三番町百六拾貳坪餘
高柳久助拜領屋敷四谷仲町九拾八坪餘
栗田鐵三郎拜領屋敷根津五拾坪

西丸御小性組菅沼伊賀守組
西郷八郎左衛門配
小普請組長井五右衛門支配
松下量助
富士見御寶藏番藤沼源左衛門組
猪俣近六郎
右大將様小十八好佛三郎組
平野助之助
小普請組戸塚備前守組
宮本十五郎
同人組
高柳久助
小十八格御庭番
馬場三左衛門
近藤彦八郎
戸塚備前守組世話役
高柳清八郎
御先手大久保彌右衛門組同心
栗田鐵三郎
小普請組戸塚備前守組
今井田半次郎

松平五郎三郎
佐々布鐵之助

佐々布鐵之助拜領屋敷本所北割下水三百六拾坪餘
松平五郎三郎拜領屋敷市ヶ谷新本村三百坪

小普請組戸塚備前守支配
松平五郎三郎
同人支配
佐々布鐵之助

右願之通屋敷相對替被仰付の間、得其意例之通可被致し。

相對替御書附書拔

天保九戊年

平井監物
飯河善左
小笠原三九郎
銀座
徒組屋鋪
徒組屋鋪
徒組屋鋪
德川慶昌

戊八月十日。渡邊圖書助屋敷之内
一、四谷角筈村八百坪餘
同日。同斷
一、同所七百五拾坪
同月十一日。平井監物上地
一、湯島天神下七百四拾五坪
同月十八日。巨勢六左衛門屋敷
一、濱町蛸殻町八百三十七坪
戊八月十九日。馬場泰之助上地
一、下谷六軒町百九十坪餘
戊八月十九日。葦名廉三郎上地
一、下谷七軒町百貳十七坪餘
戊八月二十日。大橋一九郎上地
一、牛込中御徒町貳百三拾壹坪餘
同月廿四日
一、橋御門内材木諸色置場地所

寄合
平井監物
小普請組後藤佐渡守支配
飯河善左衛門
同戸塚備前守支配
小笠原三九郎
銀座
筒井權左衛門組御徒
澁谷善兵衛
遠藤近江守組御徒
竹内吉之助
大澤仁十郎組御徒
中嶋金右衛門
殿○德川

德川齊順

一、八月廿七日。水野土佐守屋敷之内永御預地共
半込原町五百七坪

紀伊

殿○德川齊順

一、濱町蛸殻町巨勢六右衛門屋敷

銀

(奉) 天保九戌年八月十八日渡。

園込地。

一、屋敷書拔

戊○天保九年八月十八日

越前守殿○水野忠邦。啓阿彌を以御下ケ、備前守○井上秀榮。請取。

御普請奉行○

野間庄左

内藤十郎兵衛拜領屋敷三番町通
三百貳拾貳坪餘

田安一位殿用人
野間庄左衛門○

内藤十郎兵衛

野間庄左衛門拜領屋敷目白坂上五百坪之内
三百貳拾貳坪餘

小普請組久留十左衛門支配
内藤十郎兵衛○

松平健三郎

川井宇右衛門拜領屋敷小日向荒木坂上三百五拾坪之内
貳百五拾坪

右大將様御小性組蟻川越中守組
松平健三郎○

片山與八郎

松平健三郎拜領屋敷小川町堀留
四百拾四坪

奥御右筆
片山與八郎○

川井宇右

宇都野瀧三郎拜領屋敷大久保五百五拾坪餘之内
貳百坪餘

小普請組久留十左衛門支配
川井宇右衛門○

宇都野瀧三郎

片山與八郎拜領屋敷小石川三百坂
百三拾九坪餘

夏日向守支配
宇都野瀧三郎○

妻木小源太

飯田正之助拜領屋敷牛込若宮
貳百坪

右大將様御小性組杉浦出雲守組
妻木小源太○

城秀次郎

上田新右衛門拜領屋敷麻布古川町
百八拾五坪餘

右大將様御書院番淺野壹岐守組
城秀次郎○

上田新右

妻木小源太拜領屋敷大久保余丁町
百五拾三坪

同人組
上田新右衛門○

飯田正之助

城秀次郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷
四百三拾五坪

御目見持格峯壽院様御侍並
飯田正之助○

右願之通屋敷相對替被仰付○間、得其意、例之通可被致○。

相對替御書附書拔

天保九戌年

戌九月朔日

一、赤坂田町貳丁目番屋裏松平美濃守御預明地之内○る職棹置場地所町役人共渡

(奉) 嘉永元申年町役人共心得違之儀有○之○付地所取上○成ル。

同日

一、右同斷松平美濃守心得方之儀證文。

戌九月三日

一、表四番町千二百七坪
小笠原三九郎上地飯河善左衛門上地之内

寄合
池田右京

戌九月三日

一、表四番町貳百七十七坪餘
飯河善左衛門上地割殘

池田右京預地

(奉) 天保十亥年二月朔日高井主水○渡ス。一本○消印。

般昌期

池田右京

太田資深
豊田藤之進
本多正寛
戸田氏敏
生田次郎
太郎
賄組屋鋪

同月七日。池田右京上地大貫次右衛門上地之内
一、神田橋外小川町貳千三拾壹坪
成九月十五日。富安九郎上地
一、下谷三味線堀百五十六坪餘 外御預地六十七坪共
天保十亥年正月廿六日内藤遠江守豊田藤之進に添地ニ渡。
成九月十七日
一、神田橋御門外一手持辻番模様替地所
成九月二十日
一、一橋御門外小川町組合辻番場所替地所
成九月廿三日。河野忠藏上地
一、深川高橋百三拾坪餘
成十月二十九日。熊藏上地
一、小日向新屋敷七拾坪餘

西丸御側衆
太田下總守資
評定所留役御勘定組
豊田藤之進預地。
本多豊前守正
高家
戸田加賀守氏
石川太郎左衛門組御徒
生田次郎太郎
御賄六尺頭
坂尾嘉内
差戻。

附記、
貨幣交換

〔附記〕 貨幣交換制

同年天保九年九月十一日肥後守殿松平。兩丸御目付に。十四日天保九年觸。

文政度吹直被仰付小判壹步判眞字草字貳步判共、向後爲引替差出得、道法之遠近之不拘、百兩之付金壹兩ツ、爲御手當持主に被下間、右金所持之者ハ、早々引替差出可申。且眞字貳分判之義ハ、追々引替相濟、世上殘少ニ相成得共、通用停止之品之付、猶又精出引替可申。若此上ニも貯置ハもの於有之ニ、嚴敷可及沙汰條、其段兼る相心得様、御料之御代官、私領之領主地頭ハ急度可被申付。

右之趣可被相觸。

九月天保九年

政保間記

屋鋪受授

十月四日壬申天保九年(紀元二四九八年)〇壬申三正綜覽

屋鋪相對替有リ。是月天保九年(紀元二四九八年)十月外ニ受授スル所ノ

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授 屋鋪受授ノ天保九年十月ヲ以テ爲サレタル者ヲ集記ス。
成天保九年十月四日

和泉守殿松平啓阿彌を以御渡、助之丞松平請取。

御普請奉行に

織田信學
竹腰山城守
巨勢六左
川口久助
弓氣田新助
平賀三五郎

巨勢六左衛門拜領屋敷鐵炮洲築地 貳千拾五坪
織田伊勢守拜領屋敷赤坂藥研坂 貳千九百坪餘
川口久助拜領屋敷淺草元鳥越 千百貳拾壹坪
弓氣田新助拜領屋敷四谷久能町千五百坪之内 八百坪
竹腰山城守拜領下屋敷四谷千駄ヶ谷六千六百七拾六坪之内 貳百坪
村田主税助拜領屋敷青山五拾人町 貳百坪

織田伊勢守信學
尾張殿家老
竹腰山城守
西丸御納戸
巨勢六左衛門久
御小性組齋藤内藏頭組
川口久助
御臺様御廣敷伊賀者
弓氣田新助
御小納戸
平賀三五郎

般昌期

八二九

村田主税 助
屋代左衛門
須田與左
石原城之助
吉野豊藏
水野忠徳
左 荒木十郎
儀我啓次郎
倉橋與四郎
千田玄東
宮本龍之助
龜井伊三郎

平賀三五郎拜領屋敷駿河臺甲賀坂上七百三拾坪餘之内
貳百坪
須田與左衛門拜領屋敷新道壹番町七百坪
外之永御預地貳拾四坪餘
石原城之助拜領屋敷表六番丁法眼坂三百四拾三坪
吉野豊藏拜領屋敷駒込貳百坪餘
屋代左衛門拜領屋敷赤坂御門内九百七拾五坪餘之内
貳百坪餘
儀我啓次郎拜領屋敷青山若松町五百坪
水野甲子二郎拜領屋敷巢鴨大原町七拾坪
荒木十郎右衛門拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷四百坪餘之内
貳百五拾坪餘
千田玄東拜領屋敷駿河臺富士見坂三百五拾坪
倉橋與四郎拜領屋敷小石川指ヶ谷町貳百拾四坪餘
龜井伊三郎拜領屋敷巢鴨百貳拾壹坪餘之内
五拾五坪
宮本龍之助拜領屋敷麴町天神前通九拾六坪

小普請組長井五右衛門組
村田主税 助
寄 屋代左衛門
西丸御小性組本多日向守組
須田與左衛門
大御番北條遠江守組
石原城之助
表御臺所人
吉野 豊 藏
西丸御小性組本多日向守組
水野 甲子二郎
小十人高林左兵衛組
荒木 十郎右衛門
小普請組藤懸采女支配
儀我 啓次郎
御書院番森川下總守組
倉橋 與四郎
千田 玄 東
御番醫師
御書院番森川下總守組
宮本 龍之助
御留守居松平内匠頭與力
龜井 伊三郎

古田主殿
中村鎗三郎
酒井金五郎
中川市右
山内總左
青木熊次
京極高琢
今川上總介

中村鎗三郎拜領屋敷市谷田町船河原貳百坪
酒井金五郎拜領屋敷四谷内藤宿裏番衆町七百坪之内
同所之内
貳百坪
古田主殿拜領屋敷澁谷官益町百貳拾六坪
右願之通、屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致い。
天保九戌年
戌十月十一日。松平靱負上ヶ地
一、小石川大塚貳百五十坪
戌十月十四日。石寺八藏上地
一、麻布筭橋百五十坪餘
天保十亥年五月晦日青野又助櫻井久之助に渡す。一本ニ消印。
戌十月十七日。玉虫左兵衛上地
一、麻布御殿跡貳百坪餘
右同年二月廿一日嶋田長之助杉山又右衛門に渡。消印。
戌十月廿二日。片桐石見守屋敷と壹岐守屋敷と之間袋道御差加地
一、麻布六本木鳥居坂百拾五坪餘
戌十月廿七日
一、神田橋御門外小川町組合辻番所場所替地所

小普請組藤懸采女支配
古田 主 殿
土屋伊賀守支配
中 村 鎗 三 郎
夏日向守支配
酒 井 金 五 郎
相對替御書附書拔
小普請組久留十左衛門支配
中 川 市 右 衛 門
御天守番朝倉六左衛門組
山 内 總 左 衛 門
寄 合
青 木 熊 次
御預地
京 極 壹 岐 守
今 川 上 總 介

一、麻布六本木鳥居坂片桐石見守屋敷と壹岐守屋敷と之間袋道
(未)
天保九戌年十月廿二日渡。

京極 壹岐守高
差加地球

— 屋敷書拔

附記、
金銀交換
期延長

〔附記〕 金銀交換期延長

天保九戌年十月廿一日肥後守殿林。兩丸御目付。廿四日天保九觸。

古金銀眞字貳分判古貳朱銀壹朱金等引替所之儀、當天保九十月迄被差置天保段、去酉年天保八相觸天保處、
今以引替殘有之天保間、引替所之儀、猶又來亥天保十十月を迄、是迄之通被差置天保條、古金銀其外所持
之者之、來亥天保十十月を限、急度引替可天保申天保。

一、草字貳分判并文政度吹直貳朱銀之儀を、追々通用停止可天保八被仰付旨、去酉年天保八相觸天保趣も有之
間、所持之者ハ、後藤三右衛門銀座役所并江戸京大阪其外在々之を、當時引替御用相勤天保の共之
内、早々差出、引替可天保申天保。

右之趣、遠國末々迄、得々相心得様、御料之御代官、私領之領主地頭、入念可天保申付天保。
十月天保九。

右之通可天保被相觸天保。尤西丸并右大將御目付にも可有通達天保。

— 政保間記

屋鋪受授

十一月五日癸卯天保九年(紀元二四九八年)○癸卯三正總覽。屋鋪地永預有リ。外ニ是月天保九年(紀元二四九九八年)十一月。若干屋鋪

ヲ受授ス。○屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事

屋鋪受授 天保九年十一月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

天保九戌年

屋代左衛門

一、天保九十一月五日。須田與左衛門永御預地

同(○寄倉) 屋代左衛門 永御預地。

持組屋鋪

一、天保九十一月十二日。黒羽彌九郎上地

御持筒頭高城清右衛門組與力 若代辰兵衛 差展。

松平錦之丞

一、天保九十一月十六日。井上新右衛門上地

西丸御持弓頭中根壹岐守與力 寺本巳之助 差展。

持組屋鋪

一、天保九十一月廿八日。松榮院様御住居向普請ニ付屋敷内地狭ニ付常盤橋御門内廣場ニ木作之場所拜借地所

松平錦之丞 — 屋敷書拔

戊天保九十一月廿七日

中務大輔殿○湯坂安齋。林阿彌を以御渡、備前守○井上秀榮。請取。

御普請奉行天保九

大久保忠誨

大久保長十郎拜領屋敷四谷鮫ヶ橋上御堀端八百五拾坪之内

西丸御側 大久保 駿河守○忠誨

大久保長十郎

大久保駿河守拜領屋敷遠外御堀端貳千八百八拾八坪餘之内

御書院番大久保紀伊守組 大久保 長十郎○忠誨

金森山城守

藪賢之丞拜領屋敷裏六番町

御先手 金 森 山城 守○忠誨

小笠原縫殿助

大久保次郎左衛門拜領屋敷市谷新村谷町四百坪之内

御書院番大久保紀伊守組 小笠原 縫殿 助○忠誨

永田大次郎

同所之内 三百坪

小普請組藤懸采女支配 永田 大次郎○忠誨

般 昌 期

八三三

東京市史稿

大久保次郎左 藪賢之丞 阿部進太郎 宮崎平四郎 谷鐵太郎 永田彌三郎 向坂榮之助 能勢平三郎 大久保鐵之助 諏訪大三郎 森縫殿助 里見八郎右

阿倍進太郎拜領屋敷小石川柳町五百坪餘
永田大次郎拜領屋敷三番丁六百坪
金森山城守拜領屋敷神田橋御門外四百五拾坪
小笠原縫殿助拜領屋敷同所五百八拾坪餘之內五拾坪
谷鐵太郎拜領屋敷麩町元山王下七百坪餘之內百貳拾貳坪餘
宮崎平四郎拜領屋敷同所六百坪之內百五拾八坪餘
向坂榮之助拜領屋敷四谷千駄谷貳百坪
永田彌三郎拜領屋敷小石川馬場貳百坪
大久保鐵之助拜領屋敷澁谷筈橋百五拾坪
能勢平三郎拜領屋敷青山五十八町三百坪
里見八郎右衛門拜領屋敷本所南割下水貳百坪餘
諏訪大三郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷五百坪之內三百坪
森縫殿助拜領屋敷本所三ツ目菊川町三百拾壹坪餘
金田七郎兵衛拜領屋敷本所吉岡町貳百坪之內五拾壹坪餘

八三四

後藤佐渡守支配 次郎左衛門
大久保 夏日向守支配 藪賢之丞
酒井森之助支配 阿倍進太郎
寄合 宮崎平四郎
小普後組後藤佐渡守支配 谷鐵太郎
西丸小十人牧志摩守組 永田彌三郎
小普請組後藤佐渡守支配 向坂榮之助
小普請組戸塚備前守支配 能勢平三郎
岡村丹後守支配 大久保鐵之助
小普請組夏日向守支配 諏訪大三郎
同人支配 森縫殿助
岡村丹後守支配 里見八郎右衛門

金田七郎兵衛

堀田正篤 龜井茲方 佐藤金之丞 加納久壽 松平清倫 溝口直清 朝岡三次郎 小林甚五左

里見八郎右衛門拜領屋敷本所林町三丁目三百坪之內百五拾坪

御臺様御廣敷添番 金田七郎兵衛

右之通屋敷相對替被仰付之間、得其意、例之通可被致し。

十一月廿九日○天保九年。中務大輔殿^{○瑞安}。林阿彌を以御下ケ、助之丞^{○松平}請取。御普請奉行也。

加納遠江守拜領屋敷澁谷下豊澤村三千六百坪
溝口讚岐守拜領屋敷品川領戸越村千六百貳拾六坪之內五百坪
同所之内 百坪
堀田備中守拜領中屋敷深川海邊新田千七百六坪
松平主水拜領屋敷赤坂溜池端千五百九拾九坪餘
龜井能登守拜領下屋敷麻布白銀五千貳百坪
佐藤金之丞拜領屋敷深川海邊新田四百三拾三坪餘
小林鎌太郎拜領屋敷裏六番町九百坪之內五百拾貳坪餘
朝岡三次郎拜領屋敷表六番町六百拾四坪餘

堀田備中^{○正篤}守
龜井能登^{○茲方}守
佐藤金之丞
寄合 加納遠江^{○久壽}守
交替寄合 松平主水^{○清倫}守
中奥御小性 溝口讚岐^{○直清}守
西丸御小納戸 朝岡三次^{○朝岡}郎
新御番能勢惣右衛門組 小林甚五^{○甚五}左衛門

小林錄太郎

小林甚五左衛門拜領屋敷四谷千駄ヶ谷四百坪

小普請組岡村丹後守支配

小林錄太郎

大久保齋宮

平岩與次右衛門拜領屋敷本所南割下水三百坪
大久保齋宮拜領屋敷大久保余丁町三百八拾坪

御小性組秋田淡路守組

大久保齋宮

平岩與次

和忠四郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷三百五拾坪餘

御小性組藤内藏頭組

竹内五六左衛門

和忠四郎

竹内五六左衛門拜領屋敷五番丁谷町三百五拾坪

西丸新御番近藤頼母組

和忠四郎

土田勇右

杉原市左衛門拜領屋敷小日向築地江戸川端五百坪

西丸御小性組關播磨守組

土田勇右衛門

杉原市左

土田勇右衛門拜領屋敷小石川新鷹匠町百五拾五坪餘

右大將樣御書院番淺野壹岐守組

杉原市左衛門

久留善太郎

堀稻五郎拜領屋敷同所五拾坪餘
本間金之丞拜領屋敷市ヶ谷土取場百五拾坪之内百坪

大御番北條遠江守組

久留善太郎

堀稻五郎

同所之内五拾坪

小普請組後藤佐渡守支配

堀稻五郎

宮寺五平次

土田勇右衛門拜領屋敷神田柳原元誓願寺前百五拾六坪餘

御勘定評定所留役

宮寺五平次

山角鋼太郎

山角鋼三郎拜領屋敷表四番町貳百七拾坪餘
久留善太郎拜領屋敷小日向元切支丹屋敷四百八拾坪餘之内貳百坪餘

小普請組戶塚備前守支配

山角鋼太郎

本間八之丞

宮寺五平次拜領屋敷四谷傳馬町三丁目百五拾坪

岡村丹後守組

本間八之丞

高山角兵衛

岡田傳太郎拜領屋敷濱町元矢之倉村松町貳百坪

御納戸

高山角兵衛

岡田傳太郎

高山角兵衛拜領屋敷四谷内藤宿裏番衆町貳百四坪餘

小普請組後藤佐渡守支配

岡田傳太郎

稻垣藤左

柴田三作拜領屋敷本所林町貳丁目百五拾坪

大御番戶田隼人正組

稻垣藤左衛門

柴田三作

稻垣藤左衛門拜領屋敷大久保前町三百坪之内貳百坪

小普請組戶塚備前守支配

柴田三作

三浦又十郎

曾根謙藏拜領屋敷本郷御弓町三百坪

御作事下奉行格御臺樣御膳所組頭

三浦又十郎

曾根謙藏

高林富三郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷五百坪之内貳百坪

小普請組夏日日向守支配

曾根謙藏

高林富三郎

三浦又十郎拜領屋敷本所吉岡町五拾六坪餘

土屋伊賀守支配

高林富三郎

山崎主水

中川市右衛門拜領屋敷小石川大塚八百拾坪

小普請組戶塚備前守支配

山崎主水

中川市右

山崎主水拜領屋敷小石川上富坂町五拾坪

久留于左衛門支配

中川市右衛門

右願之通、屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致す。

相對替御書附書拔

附記、一
留守居戒飭

〔附記、一〕 留守居戒飭

天保九戌年十一月十一日河内守殿○増山正繁

諸大名留守居不慎之儀之付、追々相違い趣有之、猶又寛政元酉年相違い處、近來相馳之、茶屋等之番

寄合、遊興ケ間敷事抔相聞、且古役之者權高ニシテ、新古之差別を立、新役等之申合六ヶ敷致し、無益之費用を懸い由、如何之事ニシ。先年相達い趣、無違失相守い様、主人々々々嚴敷可被申付い。此後右様之不愼之趣相聞いハ、急度可及沙汰い。去之通去ル丑年○文政十二年相觸い處、風儀不_レ宜旨有之いニ付此度答申付い。右達之趣厚相心得、不取締等之儀無之様、主人々々々能々可被申付い。右之趣、万石以上之面々ハ、相觸い旨、可被得其意い。

十一月○天保九年

——政保間記

附記、二
明 檢約令申

〔附記、二〕 檢約令申明

天保九戌年十一月十四日肥後守殿○林忠英。十七日○天保九年十一月觸。貳通。

近來引續御檢約被仰出い得共、累年御入用筋相嵩、殊ニ御縁邊向御慶事其外御普請御修復等ニシテ、不時之御用途打重りいニ付、當戌年○天保九年迄嚴敷御省略有之い處、彼是不時之御物入有之、御用途差湊、并近年不作打續、御收納相減、御勝手向御繰合不被行届、當年○天保九年も作方不_レ宜趣ニ付、御收納方にも相響可_レ申、且西丸御普請之莫大之御入用ニも有之、旁來亥年○天保十年卯年○天保十四年迄五ヶ年之間、猶又御檢約被仰出い間、諸事文化八未年以來度々被仰出、并當春○天保九年相達い通被心得、右年限中も、不_レ依何事、無據申立ヲ以拜借等相願い共、被及御沙汰間敷い間、右ニ准、都る臨時入用ニ拘りい諸願筋之被差担、面々ニも彌檢約相用い様可被致い。右之通可被相觸い。尤西丸并右大將様御目付にも、可有通達い。

十一月○天保九年

近年引續御檢約被仰出い得共、累年御入用筋相嵩、殊ニ御縁邊向御慶事其外御普請御修復等ニシテ、不時之御物入有之、御用途差湊、并近年不作相續、御收納相減し、御勝手向御繰合不被行届い。去西年○天保八年。稀成御大禮、此度西丸御普請ニ付るハ、莫大之御用途ニ有之、其上當年○天保九年も作方不_レ宜趣ニ付、御收納方にも相響可_レ申い。依之來亥年○天保十年卯年○天保十四年迄五ヶ年之間、猶又御檢約被仰出い間年限中も、諸役所御足高ハ不及申、臨時御入用等精々心付、可成又相減い様可被取計い。尤諸場所御普請道造り、并寺社御修復神器佛具等ニ至迄、無據ケ所ニハ共、西丸御普請ニ付るハ、高百俵以上之者ハ、上納金之被仰付い程之儀ニ付、猶又心附御差延之心得ヲ以、向々ニも容易ニ不_レ申立様取計、諸事文化八未年以來、度々相達い趣、無違失、御檢約行届い様、出情可被致い。勿論御檢約筋之義ニ付心附い義ハ、無遠慮可被申上い。

十一月○天保九年

——政保間記

屋鋪受授

十二月三日庚午○天保九年(紀元二四九八年)○庚午、三正綜覽。鐵炮方組屋鋪收公地ヲ還給ス。此外若干屋鋪是月○天保九年(紀元二四九八年)十二月受授セラレ。○屋敷書拔。相對

屋鋪受授 天保九年十二月受授スル所ニ左ノ屋鋪有リ。

屋鋪受授事

天保九戌年

生田太郎

一、巢鴨仲町横町百三坪餘

田付四郎兵衛組與力 生田太郎 郎次 差辰。

殷 昌 期

八三九

榎本勝次郎

戌十二月八日。久嶋定次郎上ケ地
一、本所三ツ目三笠町四拾坪

天保十亥年二月廿日中村平次郎に渡。一本之消印。

同日。同入上ケ地拜借御除殘地
一、同所百六拾坪餘

前同斷。

田中幸右

戌十二月十四日。大森清左衛門上地
一、青山百人町三百七坪

大貫次右

戌十二月廿五日。太田下總守上地
一、駿河臺甲賀町七百坪餘

戌九年十二月廿一日

備後守殿。啓阿彌を以御渡、豊前守。請取。

御普請奉行に

牧野成著

堀田伊勢守拜領下屋敷小日向荒木坂上
六百五拾九坪餘

堀田伊勢守

近藤頼母拜領屋敷日白臺清戸
貳千坪餘

近藤頼母

牧野伊豫守拜領下屋敷品川領戸越村貳百八拾五坪之内
百坪

戸田阿波守

前嶋逸作拜領屋敷本郷御弓町壹岐坂上
貳百坪

多田春橋

戸田阿波守拜領屋敷市谷火之番丁貳百壹坪之内
百坪

村松万藏支配御口之者
榎本勝次郎
當分御預地。

右 同 人
御預地。

百人組之頭遠山安藤守組與力
田中幸右衛門

御代官
大貫次右衛門

屋敷書拔

御側
牧野伊豫守に

西丸御側
堀田伊勢守に

同新御番
近藤頼母に

右大將御側
戸田阿波守に

大御番大岡紀伊守組
多田春橋に

前島逸作

多田春橋拜領屋敷湯嶋麟祥院前
貳百四拾坪

新村藤太夫

松平小左衛門拜領屋敷小日向冷水番所
四百八拾坪

松平小左

松平易太郎拜領屋敷牛込御門外御堀端
六百坪餘

松平易太郎

小倉熊太郎拜領屋敷本所中之郷
三百坪餘

小倉熊太郎

新村藤太夫拜領屋敷青山新坂
三百坪

松浦忠右

渡邊宗右衛門拜領屋敷北本所二三橋之間
四百四拾六坪餘

渡邊宗右

荒川長三郎拜領屋敷本所南割下水
貳百坪

荒川長三郎

松浦忠右衛門拜領屋敷豊嶋郡千束村五百坪之内
貳百八拾坪

荒川長三郎

同所之内
七拾坪

森榮十郎

根來茂右衛門拜領屋敷小石川安房町三百坪之内
百坪

根來茂右

森榮十郎拜領屋敷湯嶋切通
百六拾坪餘

深谷文次郎

松本郷右衛門拜領屋敷本所御臺所町
百七拾八坪

松本郷右

深谷文次郎拜領屋敷根津元御屋敷跡
百五拾坪

御代官寺西藏太手附御普請役格

前嶋逸作に

西丸御先手
新村藤太夫に

御小納戸
松平小左衛門に

新御番米倉大内藏組
松平易太郎に

表御右筆
小倉熊太郎に

寄合
松浦忠右衛門に

御小性組逸見甲斐守組
渡邊宗右衛門に

小普請組岡村丹後守支配
荒川長三郎に

西丸小十人牧志摩守組
森榮十郎に

宮内卿殿近習番
根來茂右衛門に

富士見番大岡源右衛門組
深谷文次郎に

御寶藏番
深谷文次郎に

西丸表御臺所人
松本郷右衛門に

右願之通屋敷相對替被仰付ひ間、得其意、例之通可被致い。

戊○天保九年。十二月廿九日

備後守殿○太田資給。啓阿彌を以御下ケ、豊前守○松平政周。請取。

御普請奉行。

大友丹次郎
青山芳太郎
前田右近
水野小十郎
森川銚太郎
富田菅太郎
長嶋三平
木村万五郎

青山芳太郎拜領屋敷本所南割下水
貳百五拾坪
大友丹次郎拜領下屋敷大塚坂下町千五百坪之内
百五拾坪餘
森川銚太郎拜領屋敷小石川大塚千六百八坪餘
七百坪餘
前田右近拜領屋敷神田佐久間町貳丁目五百貳拾五坪之内
百九拾六坪餘
長嶋三平拜領屋敷澁谷
百貳拾三坪
水野小十郎拜領屋敷神田佐久間町貳丁目七百五坪之内
八拾八坪
前田右近拜領下屋敷同所五百貳拾五坪之内
百四拾坪餘
同所之内
百八拾八坪
宮田菅太郎拜領屋敷本所綠町貳丁目
百貳拾五坪
算清右衛門拜領屋敷赤坂築地
貳百五拾貳坪餘

表高家
大友丹次郎
小普請組伊澤美作守支配
青山芳太郎
表高家
前田右近
御小性組逸見甲斐守組
水野小十郎
小普請組夏目日向守支配
森川銚太郎
支配勘定格
富田菅太郎
御普請役
長嶋三平
大御番松平但馬守組與力
木村万五郎

富永喜三郎
寛清右
大野幸次郎
平岡彌太郎
渡邊爲之助
加藤茂六郎
小林甚助
依田式部
大草彌三郎
河内左京
三浦源太夫

大野幸次郎拜領屋敷市谷長延寺谷
百六拾坪餘
平岡彌太郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷七百七拾五坪之内
四百貳拾五坪
同所之内
貳百坪
同所之内
百五拾坪
木村万五郎拜領屋敷牛込北御徒町
五拾八坪
外御預地三坪。
富永喜三郎拜領屋敷巢鴨新屋敷
三百坪
加藤茂六郎拜領屋敷芝二本榎
六百坪
渡邊爲之助拜領屋敷裏貳番町麴町七丁目權町
四百三拾坪餘
依田式部拜領屋敷麻布谷町
三百五拾坪
小林甚助拜領屋敷市谷大隅丁
貳百三拾坪餘
三浦源太夫拜領屋敷青山權田原千日坂上
貳百五拾坪
大草彌三郎拜領屋敷麴町元山王
貳百五拾四坪
河内左京拜領屋敷麻布白銀今里村
百五拾坪

殷昌期

八四三

御小性組齋藤内藏頭組
富永喜三郎
御書院番小笠原長門守組
寛清右衛門
大御番細川長門守組
大野幸次郎
小普請組後藤佐渡守支配
平岡彌太郎
大御番細川長門守組
渡邊爲之助
戸田隼人正組
加藤茂六郎
大御番北條遠江守組
小林甚助
小普請組藤懸采女支配
依田式部
大御番戸田淡路守組
大草彌三郎
戸田隼人正組
河内左京
細川長門守與力
三浦源太夫

向山源太

木村久左衛門拜領屋敷牛込御門内田安通り

奥御右筆所留物方

夫

貳百坪

向山源太 夫

木村久左

向山源太夫拜領屋敷大久保前町

小普請組夏日向守支配

百九拾坪餘

木村久左衛門

右願之通、屋鋪相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致し。

相對替御書附書拔

酒肆茶房取

七日甲戌○天保九年(紀元二四九八年)十二月幕府酒肆茶房ノ妓女ヲ養ヒ賤業ヲ營マシムルヲ禁ス。天

保撰要類集。

酒肆茶房取

酒肆茶房取締 天保撰要類集ヲ抄出ス。

天保九戌年十二月七日越前守殿○水野御直御渡、翌八日○天保九年十二月承付致し、荒井甚之丞を以返上。

書面取締方之儀、御書取之通取計可申旨被仰渡、奉承知し。

戊○天保九年十二月七日

大草安房 守○高好。

賣女ニ紛敷稼致ししをの井端々料理茶屋水茶屋等之儀ニ付取調申上し書付。

市中隠賣女ニ紛敷稼致ししをの、并御府内端々料理茶屋水茶屋渡世之ものを罷在り場所等、組廻之ものを差出し風聞書差上置り處、取計方之義勘辨仕可申上旨、被仰渡し。

此儀町々女藝者其外隠賣女ニ紛敷稼致ししをの共、是又度々召捕吟味之上、咎申付し。其砌ハ一旦相止し得共、間もかく相弛し、程過り得ハ、次第ニ超過致しし儀ニ有之、猶更近年米價高直ニ付候るハ、市中其日暮るる貧困飢餓ニ逼り候もの共ハ勿論、料理茶屋船宿等、或ハ内々女藝者杯抱置候ものとも、渡世薄

く暮し方相成候場合、捷徑ニ走り、追々増長致し候義ニ相聞は、一體利徳ニ泥り候ハ下賤之常態ニ御座り處、年頃之娘を持、右體之稼爲致候ものハ、勞さばして過分之金錢を附、右娘ハ髪之飾衣類迄心附遣し候間、其身も宜儀ニ相心得、聊耻候念慮を無之、同等之ものを右を羨み見眞似致し候様成行、以之外市中風俗ニ拘り候儀ニ有、右客ニ相成候ものも、吉原町ハ勿論、端々料理茶屋等に参り候ハ、召仕ハ主用と唱候隠賣女同様之ものを、何レも近邊居廻りニ罷在候間、入湯髪月代等暫時用辨之趣ニ申成し入込候ニ付、店向奉公人等之放埒を導き、其主人ノ之迷惑ニ至り候義ニ有之、就中風聞書ニ有之候もの共、重立候ものと相聞候處、捨置候ハ、此上次第増長致し可申哉ニ付、一同召捕、夫々吟味詰、御仕置御咎被仰付候方可然哉ニ奉存候。併寢早月迫とも及び候多人數入牢等申付、越年爲仕候ハ、煩付牢死之をの等も多可有之、左候るハ御仁惠之御趣意にも悖候儀ニ付、來春○天保八年御用始迄之内、風聞書之内町名名前等不分明之分ハ爲取調置、御用始後一時ノ手を掛、吟味取掛り候様可仕候。尤右體吟味迄相成候ハ、一旦ハ相止み可申候得共、前書之通聞も亦く相弛し可申哉。何レにも御世話有之候上ハ、御趣意末々迄貫候様ニ無之候るハ、御世話之詮も無之、火よ近寄のさく、水ハ溺レやなき道理にて、一時之御沙汰と而已下々相心得候處、御法をも犯候儀ニ付、此上春秋兩度ツ、取調候恒例ニ仕、組廻同心共々爲書上、市中隠賣女ニ紛敷稼致候もの有無共申上候様ニ取極置候ハ、奉行所之取調も間斷無御座、御法を犯し候もの少く相成、往々御取締相立可申奉存候。

一、御府内端々料理茶屋水茶屋等之類、深川永代寺門前町を始め、外數ヶ所酌取女茶汲女等抱置、何レも

如何之家業體之ものを、新吉原町之外ハ右體紛敷その一切其儘ニ可差置候筋ハ無之候處、新古ハ御座候得共、明曆元錄正徳享保元文之頃、連綿と渡世致し來候分も有之、繁榮之御府内、新吉原町而已ニて不行届、情欲之難止メハ人情之常ニ付、自ラ相對密通筋ハ勿論、市中ニ隱賣女稼致し候もの多相成、且ハ御治世御繁榮ニ付てハ、諸國之四民御府内ハ入込、遊所等ハ足停游興ヲ金錢を費候段、畢竟其身ニ取候ても不宜儀ニハ可有之候へ共、是又昇平樂夏、御徳化之御餘澤ニ候儀ニ、自ラ右金銀ハ市中ハ散在致し、止ル處御府内之潤ヒニ相成候場所ニ、御神算も可有之御儀ニ、寛大之御所置を以、是迄其儘ニ被差置候儀も可有御座哉。其上市中ニて隱賣女同様之稼致し候もの違ヒ、端々ニ片寄、其群を分ち居候儀ニ付、差風俗之害ニ相成候程之儀も無之候處、不殘取拂等被仰付候ハ、却る淫奔之弊を生シ、不可然哉ニ付、先其儘ニ被差置、外吟味筋ハ發覺致し候處、又ハ御捨被置の筋台も有之候ハ、其時ニ臨み、御沙汰有之候方可然哉奉存候。

右取調候趣、書面之通御座候、依之申上候。以上。

西○天保八年十二月

大草安房 守○高好

覺

隱賣女ニ紛敷稼致し候もの共取締方之儀、掛番致し被差出候通ニ、先ツ一應町觸差出、其上不相止候ハ、其節ハ速ニ召捕、吟味可被致候事。

一、春秋兩度ツ、取調候儀ハ見合置、不時ニ折々遂穿鑿如何敷相聞候ハ、其時々召捕吟味可被致候事。

一、深川永代寺門前町ヲ始メ、酌取女茶汲女等年古く抱置候もの共ハ、伺之通先ツ其儘差置可被申候。併是迄ハ吟味筋等ニ發覺致し候共、一件之分計取拂、一體之場所ハ不取拂も有之候得共、左候ハ取締ニ不相成候間、以來ハ一件ニ拘り候もの計ニ無之、一場所不殘爲取拂可被申候事。

天保九年戊十二月八日館市左衛門に達ス。

町觸案

町々ニ娘又ハ女ヲ抱置、料理茶屋其外茶見世等ニ客有之候節ハ差支、賣女同前之稼爲致候由相聞、不届之至ニ候。以來右體賣女ニ紛敷渡世爲致間敷候。若左様之もの於有之ハ召捕、當人ハ不及申町役人共迄答申付、地面取上候間、地主町役人共無油斷遂吟味、急度可申付旨、天明七末年相觸、去ル巳年尙又相觸候處、今以女藝者ヲ唱、娘又ハ女ヲ抱置、髮のさり衣類等美々敷致し、殊ニ料理茶屋其外被雇先ニおゐて客及密通、且大弓場水茶屋等渡世之もの共娘并女ヲ抱置、右之外も娘等身賣同様之始末致し候もの有之趣相聞候ニ付、召捕及吟味候處、全相對ニて密通致し、衣類金錢等貫請、尤親抱主雇候料理茶屋等ニも右之始末ハ不存由ニ、賣女致し候儀ハ無之候得共、猥ニ及密通、衣類金錢等貫受候段ハ、賣女も紛敷致し方不愼之至不埒之哀候。然レ共此度ハ格別之宥免を以、其次第ニ寄答申付候。以來ハ右答申付候ものハ勿論、其外之ものたり共、前書同様之及始末候ニおゐてハ、當人ハ素々地主町役人等ニ至まで、隱賣女致し候ものニ准し、一同嚴敷可申付候。

一、親兄等之ため無據娘妹取之之内藝一ト通りニ茶屋向ニ差出候儀ハ格別、尤娘妹有之候共、銘々同様

之稼爲致申間敷、髪のさり衣類等美々敷目立候品猶相用候おるても、是又急度可申付候。

一、女を召抱藝者に致し候儀ハ、一切不相成候。若是まで心得違之ものも候ハ、早々暇遣可申候。

一、料理茶屋水茶屋大弓場等之もの共、働一ト通り之下女、是以髪のさり衣類等身分不相應美々敷目立候儀、決る致し申間敷候。

右之趣、以來急度相守可申候。若心得違之もの相聞候におゐてハ、早速召捕、可遂吟味候。

一、町役人共之儀も、觸之趣能々相心得、娘妹無疎藝一ト通り之稼爲致候ものも、其家こゝ一人を限り可申候間、人別其外入念心附、紛敷もの無之様可致候。万一不相用もの有之候ハ、名主こ不限、地主又ハ町役人成共、一人立奉行所可申立候。外より於相聞候ハ、名主を始尙更爲越度へく候。

右之通文政七年相觸候處、近來又々町中賣女之紛敷稼致し候者も有之哉こ相聞、不屈之至こ候。當人ともハ勿論、地主并町役人ともまでも、急度可及吟味候得共、風聞之儀こ付、先此度ハ有免を以其沙汰こ不及候間、右體如何之風聞不相請様、急度相慎、惣右觸書之趣堅相守可申候。若觸書こ相背候もの於有之ハ、地主并町役人共までも嚴敷咎可申付こ有之候。尤船宿等も同様たるへく候。此旨町中可觸知もの也。

十一月〇天保九年。

〔附記〕 繪草紙取締

附記、繪草紙取締

小口年番名

主

天保撰要類集

近來往還に取散、好色本繪類商ひ致しもの有之趣、御沙汰有之。是迄度々繪草紙懸りにも申聞、右様之本繪類取上、猶去ル丑年白粉齒磨等之袋迄取調、板木削潰し、并摺溜水腐爲致し處、右體御制禁之品不相辨、往來こ取扱しもの有之由、以之外不束之至こ。此已後若右體心得違之もの於有之と、嚴敷御沙汰可被及條、自今聊心得違之もの無之様、支配町々不洩様、急度可申付。勿論支配内之義と、見當次第其品可取上。尤繪草紙掛り名主にも申付、見當品有之と、取上ケハ答こ付、得其意組々支配町々取示方可致し。

右之趣、町御奉行所御沙汰こ付申渡し條、組々不洩様申通、急度可相心得し。

繪草紙懸名

主

近來往來に取散い好色本繪類商致しもの有之趣御沙汰有之、前書之通小口年番名主に申渡、組々支配町々不洩様取示方申付候間、此旨地本問屋行事にも爲相心得、猶又問屋共商ひ向之儀と、行事共可相改旨可申含し。自今万一往來と勿論、問屋見世賣共、右體之品見當ハ、早々取上ケ、其段可相届し。

右之趣、町御奉行御沙汰ヲ以申渡し候間、精々心付可取扱し。

戊〇天保九年十二月

右之通戊〇天保九年十二月廿五日館市右衛門殿被申渡しこ付、組々に通達。

撰要永久録

社寺地異動

是年〇天保九年(紀元二四九八年) 社寺地異動若干有リ。

〇御朱印拜領地寺社帳。拜領除地寺社帳。地子古跡寺社帳。拜領寺社帳。古跡寺社帳。拜領地古跡寺社帳。御朱印地寺社帳。

社寺地異動

社寺地異動 天保九年中社寺地ノ異動若干有リ。

殷昌期

八四九

鐵炮洲稻荷社

鐵炮洲稻荷社 營造。

古跡並。境内四拾坪。

深川永代寺末 同所(〇深川) 古義眞言宗 万 徳 院

右相願候者、兼帶所鐵炮洲惣鎮守稻荷、去年^{〇天保五年}二月大火之節、九尺二間半之本社、并一丈二間半餘之神輿藏、三尺二六尺之末社、右三ヶ所相殘、其外悉類焼、甚難澁致し候^ニ付、相殘候分ハ修復いたし、本社前^ニ九尺二間之護摩所、二間二間半之拜殿、五尺二七尺之向拜附、西南裏通梁間九尺桁行八間、一棟建^ニいたし、何も爲火除屋根瓦葺^ニいたし、右之内^ニ玄關住居向取建、三尺二間半之庇取附、同所續西之方隅^ニ二間四方之供所、裏通^ニ先規之通格子^ニいたし、神輿前^ニ四尺二間半餘之庇取附、何も屋根葺^ニいたし、且類焼以前之通、石鳥居高サ一丈二尺明キ九尺、冠木門高サ一丈一尺明キ九尺兩扉附、表通門北之方三間二尺、東南之方^ニ折廻し十一間一尺、高サ六尺五寸宛之木矢來、同所續二間二尺之所、高サ六尺五寸之板塀^ニいたし、先規有來并模様替等、漸々作事^ニいたし度旨願出候付、遂吟味、近所屋敷并所之ものにも相尋候處、障儀無^ニ之旨證文差出候付、願之通差免、万徳院^ニ證文申付、寺社方帳面張紙仕候旨、井上河内守^{〇正}、^{〇春}、^〇印形之斷手紙ヲ以申越候。依之天保九戌年四月八日申上、御帳面張紙仕候。右之趣脇坂中務大輔殿^{〇安}、^〇申上。

淺草第六天社

淺草第六天社 修理。

淺草第六天神 神主 錦木 上 總

古跡拜領地三百八拾坪。

社地表通り門前町屋小間拾四間。

同裏新道通り門前町屋小間拾五間。

同裏門壹ヶ所。

右相願^ハ候者、第六天神社其外、明和八卯年類焼いたし^ハ付、作事之儀、同年^{〇明和八年}十一月申願之通り差免作事いたし^ハ得共、拜殿屋根銅板葺之儀者、寄附金不足^ニ付、今以て葺後罷在、瓦葺^ニいたし置^ハ候處、此度明和度願濟之通り銅板葺^ニいたし、且拜殿有來之通り建修復いたし、表門高サ八尺壹寸明キ七尺兩扉付、裏門高サ七尺壹寸明キ七尺兩扉付、右何れも冠木門有來之通り建替作事^ニいたし度旨願出^ハ候間、遂吟味、所^ノ者へも相尋^ハ候處、障儀無^ニ之旨證文差出^ハ候付、願之通り差免、錦木上總へ證文申付、寺社方帳面張紙仕^ハ候旨、青山因幡守^{〇忠}、^〇より印形之斷手紙を以て申越^ハ候。依之天保九戌年十一月廿九日申上、御帳面張紙仕^ハ候。

正傳寺

正傳寺 座敷向庫裏其外ヲ改造ス。

中山法華經寺末 芝金杉 日蓮宗 正 傳 寺

古跡年賣地 境内三百八拾七坪。

右相願^ハ候者、座敷向庫裏其外共及大破^ハ候處、不勝手^ニなる法要之節差支難儀仕^ハ候付、是迄有來^ハ座敷向庫裡其外共取崩、右場所へ此度座敷梁間貳間半桁行四間半、南北之方へ三尺二四間半宛之庇貳ヶ所、北之方へ四尺二八尺之便所、座敷より本堂へ壹間二六間之渡廊下取附、庫裏梁間三間桁行六間、南之方へ壹間二六間之下家、四尺二九尺之玄關、東之方へ四尺二壹間之便所、北之方へ三尺二六間之庇、四尺二三間之渡廊下取附、且東之方^ニ有^ハ之^ハ梁間貳間桁行貳間半之土藏造毘沙門堂、三尺二三間之下家、梁間貳間半桁行

殷 昌 期

三間半之拜殿、壹間之貳間之向拜、是迄之場所ニハ不勝手ニ付、有形之儘、北之方ヘ南向ニ引直シ、拜殿北之方ニ有之ハ貳間之三間之廊下取拂ヒ、東之方ヘ壹間之四間之廊下取附、表通西之方ヘ折廻シ貳拾五間餘、高サ八尺之土塀、此度板塀ニイテシ、裏口明キ六尺四方引戸潜リ、幅三尺ニ高サ四尺五寸屋根附、有形之儘西之方ヘ貳間引寄せ、右何れも爲火除屋根瓦葺ニイテシ、模様替作事イテシ度旨願出ハ間、遂ハ吟味、隣寺所之者ヘも相尋ハ處、障儀無之旨證文差出ハ付、願之通り差免、正傳寺ヘ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ旨、青山因幡守○思より印形之斷手紙を以て申越ハ。依之天保九戌年十一月廿九日申上、御帳面張紙仕ハ。

——地子古跡寺社帳

常行寺

常行寺 貸家ヲ貸繼ク。

東叡山末 南品川
天台宗 常 行 寺

除地古跡
境内五千四拾五坪。

門前五軒。但此小間貳拾參間。

外、七百五拾參坪 年貢地。

右相願ハ者、自坊修復爲助成、境内裏之方明地南、西北之方致竹垣、用心口九ケ所明、垣内壹間引込南之方梁間貳間半桁行八間、表裏共三尺宛之庇付壹棟、西之方梁間貳間半桁行拾壹間、表裏共三尺宛之庇付三棟、梁間貳間半桁行拾間、表裏共三尺宛之庇付壹棟、北之方梁間貳間半桁行五間、表裏共三尺宛之庇付八棟、右何れも茅葺ニ作事イテシ、文政十一子年より當戌年○天保迄中年拾年季貸家賃續度旨、土井大炊頭殿○利。寺社奉行御勤役中願出、願之通御差免被置ハ處、年季明ハ付、又ハ當戌年○天保より來ル申年○嘉永迄

中年拾年季賃續度旨願出ハ付、遂ハ吟味、隣寺所之者ヘも相尋ハ處、障儀無之ニ付、願之通り差免、尤町家ケ間鋪見世商等不爲致、紛敷者差置申間敷、年季明ハ付、勿論、年季之内ニ有ル家作取崩候ハハ早速可相届旨、常行寺ヘ證文申付、寺社方帳面張紙仕候旨、牧野備前守○思より印形之斷手紙を以申越候。依之天保九戌年九月十日申上、御帳面張紙仕候。

——地子古跡寺社帳

善福寺

善福寺 貸地賃續。

西本願寺末 麻布
一向宗 善 福 寺

右相願ハ者、麻布新堀端拜領地九百七坪餘之處、寶曆八寅年ハ明和五子年迄中年拾年季、町人共拾五人ハ貸置申度旨、鳥居伊賀守○思。寺社勤役中願出、願之通差免、其後年季明之節之願出、差免置ハ處、寛政元酉年右貸地之内百三拾六坪五合之處、未年限之内ニ者ハ得共致返地ハ段、先代牧野備前守○思。寺社勤役中願出、聞届明地ニイテシ置ハ。然ル處殘七百七拾坪五合之地所、寛政十年年ハ文化五辰年迄中年拾年季賃地賃續度旨、土井大炊頭○利。寺社勤役中願出、願之通差免、其後年季明之節之賃續之儀願出、差免置ハ處、年季明ハ付、又ハ當戌年○天保來ル申年○嘉永迄中年拾年季賃續度段願出ハ付、遂ハ吟味、隣寺并近所屋敷町人共ハも相尋ハ處、障儀無之ニ付、願之通差免、尤寺并町家ケ間敷作事又貸等不爲致、紛敷もの差置不申、年季明ハ付、勿論、年季之内ニ有ル返地イテシもの有之ハハ、可相届旨、善福寺ヘ證文申付、寺社方帳面張紙仕ハ旨、牧野備前守○思。印形之斷手紙を以申越ハ。依之天保九戌年十二月廿日申上、御帳面張紙仕ハ。

——拜領寺社帳

寶泉寺

寶泉寺 寺社帳改訂。

殷 昌 期

律宗 泉州神風寺宿寺 下澁谷 寶泉寺

年貢古跡地
境内五拾四坪。

外、八拾坪 道敷。

四千三百三拾八坪持添。

内貳百五拾坪 元祿十六末年屋作差免。

又四千四百七拾貳坪。

内、千九百七拾六坪 下澁谷村。

此反別六反五畝貳拾六步。

貳千四百九拾六坪 下豊澤村。

此反別八反三畝六步。

右寶泉寺本堂其外模様替作事願之付、境内繪圖面相添申立い處、持添地坪數此方帳面と相違之付、遂吟味い處、年貢地之譯、寶泉寺并下澁谷村年寄鹿右衛門、下豊澤村名主源助一同檢地帳を以て反別之儀、前書之通無相違旨申立、夫々書付差出、紛敷儀も無之儀之付、御用番御老中方へ不申上、天保九戌年五月十九日御帳面張紙仕候。

——地子古跡寺社帳

大信寺

大信寺 地所貸續。

淨土宗 增上寺末 牛込 大信寺

拜領地
牛込御筆笥町百貳拾壹坪五合。

右相願い者、拜領添地牛込御筆笥町表間口六間四尺五寸、裏行拾八間之場所、去る文政九戌年より去る申年^{○天保}迄申年拾年季之積り、町人五兵衛と申ものへ貸地貸續度旨相願、願之通り差免置、申年^{○天保}年季明い處、先々住願後れい。文政十一子年より戌年迄を申年拾年と心得違ひ願後れ候段不束之付、急度叱り置。貸地之儀者遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通差免し、尤又貸等爲致間敷、年季明い勿論、年季内たりとも返地いたしいへ可相届旨、大信寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い旨、松平伊賀守^{○忠}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年閏四月廿九日申上、御帳面張紙仕い。

——古跡寺社帳

善國寺 營作ス。

日蓮宗 池上本門寺末 牛込神樂坂 善國寺

拜領地
境内七百五拾坪餘。

表間口貳拾壹間壹尺。裏貳拾五間貳尺。奥行東三拾四間、西三拾間餘。

右相願い者、客殿庫裡其外去る申年^{○天保}中燒失後假作事いたし置い處、手狭なる法用之節差支、其上客殿并い毘沙門堂西向之處、不勝手之付、此度前々之通り北向いたし、客殿梁三間桁行七間、前通り壹間半之七間、裏通へ壹間之七間之庇、佛間梁間貳間桁行三間半、九尺之貳間之同拜、東之方へ壹間之貳間之渡廊下取附、毘沙門堂梁間三間桁行貳間半之土藏造いたし、前へ貳間之貳間半之廊下、拜殿梁間貳間桁行四間、後へ壹間之四間之庇、七尺之貳間之向拜、右脇へ五尺之壹間之水屋、客殿西之方へ九尺之貳間之玄關、座敷梁間三間桁行五間、西之方へ壹間半之五間之庇、居間梁間三間桁行三間半、東之方へ壹間之八間

般 昌 期

八五五

善國寺

之庇、稻荷社梁間貳間桁行三間之土藏造こいたし、何れも爲火除家根瓦ぶきこいたし、表通り貳拾壹間三尺、内冠木門高サ九尺明キ八尺兩扉付、東之方高サ七尺明キ三尺之藩り、左右へ四尺宛之袖塀、東之方へ壹間之九尺之門番所、右同所脇用心口へ、高サ八尺明キ七尺五寸開き取付、其外不殘、并之南之方へ折廻し壹間板塀之處、高サ六尺之板塀こいたし、追々作事いたし度旨願出の付、遂吟味、近寺所之ものへも相尋い處、障儀無之旨、證文差出の付、願之通り差免、善國寺證文申付、寺社方帳面張紙仕の旨、井上河内守○正より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年四月八日申上、御帳面張紙仕の。

古跡寺社帳

金剛寺 貸地ス。

曹洞宗 駒込吉祥寺末 小日向 寺

拜領地 境内六千四百四拾八坪。

門前町屋物間口間敷東兩折廻し五拾六間貳尺。

右相願い者、境内東之方九拾三坪之地所、宮内卿殿用人支配小普請山田久之助へ、去る巳年○天保四年より來る卯年○天保十四年迄中年拾年季貸置の處、年季内之候得共、此地返地いさし、諸家作其儘御本丸小十人柳澤八郎右衛門組青山太七郎へ、當戌年○天保九年より來る申年○嘉永元年迄中年拾年季貸地いたし度段願出の間、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋い處、障儀無之旨證文差出候の付、願之通り差免、尤町屋ケ間敷見世商又貸等不爲致、紛敷もの差置不申、年季明いハ勿論、年季之内あるも返地いたしハ可相届旨、金剛寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕の由、牧野備前守○忠より印形手紙を以て申越い。依之天保九戌年六月廿日申上、

御帳面張紙仕の。

古跡寺社帳

本淨寺

本淨寺 貸家ヲ貸繼ク。

身延久遠寺末 雜司ヶ谷 日蓮宗 本 淨 寺

拜領地 境内千六百九拾九坪壹合。

右届出い者、境内表門より東之方、表通り道より三尺引込、貳間梁桁行貳拾間、前通三尺之庇、後通り壹間之下家附平家、蛸殻屋根作事いたし、前通り生垣こいたし、入口三ヶ所明、文政十一子年より當戌年○天保九年迄中年拾年季貸家貸續之儀、土井大炊頭殿○利寺社御勤役中願出、願之通り御差免被置の處、年季明の付、此節建家不殘取拂候旨届出の間、遂吟味の處、相違無之、依之本淨寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕の旨、牧野備前守○忠より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年十一月六日申上、御帳面張紙仕の。

拜領地古跡寺社帳

喜福寺

喜福寺 貸地ヲ貸繼ク。

小石川祥雲院末 本郷 曹洞宗 喜 福 寺

拜領地 境内三千四百四拾四坪七合。

有來門前町屋 拾棟。此小間四拾五間半。

右相願い者、境内東南之方町家裏百坪之場所、門前町人半兵衛と申者へ、土藏地之寶曆八寅年より明和五子年迄中年拾年季之貸地いたし度旨、鳥居伊賀守○忠寺社勤役中願出、願之通り差免、其後年季明之度々貸續之儀願出願之通り差免置の處、年季明の付、猶又文政十一子年より中年拾年季貸續度旨、土井大炊頭

殿 昌 期

八五七

○利殿社勤役中願出、願之通り差免被置い處、年季明い間、又い當戌年^{○天保九年}より來る申年^{○嘉永元年}迄申年拾年季賃續度段願出い付、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋候處、障儀無之付、願之通り差免、尤町屋ケ間敷作事又貸等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明いハ、勿論、年季之内なるも返地いたしハ、可相届旨、喜福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い旨、牧野備前守^{○思}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年九月廿日申上、御帳面張紙仕い。

靈雲寺 下屋鋪其他ヲ營造ス。火災ニ罹リタルヲ以テ也。

律宗 湯島 靈雲寺

拜領地 境内千三百坪。

右相願い者、拜領根津七軒町下屋敷、表門并右屋敷内之有之い地藏堂、且塔頭妙極院住居共、當二月^{○天保九年}中類焼いたしい處、妙極院是迄南向なる不勝手付、西之方へ六間引寄、東向こいたし、梁間三間桁行八間、東之方へ九尺ニ貳間之角家、前へ壹間ニ六間之下家、壹間ニ貳間之玄關、南之方へ三尺ニ四間之庇、北之方へ壹間ニ四間半之葺下し、西之方へ壹間ニ九間半之鏡、壹間ニ貳間之湯殿取附、門内南之方地藏堂元形之通り九尺四方之塗屋造、壹間ニ貳間之拜殿、且表門焼失以前之通り、腕木門高サ壹丈貳尺、明キ六尺五寸、兩扉附、北之方へ高サ六尺明キ三尺之潜附、右何れも爲火除屋根瓦葺こいたし、模様替作事いたし度旨願出い付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋候處、障儀無之旨證文差出い付、願之通り差免、靈雲寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、牧野備前守^{○思}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年十一月廿九日申上、御帳面張紙仕い。

古跡寺社帳

麟祥院

麟祥院 床店營作。

濟家宗 湯島 麟祥院

拜領地 境内七千八百三拾九坪餘。

右相願い者、前門下水上床店、去西^{○天保八年}十一月中類焼いたしい付、此度表門西之方軒高サ八尺奥行四尺、桁行三拾四間之床店壹棟、軒高サ壹丈奥行貳間桁行貳間半之床店番所壹ヶ所、軒高サ八尺奥行四尺桁行六間之床店壹棟、何れも類焼以前之通り作事いたし度旨願出い付、遂吟味、近所屋敷之者へも相尋い處、障儀無之旨證文差出い付、願之通り差免、且是迄之通往來へ少しも不出張様いたし、夜分そ庇下し置、御成之節右床店取拂い様可致旨、麟祥院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候由、阿部能登守^{○正}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年三月廿九日申上、御帳面張紙仕候。

玉林寺

玉林寺 貸地ヲ轉換ス。

駒込吉祥寺末 谷中 曹洞宗 玉林寺

御朱印拜領地 境内 百拾貳間。奥へ九拾五間。

門前町屋物間口四拾間貳尺。

内 門右之方拾八間貳尺。西之方拾八間。寺向南之方四間。

右之外、

境内東之方町屋、間口拾四間半。奥行貳拾六間。

殷昌期

右相願い者、境内外谷中三崎町之有之い寺領之内、同所日蓮宗本通寺へ万治三子年より貳百貳拾五坪、同所同宗龍谷寺へ寛文二寅年より三百三拾坪、是迄拾ヶ年宛之年季を以て相對之上貸地いたし置い處、本通寺之墓所地狭る難澁いたし、龍谷寺之是迄之建物及大破い處、困窮る修復行届兼、本通寺之建物者修復後間合無之分引交い得え、格別勝手之宜い間、今般本通寺ハ本堂庫裏并ニ表門其外共建物者有形之儘差置、地所之不殘返地いたし、是迄龍谷寺借地罷在貳百七拾九坪之場所へ、貸地替いたし、尤兩墓所ハ龍谷寺墓地空地之分返地之跡へ爲轉退申度、龍谷寺も本堂庫裏并ニ表門其外共、建物者有形之儘差置、是迄貸地三百三拾坪之内、墓所并ニ屋鋪共五拾壹坪殘し置、其餘貳百七拾九坪之分返地いたし、本通寺是迄貸地罷在い貳百貳拾五坪之場所へ貸地替いたし度、尤有形之建物者相對之上、其の儘双方へ引交い積、當戊年○天保九年より來る申年○嘉永元年迄中年拾年季貸地いたし度旨願出い之付、遂吟味、近寺所之ものへ幾相尋い處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通り差免、玉林寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い旨、牧野備前守○思より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年閏四月十一日申上、御帳面張紙仕い。——御朱印地寺社帳

金龍寺

金龍寺 貸家ヲ貸繼ク。

拜領地 境内貳千四百四拾九坪。

京妙心寺末 淺草 禪宗 金龍寺

右相願い者、境内表門より北之方、有來竹垣より三尺引込、拾壹間之處、梁間貳間半桁行拾壹間、前通三尺之庇、後通壹間之下屋附、入口三ヶ所明ヶ、表門より南之方、竹垣より三尺引込、梁間貳間半桁行四拾壹間、庇下屋右同斷、入口拾壹ヶ所明、同南側通竹垣より三尺引込、梁間貳間半桁行七間、庇下家右同斷、入口三ヶ所明、屋根並瓦ニいたし、右貸家之後へ貳間通藏地といいたし、寛延元辰年より寶曆八寅年迄拾年季

貸家いたし度旨、大岡越前守○思寺社勤役中願出、願之通り差免、貳間之土藏貳ヶ所建置い處、年

季明い之付貸續、且又土藏地之場所濕地故借主羨無之い間、土藏建坪之殘、梁間貳間桁行折廻し貳拾七間、屋根並瓦葺作事いたし、寶曆八寅年より明和五子年迄中年拾年季貸家いたし度旨、鳥居丹後守○思寺社勤役中願出、願之通り差免、年季明い之付、家作有來之儘貸續、且又右貸家表通梁間貳間桁行貳拾貳間、屋根並瓦葺作事いたし、明和五子年より安永七戌年迄拾年季貸家貸續度旨、久世出雲守○廣寺社勤役中願出、願之通り差免置い處、明和九辰年二月類焼之付、右貸家土藏迄追々作事いたし度旨、土屋能登守○廣寺社勤役中願出、願之通り差免、追々作事いたしい處、梁間貳間桁行貳拾貳間之處、建後相成い之付、作事いたし、前書貸家貳間と三間之土藏貳ヶ所共、年季明い之付、家作有來之儘、安永七戌年より天明八申年迄中年拾年季貸家貸續度旨、戸田因幡守○思寺社勤役中願出、願之通り差免、其後年季明之節ハ貸續之儀願出、願之通り差免置い處、年季明之付、猶又當戊年○天保九年より來る申年○嘉永元年迄中年拾年季貸家貸續度旨願出い之付、遂吟味、隣寺并ニ近所町人共へ幾相尋候處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通り差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致、紛數もの差置申間敷、年季明候ハ勿論、年季之内之るも家作取崩候ハ可相届旨金龍寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、牧野備前守○思より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年九月廿九日申上、御帳面張紙仕候。

唯念寺 床店貸續。

勢州專修寺末 淺草寺町 一向宗 唯念寺

古跡拜領地 境内貳千九百貳拾七坪餘。

殷昌期

門前町屋間口東西四拾壹間。南北八間三尺。

右相願い者、裏門より西之方長拾三間東之方拾七間四尺、同所非常口左右四間之三間之場所貳ヶ所、板塀際より四尺之雨覆取附、下水上へ床店四ヶ所取建、日之内計商爲致、夜分者勿論、御成之節も取片付、平日往來之障も不相成様いたし、夕方より商賣爲仕廻、底下し置い様申付、文政十一子年より當戌年^{○天保九年}迄中年拾年季商人共へ貸遣度旨、松平伊豆守^{○信}寺社奉行勤役中願出、願之通り差免置い處、年季明之付取拂可申處、商人共場所替い者得意も相離難儀之趣相歎候之付、猶又以前之通り作事いたし、當戌年^{○天保九年}より來る申年^{○嘉永元年}迄中年拾年季床店貸續度旨願出い之付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋い處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通り差免、往來へ少しも不出張様之いたし、夜分も底下し置、御成之節も右床店取拂い様可致旨、唯念寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い旨、稻葉丹後守^{○正}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年十二月廿日申上、御帳面張紙仕い。

祝言寺 貸地貸續。

古跡寺社帳

曹洞宗 駒込吉祥寺末 淺草新寺町 祝言寺

古跡拜領地

境内 表口三拾七間。裏行六拾八間。

右相願い者、境内南之方拾間四方之場所、淺草本願寺末入樂寺へ文政十一子年より當戌年^{○天保九年}迄中年拾年季貸地貸續之儀、堀大和守殿^{○親}寺社奉行御勤役中願出、御差免被置い處、年季明い之付、當戌年^{○天保九年}より來る申年^{○嘉永元年}迄中年拾年季貸地貸續度段願出い之付遂吟味、隣寺所之者へも相尋候處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通り差免い。尤年季之内たりとも返地いたしいハ、可相届旨、祝言寺并へ入樂寺へ證文

祝言寺

申付、寺社方帳面張紙仕い旨、青山因幡守^{○忠}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年九月廿九日申上、御帳面張紙仕い。 古跡寺社帳

妙經寺

妙經寺 鐘堂其外ヲ營作ス。

法華宗 同所(○淺草)。本寺妙滿寺 妙經寺

一、當地貳拾五年。

一、寺内表貳拾九間裏へ三拾壹間。

拜領地 境内八百九拾九坪。

日蓮宗 京妙滿寺末 淺草新寺町 妙經寺

右相願い者、表門并之門番所其外共及大破い之付、冠木門高サ壹丈貳尺五寸明キ八尺三寸兩扉附、北之方へ高サ四尺明キ三尺五寸之潛附、高サ七尺五寸幅三尺之袖塀取付、有來九尺貳間之門番所、有形之儘前へ壹間引寄せ、後へ九尺之壹間之葺下し、門北之方拾四間之處、高サ七尺五寸之板塀、南之方へ高サ七尺五寸幅貳尺五寸之袖塀、東之方へ貳間折廻し、南之方下水通拾間之板塀之いたし、且有來九尺四方之鈞鐘堂及大破い之付、有形之通り建替、并之境内北之方之有之い貳尺建馬繫、明和年中類焼いし、其儘差置い處、差支儀有之い間、以前之通堅九尺横壹間高サ六尺之取立、右何れも爲火除屋根瓦葺之いたし、作事いたし度段願出い之付、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋候處、障儀無之旨證文差出い之付、願之通り差免、妙經寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕い由、牧野備前守^{○忠}より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年三月廿九日申上、御帳面張紙仕い。 古跡寺社帳

淨念寺

淨念寺 貸家貸續。

殷昌期

拜領地

境内貳千百貳拾五坪。

淨土宗

增上寺末

淺草

念

寺

右相願候者、本堂大破候ニ付、修復爲助成、境内表門西之方間口拾貳間五尺、奥行六間五尺之處へ、梁間貳間半桁行六間貳尺壹棟、梁間貳間半桁行五間壹棟、表門東之方間口拾間三尺、奥行七間之處へ梁間貳間半桁行拾間三尺壹棟、裏門東之方間口拾四間奥行九間五尺之所へ梁間貳間半桁行三間壹棟、梁間貳間半桁行四間半壹棟、梁間貳間半桁行四間壹棟、何れも前通り三尺之庇、後壹間通り之下屋附、右表通り下水より三尺引込、高サ五尺之竹垣いさし、三尺宛之入口五ヶ所明、惣屋根板葺めけ瓦平家作り致作事、去る亥年より當戌年迄中年拾年季貸家いたし度旨、松平伊豆守殿社勤役中相願御差免被置候處、年季明ニ付、又い當戌年○天保九年より來申年○嘉永元年迄中年拾年季貸家賃續度旨願出候ニ付、遂吟味、隣寺近寺門前町人共へも相尋候處、障儀無之旨證文差出候ニ付、願之通り差免、尤又貸等不致、年季明候ハ、勿論、年季之内ニも致返地候ハ、可相届旨、淨念寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候旨、阿部能登守○正より印形之斷手紙を以て申越候。依之天保九戌年正月廿九日申上、御帳面張紙仕候。

東漸寺

貸家ヲ賃繼ク。

拜領地

境内千四百坪。

天台宗

東叡山寺末

淺草

漸寺

拜領地古跡寺社帳

右相願候者、修復爲助成、新道通り構堀ニ橋貳ヶ所掛、表門より北之方折廻し共入口四ヶ所明、三尺引込梁間貳間半桁行三拾貳間壹棟、拾七間三尺壹棟、前ニ三尺之庇、後ニ壹間之下屋附、作事いたし、元文四未年より寛延二巳年迄中年拾年季貸家いたし度旨、大岡越前守○忠寺社勤役中願出、願之通り差免、其後年季明之度々願出、願之通り差免置候處、年季明ニ付、猶又文政十一子年より當戌年○天保九年迄中年拾年季貸家賃續度

旨、土井大炊頭○利寺社御勤役中願出候通御差免被置候處、年季明候ニ付、又い當戌年○天保九年より來申年○嘉永元年迄中年拾年季賃續度段願出候ニ付、遂吟味、隣寺并ニ所之者へも相尋候處、障儀無之ニ付、願之通り差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不致、紛敷もの差置申間敷、年季明候ハ、勿論、年季之内ニも家作取崩候ハ、可相届旨、東漸寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕候旨、牧野備前守○忠より印形之斷手紙を以申越候。天保九戌年十一月廿日申上、御帳面張紙仕候。

觀音院 貸家ヲ賃繼ク。

拜領地古跡寺社帳

拜領地

境内八百五坪。

天台宗

淺草東光院末

淺草新寺町

觀音院

門前町家貳軒。但此小間拾壹間半。

右相願候者、爲建立助成、古來より有來候境内東之方角より南へ、間口五間五尺同六間半之門前町家貳棟有之候。右町家之續表門より東之方町家際迄表通拾四間之處、生垣こいたし、入口貳ヶ所明ケ、其内ニ梁間貳間半桁行拾四間、前通三尺之庇、後通壹間之綴付、且又裏門より北之方表通拾貳間之所生垣こいたし、入口貳ヶ所明ケ、其内ニ梁間貳間半桁行拾貳間、前通り三尺之庇、後通り壹間之綴付、右貳棟、文政十一子年より當戌年○天保九年迄中年拾年季賃續度旨土井大炊頭○利寺社御勤役中願出、願之通り差免被置候處、年季明候ニ付、又い當戌年○天保九年より來申年○嘉永元年迄中年拾年季賃續度段願出候ニ付、遂吟味、近所屋敷并ニ隣寺所之ものへも相尋候處、障儀無之ニ付、願之通り差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明候ハ、勿論、年季之内ニも家作取崩候ハ、可相届旨、觀音院へ證文申付、寺

社方帳面張紙仕の旨、牧野備前守○思より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之天保九戌年閏四月十一日申上、御帳面張紙仕ゆ。

御朱印拜領地寺社帳

萬福寺

萬福寺 貸家ヲ貸繼ク。

拜領地

境内七百坪。

天台宗

萬

福

寺

淺草東光院末 同所(○淺草)

右相願ゆ者、境内七百坪之内、表門南之方空地へ表通竹垣いたし、三尺引込、梁間貳間桁行拾貳間、前通り三尺之庇、後へ壹間之下屋附、表入口八ヶ所明ヶ、壹棟、同北之方空地へ、表通り竹垣いたし、三尺引込、梁間貳間桁行拾間、前へ三尺之庇、後へ壹間之下屋附、入口七ヶ所、都合貳棟、平家作屋根瓦葺之作事いたし、去る子年○文政より當戌年○天保迄中年拾年季貸家貸續度旨、松平伊豆守○信寺社奉行勤役中願出差免置ゆ處、年季明ゆ之付、又い當戌年○天保より來る申年○嘉永迄中年拾年季貸家貸續度旨願出ゆ之付、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋候處、障儀無之旨證文差出ゆ之付、願之通り差免、尤町家ヶ間敷見世商又貸等不爲致、紛敷者差置申間敷、年季明ゆハ、勿論、年季内なる農家作取崩しハ、可届出旨、萬福寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕の旨、稻葉丹後守○正より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之天保九戌年十一月廿日申上、御帳面張紙仕ゆ。

蓮光寺 貸家ヲ貸繼ク。

御朱印拜領地寺社帳

蓮光寺

拜領地

境内千三百八拾壹坪貳合五勺。

日蓮宗

蓮

光

寺

身延久遠寺末 淺草新寺町

右相願ゆ者、先年類焼後、小屋附同前之作事いたしゆ處、及大破ゆ得共、貧寺なる修覆難成ゆ之付、爲助

成境内東南之方空地有之ゆ之付、表通り折廻し有來ゆ生垣之内表門より西之方境迄、生垣之入口貳ヶ所明、其内之桁行七間半梁間貳間半、表通り三尺之庇、裏通り九尺之下屋附、同表門より東之方生垣之入口貳ヶ所明、其内之桁行拾間半梁間貳間半、表通り三尺之庇、裏通り九尺之下屋附、東之方角より裏門迄之内生垣之入口貳ヶ所明、桁行八間半梁間貳間半、表通り三尺之庇、裏通九尺之下屋附、右三棟共、平瓦大壁之作事いたし、元文三年より寛延元辰年迄中年拾年季貸家いたし度旨、大岡越前守○思寺社勤役之節願出、願之通り差免置、其後年季明之節々願出、差免置、安永七戌年々季明ゆ之付、戸田因幡守○思寺社勤役之節貸續之儀願出、并裏門より北之方空地有之ゆ之付、有來ゆ生垣之内、桁行拾壹間半梁間貳間半、前へ三尺之庇、後へ九尺之下屋附、入口四ヶ所明ヶ、同桁行拾壹間半梁間貳間半、前へ三尺之庇、後へ九尺之下屋付、入口四ヶ所明、貳棟共平瓦大壁之作事いたし、是又同戌年○安永より中年拾年季貸家之儀、願之通り差免置ゆ處、天明八年々季明ゆ之付、猶又拾年季貸續之儀先代牧野備前守○思寺社勤役中願出、願之通り差免置ゆ處、寛政十年右五棟之内北之方梁間貳間半桁行拾壹間之壹棟、及大破、修覆難相成ゆ之付、家作取拂、残り四棟之儀、拾年季貸家貸續度旨、土井大炊頭○利寺社勤役中願出、願之通り差免、其後年季明之度々貸續之儀願出差免置ゆ處、年季明ゆ之付、猶又當戌年○天保より來る申年○嘉永迄中年拾年季貸家貸續度段願出ゆ之付、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋候處、障儀無之之付、願之通り差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明ゆハ、勿論、年季之内なる農家作取崩しハ、可相届旨、蓮光寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕の旨、牧野備前守○思より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之天保九戌年十月十日申上、御帳面張紙仕ゆ。

御朱印拜領地寺社帳

法泉寺

法泉寺 貸家ヲ貸繼ク。
拜領地 境内千三百貳坪。

池上本門寺末 淺草新寺町
日蓮宗 法泉寺

右相願い者、修覆爲助成、境内東之方生垣之内、裏門より北之方へ、桁行拾三間梁間貳間前へ三尺之庇、裏へ九尺之下屋附、且又裏門より南之方、桁行拾貳間梁間貳間半庇下屋右同斷、貳棟共平瓦大壁をいたし、兩方とも入口八ヶ所明作事いたし、元文三年より中年拾年季貸家いたし度旨、大岡越前守相寺社勤役中願出、願之通り差免、其後年季明の節々願出差免、明和五子年右之内裏門より北之方へ桁行拾三間之内拾間之間建後れ有之の付、建繼家作いたし、有來之裏門間口五尺板屋根付、右之場所通路不勝手付北之方へ寄せゆる明替、右裏門之跡空地へ、桁行八間梁間貳間半、前通り三尺之庇裏通り九尺之下屋附、平瓦大壁をいたし、生垣を入口三ヶ所明、長屋相建、中年拾年季貸家いたし度旨、久世出雲守殿寺社勤役之節願出御差免、其後年季明之度々願出差免、天明八申年裏門より北之方へ有來物置部屋右跡明地へ新規桁行拾間梁間貳間半前へ三尺之庇、後へ九尺之下屋附、下水より三尺引込、平瓦大壁を作事いたし、前通り生垣を入口三ヶ所明、貸家いたし度旨、牧野備前守殿寺社勤役中願出、願之通り御差免、其後年季明之度々貸續之儀願出差免置の處、右四棟共年季明の付、猶又當成年天保九年より來る申年嘉永元年迄中年拾年季貸家貸續度段願出の付、遂吟味、隣寺并所のものへも相尋候處障儀無之旨證文差出の付、願之通り差免、尤町屋ケ間敷見世商等不致、紛敷もの差置申間敷、年季明のハ、勿論、年季之内にも家作取崩しハ可相届旨、法泉寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、牧野備前守殿より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年三月廿九日申上、御帳面張紙仕由。

御朱印拜領地寺社帳

善慶寺

善慶寺 貸家ヲ貸繼ク。

池上本門寺末 淺草新寺町
日蓮宗 善慶寺

拜領地 境内表貳拾間。裏三拾間。

右相願い者、地内門より南之方、桁行七間梁間貳間半前へ五尺之庇後へ五尺之下屋附、門より北之方桁行拾間梁間貳間半前へ五尺之庇後へ五尺之下屋附、表通り竹垣いたし、下水より三尺引込、入口南北共三ヶ所宛明、平瓦大壁之家作いたし、文政十一子年より當成年天保九年迄中年拾年季貸家貸續度段、松平伊豆守殿寺社奉行勤役中願出、差免置の處、年季明の付、猶又當成年天保九年より來る申年嘉永元年迄中年拾年季貸家貸續段願出の付、遂吟味、近寺所のものへも相尋候處、障儀無之旨證文差出の付、願之通り差免、尤町屋ケ間敷作事又貸等不致、商賣體紛敷もの差置申間敷、年季明のハ、勿論、年季之内にも作事取崩しハ可相届旨、善慶寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕由、稻葉丹後守殿より印形之斷手紙を以て申越い。依之天保九戌年十一月廿日申上、御帳面張紙仕由。

御朱印拜領地寺社帳

祭禮華麗禁制

藤岡屋

十年己亥天保紀元正月十四日辛亥辛亥府下ニ布令シテ、祭禮ノ華麗ヲ禁ス撰要

祭禮華麗禁制

十月十日祭禮。

八月廿五日祭禮。

九月廿一日祭禮。

殷昌期

湯島天神別當 見 院

上野黒門前五條天神別當 見 院

根津權現別當 見 院

天台宗 昌 院

- 九月十五日祭禮。
 - 九月十九日祭禮。
 - 八月十五日祭禮。
 - 八月十五日祭禮。
 - 同斷。
 - 九月十五日祭禮。
 - 九月廿一日祭禮。
 - 九月十五日町方祭禮。
 - 八月十九日祭禮。
 - 七月廿七日祭禮。
- 神主 伊吹左門
 - 新義真言宗 小日向田中八幡別當
 - 天台宗 牛込赤城明神別當
 - 天台宗 市谷八幡別當
 - 天台宗 牛込八幡別當
 - 天台宗 無量
 - 古義真言宗 同所穴八幡別當
 - 黃蘗宗 關口水道町八幡別當
 - 新義真言宗 青山熊野權現別當
 - 新義真言宗 下谷金杉三島明神別當
 - 新義真言宗 下谷坂本小野照崎明神別當
 - 天台宗 東叡山領武州豊島郡新堀村諏訪明神別當
 - 新義真言宗 淨光

右と去戌年^{○天保九年}庭祭禮又と祭禮休年^{○天保九年}のい處、花出し或と踊家臺等差出し、氏子町々村々迄も引歩行、其餘目立の衣類を着しもの有之哉、右之内湯島天神并上野黒門前五條天神牛込赤城小日向田中八幡根津權現市谷八幡等と、別る花麗之趣に相聞、如何に付、素々定例之庭祭禮、別當神主共々寺社奉行の書出分も有之い得共、前書之通だし練物等可差出願濟と無之、既之所々祭禮之節、花麗致間敷段と、前々御觸之節、右體花麗之致間敷旨、其筋を別當神主共の申渡有之い間、右之趣氏子町々之もの共可相心得い。

尤右場所之不限、已後都る庭祭禮并休年と不及申、氏子町々一切花麗之義致間敷い。此旨町中不洩様可申付い。

但、下谷金杉三島明神同所坂本小野照崎武州新堀村諏訪明神氏子共、東叡山領村々之義と、田村權右衛門を爲申渡い旨に付、左様可相心得い。

右之通從御奉行所被仰渡い間組々早々申繼町々之儀不洩様申付、月行事持場所之寂寄名主を心付可申い。

亥^{○天保十年}正月

右と、館市右衛門殿組々世話掛の申渡。

—— 撰要永久録

同^{○天保五年}正月十四日町觸

湯島天神別當喜見院、五條天神同瀬川昌庵、根津權現別當昌泉院同神主伊吹左門、赤城明神別當等覺寺、田中八幡別當西藏院、市ヶ谷八幡別當東圓寺、若宮八幡同無量寺、穴八幡別當放生寺、關口八幡別當洞雲寺、青山熊野別當淨性院、金杉三島同西藏院、坂本小野照崎別當嶺照院、新堀諏訪別當淨光寺、右ハ戌年^{○天保九年}祭又ハ祭禮休年^{○天保九年}のい處、花出し或ハ踊屋臺等差出し、氏子町々村々を引歩行、其外目立の衣服を着し、右之内湯島天神五條天神赤城明神根津權現市ヶ谷八幡等ハ、別る花麗之趣相聞、如何にい間、神主別當共へも、急度及沙汰。依之右所々之氏子中にも、右様之義と無之の様、急度相觸可申い。

—— 藤岡屋日記

〔附記〕 諸國總繪圖

殷 昌 期

正月十六日○天保十年

御勘定組頭
波邊三郎助

銀貳拾枚。

諸國惣繪圖寫取調方御用相勤ハニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頼、越前守○水野忠邦申渡之。大和守○堀親賢侍座。

柳營日記

同○天保十年正月十六日

御勘定組頭
波邊三郎助

右總繪圖取調御用相勤ハニ付、被下之。

廿六日癸亥○天保十年(紀元二四九九)正月。屋鋪添地ヲ受授ス。是月○天保十年(紀元二四九九)正月。及二月○天保十年(紀元二四九九)正月。

三月○天保十年(紀元二四九九)正月。尚若干屋鋪其他ヲ受授ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。

屋鋪其他受授 天保十年正月、二月、及三月左ノ屋鋪受授有リ。

藤岡屋日記

屋鋪其他受授

屋鋪其他受授

內藤遠江守

下谷三味線堀 西丸御小納戸内藤遠江守添地坪數百七坪餘。

東 評定所留役御勘定組頭豊田藤之進添地。
南 櫻井庄兵衛組御徒組屋敷。

東 四間四尺餘。
南 二十間四尺餘。

西 道。
北 評定所留役御勘定組頭豊田藤之進。

下谷三味線堀富安九八郎上地之内百七坪餘、今度願之通内藤遠江守添地拜領仕、被成御渡之、四方間敷、

御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座奉請取ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年正月廿六日

西丸御小納戸内藤遠江守内
吉田幸左衛門印

御普請方下奉行 近藤義八郎殿
同改役 菅原亮平殿
御普請方 濱野安次郎殿

御普請奉行井上備前守○秀榮渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。
御普請方同心肝斐役加納帶藏。同同心假役小林貫助。雇棟梁吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、組屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

櫻井庄兵衛組御徒
池田甚右衛門印

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

評定所留役御勘定組頭豊田藤之進内
平井善藏印

圖略。

下谷三味線堀 評定所留役御勘定組頭豊田藤之進添地坪數四拾九坪餘。

東 大久保佐渡守。西 西丸御小納戸内藤遠江守添地。
南 櫻井庄兵衛組御徒組屋鋪。評定所留役御勘定組頭豊田藤之進御預地。
北 評定所留役御勘定組頭豊田藤之進。

東 四間四尺餘。
南 十間壹尺餘。

下谷三味線堀富安九八郎上地之内四拾九坪餘、今度願之通豊田藤之進添地拜領仕、被成御渡之、四方間敷、

殷昌期

豊田藤之進

御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取_レ。爲後日仍如_レ件。

天保十亥年正月廿六日

評定所留役御勘定組頭豊田藤之進内
平井善藏印

御普請方下奉行

近藤義八郎殿

同改役

菴原亮平殿

御普請方

濱野安次郎殿

御普請奉行松平豊前守(○政周)渡_レ之。外御用之付出席無_レ之。

御普請方同心肝煎役加納帶藏。同同心假役小林貫助。雇棟梁吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、組屋鋪境目立合_レ處、御改之通相違無御座_レ。爲後日仍如_レ件。

櫻井庄兵衛組御徒
池田甚右衛門印

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合_レ處、御改之通相違無御座_レ。爲後日仍如_レ件。

大久保佐渡守内
戸田玄兵衛印

圖略。同年(○天保十年)七月廿四日預替_レ。

下谷三味線堀 評定所留役御勘定組頭豊田藤之進御預地坪數六拾七坪餘。

東 大久保佐渡守。
南 西丸御小性組酒井隱岐守組建部傳内。
西 櫻井庄兵衛組御徒組屋敷。
北 豊田藤之進添地。

東 西 南 北
三十三間四尺。
貳間。

下谷三味線堀富安九八郎御預地上地六拾七坪餘、豊田藤之進_レ被_レ成御渡之、四方間數、御繪圖之通、相違

無御座奉預_レ。尤御預地内家作等一切仕間鋪旨被_レ仰渡、奉畏_レ。爲後日仍如_レ件。

天保十亥年正月廿六日

評定所留役御勘定組頭豊田藤之進内
平井善藏印

御普請方下奉行

近藤義八郎殿

御普請方改役

菴原亮平殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、加納帶藏。小林貫助。吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、組屋鋪境目立合_レ處、御改之通、相違無御座_レ。爲後日仍如_レ件。

櫻井庄兵衛組御徒
池田甚右衛門印

前書御繪圖之通、屋敷境目、<sub>○以下立
合文同文。</sub>

大久保佐渡守内
戸田源兵衛印

西丸御小性組酒井隱岐守組建部傳内
片野昇作印

屋鋪渡預繪圖證文

天保十亥年

亥正月廿六日。富安九八郎上地之内

一、下谷三味線堀四拾九坪餘

同日。同人上地之内

一、同所百七坪餘

評定所留役御勘定組頭

豊田藤之進

西丸御小納戸

内藤遠江守

添地。

殷昌期

八七五

亥正月廿六日。富安九八郎御預地上地
一、下谷三味線堀六拾七坪餘
(未)
同年(○天保十年)七月廿四日御徒方に預替之成。消印。

評定所留役御勘定組頭
豐田藤之進
御預地

八月二日。越前守殿(○水野忠邦)
一、下谷三味線堀富安九八郎上地添地願
(未)
天保十亥年正月廿六日渡。

評定所留役御勘定組頭
豐田藤之進

七月七日。大和守殿
一、右同斷
(未)
同年同月渡。

御臺様御用人
内藤遠江守

圖略○

屋敷書拔

高井房寬

表四番町 御留守居番高井主水○房。屋鋪坪數貳百七拾七坪餘。

寄合池田右京。西南 小普請組藤懸采女支配鈴木勇次郎。
道。西南

東北 貳十六間餘。西南 十七間貳尺。
東南 十貳間四尺餘。西北 十五間

表四番町飯河善左衛門殿上地割殘貳百七拾七坪餘、今度願之通高井主水屋鋪拜領仕、被成御渡、○以下同文。

天保十亥年二月朔日

御留守居番高井主水内
大塚良右衛門印

御普請方下奉行
近藤義八郎殿

同改役 菴原亮平殿

御普請方 濱野安次郎殿

御普請奉行松平豊前守(○政周)渡之。外御用之付、出席無之。

前書御繪圖之通、屋敷境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

寄合池田右京内 宮田章 作印
小普請組藤懸采女支配鈴木勇次郎内 松崎辨左衛門印

圖略○

筋違橋御門外 御臺様御膳所御臺所人岡田新吉屋鋪坪數八拾七坪餘。

東 町屋。西 道。
南 道。北 御金奉行馬場藤五郎。

東西 五間三尺。
南北 十五間五尺。

筋違橋御門外齋藤勘之助上地八拾七坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、○以下同文略之。

御臺様御膳所御臺所人
岡田新吉印

天保十亥年二月五日

御普請方改役勤方 富澤林藏殿
御普請方 濱野安次郎殿

出役、御普請方同心早乙女喜兵衛。地割棟梁三橋喜六。

殷昌期

岡田新吉

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御金奉行馬場藤五郎内 宮田 藤左衛門印

前書御繪圖之通、町屋境目立合ハ處、被遊御改ハ通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

神田松下町貳丁目代地名主 平次 郎印

圖略○

本郷御弓町 辻番所場所替地所。

本郷御弓町彦大坂膳頭取組合辻番所、是迄之場所地形障有之、保方不宜ハ之付、今度場所替取建地所被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年二月八日

寄合彦坂大膳内 小島 兵馬印

御普請方下奉行

近藤 義八 郎殿

同改役

菴原 亮 平殿

御普請方

鈴木 莊五 郎殿

圖略○

本所 御臺様御膳所御臺所人 中村平次郎屋敷坪數貳百坪餘。

東 道。御小性組逸見甲斐守組北條新左衛門。

西 大御番船越駿河守組淺井雁兵衛。小普請組酒井龜之助支配大石源藏。

南 貳十七間壹尺餘。

北

中村平次郎

本所三ツ目三笠町久島定次郎上地貳百坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、
○以下
同文。

天保十亥年二月十日

御臺様御膳所御臺所人 中村平次郎印

御普請方改役 菴原 亮 平殿

御普請方

濱野 安次 郎殿

出役、御普請方同心假役早乙女喜兵衛。履棟梁吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御小性組逸見甲斐守組北條新左衛門内 池田市左衛門印

大御番船越駿河守組淺井雁兵衛内 中島 助印

小普請組酒井龜之助支配大石源藏内 村田 彌兵衛印

圖略○ 天保十一年二月十九日戸田久助添地之渡入。

小川町裏神保小路 駿府勤番新見鍊次郎上地坪數六拾五坪餘。

東 御書院番會我伊豫守組曲淵作次郎。

西 二の丸御留守居井關縫殿頭。

南 道。 十間壹尺。

北 西之同。

小川町裏神保小路新見鍊次郎殿上地六拾五坪餘、曲淵作次郎に被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預ハ。尤御預地内家作等一切仕間鋪旨被御渡奉畏ハ。爲後日仍如件。

曲淵作次郎

天保十亥年二月廿日

御書院番會我伊豫守組曲淵作次郎内
宮田彦右衛門 清印

御普請方下奉行

近藤 義八 郎殿

同支役勤方

富澤 林 藏殿

御普請方

濱野 安次 郎殿

出役、土岐清右衛門。吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

二丸御留守居并關縫殿頭内

河野庄兵衛 印

御書院番會我伊豫守組曲淵作次郎内

宮田彦右衛門 印

圖略○

杉山又右

麻布 御膳所御臺所人杉山又右衛門屋鋪坪數百坪。

東 盛姫君様御用人並島田長之助。 西 大目付土屋紀伊守。
南 西丸御小納戸依田平左衛門。 北 道。

東 十三間五尺。 西 十四間。
南 七間壹尺餘。 北 七間壹尺餘。

麻布御殿跡玉虫左兵衛上地之内百坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

天保十亥年二月廿一日

御膳所御臺所人

杉山又右衛門 印

島田長之助

圖略○

麻布 盛姫君様御用人並島田長之助屋鋪坪數百坪餘。

東 小普請組酒井龜之助組林茂平。 西 御膳所御臺所人杉山又右衛門。
南 西丸御小納戸依田平左衛門。 北 道。

東 十三間五尺。
南 七間一尺餘。

麻布御殿跡玉虫左兵衛上地之内百坪餘、今度願之通島田長之助屋鋪拜領仕、被成御渡之、以下同文。

天保十亥年二月廿一日

盛姫君様御用人並島田長之助内
高草文 藏印

御普請方下奉行

近藤 義八 郎殿

同改役

菴原 亮 平殿

御普普方

鈴木 庄五 郎殿

殷 昌 期

御普請奉行井上備前守(○秀榮)渡之。外御用之付出席無之。
出役、御普請方同心肝野山縣善十郎。同心長谷川善三郎。地割棟梁三橋喜六。飯塚彌三郎。
前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小普請組酒井轟之助組
林 茂 平印
西丸御小納戸依田平左衛門内
福田守衛印

圖略○

駒込看町 御持筒頭高城清右衛門組元同心皆川金松坪數百四拾坪餘。

東 組屋敷内道。
大圓寺。

南 御持筒頭高城清右衛門組同心芳賀元次郎。
北 同 同宮卷豐次郎。

東 四間四尺餘。
南 三十間三尺。

西 四間貳尺餘。
北 三十間五尺。

駒込看町皆川金松上地百四拾坪餘、御持組屋敷大繩之内ニ御座ハ之付、御請取、直ニ右組ハ御差戻被成、四方間數、御繪圖之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年二月廿一日

御持筒頭高城清右衛門組與力
若代辰兵衛印

御普請方改役勤方

富澤 林 藏殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、森由太郎。中村爲三郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御持筒頭高城清右衛門組同心
芳賀元次郎印

前書御繪圖之通、寺地境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

大圓寺印

圖略○

目白臺 中島三左衛門組元御徒兒山勝之進上地坪數百貳拾坪餘。

東 中島三左衛門組御徒露岡鏡作。

西 小普請組藤懸采女組中山重藏、御廣敷添番荒井小源太。

南 小普請組藤懸采女支配田村勝左衛門。
北 道。

東 十七間三尺餘。
南 六間三尺餘。

目白臺兒山勝之進上地百貳拾坪餘、御徒組屋敷大繩之内ニ御座ハ之付、御請取、直ニ右組ハ被成御差戻、四方間數、御繪圖之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年二月晦日

中島三左衛門組御徒
櫻井財十郎印

御普請方改役勤方

富澤 林 藏殿

御普請方

鈴木莊五郎殿

出役、森由太郎。三橋喜六。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御廣敷添番
荒井小源太印

天保十亥年

- 亥二月朔日。飯河善左衛門上地割殘
- 一、表四番町貳百七拾七坪餘
- 亥二月五日。齋藤勘之助上地
- 一、筋違橋御門外八拾七坪餘
- 亥二月八日。彦坂大膳頭取組合辻番場所替
- 一、本郷御弓町組合辻番場所替
- 亥二月十日。久嶋定次郎上地
- 一、本所三ツ目三笠町貳百坪餘
- 亥二月廿日。新見鍊次郎上地
- 一、小川町裏神保小路六拾五坪餘
- (本) 天保十一年二月十九日。田久助添地之渡。消印。
- 亥二月廿一日。玉虫左兵衛上地之内
- 一、麻布御殿跡百坪餘
- 亥二月廿一日。同人上地之内
- 一、同所百坪餘
- 亥二月廿一日。皆川金松上ヶ地
- 一、駒込肴町百四拾坪餘

中島三左衛門組御徒
 高井 主 水
 岡田 新 吉
 寄合 彦坂 大膳
 御臺様御膳所御臺所人
 中村 平次郎
 御書院番會我伊豫守組
 曲淵 作次郎
 御預地。

御留守居番
 高井 主 水
 岡田 新 吉
 寄合 彦坂 大膳
 御臺様御膳所御臺所人
 中村 平次郎
 御書院番會我伊豫守組
 曲淵 作次郎
 御預地。

- 亥二月晦日。兒山勝之進上地
- 一、目白臺百貳拾坪餘

御徒頭
 中嶋 三左衛門
 差辰。

天保十亥年

- 曾我助順
 - 須田角藏
 - 淺野齋肅
 - 辻番所
 - 辻番所
 - 武井莊三郎
- 亥三月六日
 - 一、本所三ツ目四ツ目之間新規物揚場
 - 亥三月九日。山崎太平上地
 - 一、巢鴨稻荷前三拾坪
 - 亥三月十一日
 - 一、武州穩田村熊野權現社地同所地續東北之方畑地共都合貳千貳百貳拾三坪餘
 - 亥三月十二日。蓋山太郎左衛門上地
 - 一、小石川蓮華寺坂横町百七拾坪餘
 - (本) 天保十一年三月十四日。足立貞右衛門拜領之成。消印。
 - 亥三月十二日。山田日向守頭取組合辻番様替
 - 一、小日向築地組合辻番地所模様替地所
 - 亥三月十三日。相馬大膳亮頭取組合辻番
 - 一、麻布谷町組合辻番地所場所替
 - 亥三月廿五日。杉浦勝太郎上地
 - 一、小石川阿部伊勢守上地八拾坪餘

屋敷書拔

御書院番頭
 曾我 伊勢 守順
 大御臺様御廣敷伊賀者
 須田 角藏

松 平安 藝 守
 小普請組夏日向守組
 三宅 長左衛門
 御預地。

大御臺様御用人
 山田 日向守
 相馬 大膳 亮
 御臺様御廣敷伊賀者
 武井 莊三郎
 屋敷書拔

巢鴨稻荷前 大御臺様御廣敷伊賀者須田角藏屋鋪坪數三拾坪。

東南 進物取次下番小寺傳藏。 西北 御先手角南主水組同心石井兵三郎。
西南 道。

東南 八間。 西北 八間。
西南 三間、壹間。 東北 四間。

巢鴨稻荷前、山崎太平上地三拾坪、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

天保十亥年三月九日

大御臺様御廣敷伊賀者 須田角藏印

御普請方改役勤方

富澤林藏殿

御普請方 濱野安次郎殿

出役、小林貫助。中村爲三郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

進物取次下番

小寺傳藏印

御先手角南主水組同心 石井兵三郎印

圖略。

武州穩田村 松平安藝守^{○淺野齊齋}屋鋪坪數貳千貳百貳拾三坪餘。

東北 道。 東南 道。
西南 畑地。 西北 畑地。

東北 長延三十九間三尺。 西南 貳十九間、貳十壹間貳尺。
東南 五十間三尺。 西北 五十五間。

武州穩田村熊野權現社地貳百貳拾四坪、同所地續東北之方畑地千九百九拾九坪餘、都合貳千貳百貳拾三坪餘、末姫君様^{○淺野齊齋}御願之通、松平安藝守^{○淺野齊齋}被下^ハ付、右地所被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取申。且權現社其外建物之儀、別紙繪圖面御渡、神器等之目錄を以被成御渡之、是又奉請取申。爲後日仍如件。

天保十亥年三月十一日

松平安藝守内 周參見勇衛印

御普請方下奉行

近藤義八郎殿

同改役 菴原亮平殿

御普請方 濱野安次郎殿

御普請方松平豊前守^{○政局渡}之。

出役、荒川三七。池田衆平。小林貫助。鈴木三平。長谷川善三郎。河合玄作。三橋喜六。天野

鄉藏。飯塚彌三郎。

武州穩田村熊野社神器目錄

一、太刀 無銘。 壹振。

一、鱈口 壹ツ。

一、木綿幟 壹對。

一、太鼓 壹ツ。

一、唐獅子 壹對。

殷昌期

- 一、大乘經 壹部
- 一、法華經 貳部
- 一、前机 三脚
- 一、經机 壹脚
- 一、香爐 壹ツ
- 一、花建 壹ツ
- 一、天蓋 壹ツ
- 一、釣燈籠 四對
- 一、蠟燭建 三ツ
- 一、花鬘 貳ツ
- 一、打鳴 壹ツ
- 一、金錢 壹文
- 一、賽錢箱 壹ツ

右之通、相違無御座奉請取_レい。以上。

天保十年三月十一日

松平安藝守内 周參見勇衛印

圖略○

小日向築地 辻番所模樣替地所。

東 柴田善之丞。 北 道。
南 道、辻番所。

小日向築地山田日向守頭取組合辻番所、今度模樣替致普請_レい之付、右増地所被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取_レい。爲後日仍如件。

天保十亥年三月十二日

大御臺様御用人山田日向守内 大野万右衛門印

御普請方改役勤方 林 藏殿
御普請方假役 富澤 中島 八郎殿
出役、森由太郎。天野郷藏。

圖略○ 天保十一年三月十四日喜代姫君様御侍足立貞右衛門拜領之成ル。

小石川蓮華寺坂横町 駿府勤番蔭山太郎左衛門上地坪數百七拾坪餘。

東南 大御番菅沼織部正組堀田甚兵衛。 西北 小普請組夏目日向守組三宅長左衛門。
西南 道。 東北 町屋、正福院。
東南 貳十四間三尺。 西北 貳十壹間。
西南 七間。

小石川蓮花寺坂横町蔭山太郎左衛門上地百七拾坪餘、拙者_レ御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座預申_レい。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉承知_レい。爲後日仍如件。

天保十亥年三月十二日

小普請組夏目日向守組 三宅長左衛門 指印

御普請方改役勤方 林 藏殿
御普請方 富澤 濱野 安次郎殿

殷昌期

八八九

出役、網代圭次。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小普請組夏日向守組

三宅長左衛門印

大御番菅沼織部正組堀田甚兵衛内

田中忠右衛門印

前書御繪圖之通、寺地境目、

○以下立合
文同文。

東叡山末

正福院印

前書御繪圖之通、町屋境目立合ハ處、被遊御改ハ通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小石川指谷町名主新七郎代

清七印

圖略○

麻布谷町 組合辻番場所替地所。

東道。西道。相馬大膳亮中屋鋪。

南道。北道。壹間貳尺五寸。四間三尺。

麻布谷町相馬大膳亮頭取組合辻番所、是迄之場所見張不宜不都合之付、今度場所替取建地所被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年三月十三日

相馬大膳亮内

小河清記印

御普請方奉行 吉際源藏殿

同改役 菴原亮平殿

御普請方假役 雨宮宗左衛門殿

出役、水上源兵衛。長谷川善三郎。飯塚彌三郎。

圖略○

小石川 御臺様御廣敷伊賀者武井莊三郎屋敷坪數八拾坪餘。

東南、新御番米倉大内藏組加賀已三郎。

西北、御小人野崎榮左衛門組萩原作兵衛。

東北、道。拾六間五尺。

西南、御書院番高井但馬守組本多市郎。

小石川阿部伊勢守上地杉浦勝太郎上地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

御臺様御廣敷伊賀者

武井莊三郎印

天保十亥年三月廿五日

御普請方改役 富澤林藏殿

御普請方 濱野安次郎殿

出役、御普請方同心假役池田衆平。地割棟梁飯塚次郎兵衛。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御小人野崎榮左衛門組萩原作兵衛病氣之付名代同

高橋豊次郎印

新御番米倉大内藏組加藤已三郎内

吉田多右衛門印

屋鋪渡預繪圖證文

金貨鑄造行
賞事蹟

三月廿五日辛酉○天保十年(紀元二四九九)金貨鑄造ノ行賞有り。

○柳營日記。慎徳院殿御實紀。

金貨鑄造行賞 大判金改鑄ハ九年六月ノ條ニ之ヲ記ス。

三月廿五日○天保十年○中略。

時服三。

同二。

御金吹立方之儀骨折相勤ハ付被下之。

右於芙蓉之間、老中列座、越前守○水野忠邦申渡ハ。

金貳枚。

御勘定組頭

須藤 市左衛門

御勘定

安田 傳次郎

上野 新九郎

野間 藤兵衛

神尾 理三郎

同出役

同吟味方改役並

成瀬 得右衛門

同吟味方改役

後藤 一兵衛

長谷川 藤之進

太田 彦助

瀧澤 權平

佐藤 金五郎

支配勘定

正木 作次郎

同斷ニ付被下之。

金拾兩。

同斷ニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頼、同人○水野忠邦申渡之。林肥後守○忠侍座。

銀拾枚。

同斷ニ付被下之。

右於燒火之間、林肥後守申渡之。

廿五日○天保十年三月○中略。勘定奉行明樂飛驒守○茂おかし吟味役中野又兵衛○長鑄金の事奉はりしをもて時服を下さ

る。所屬のともから賜物差あり。

四月七日壬申○天保十年(紀元二四九九)屋鋪受授有り。外ニ若干屋鋪ヲ是月○天保十年(紀元二四九九)四月受授

ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授 天保十年四月左ノ屋鋪ヲ受授ス

圖略。

澁谷羽根澤村 御賄調役吉田茂七郎屋敷數百坪。

東 小普請組岡村丹後守組石井彌七郎。 西 道。御留守居番太田善太夫。

南 東之同シ。 北 五間。

澁谷羽根澤村屋野又右衛門上地百坪、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定

杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

天保十年四月七日

般 昌 期

御賄調役

吉田 茂七郎印

八九三

屋鋪受授

屋鋪受授事

吉田茂七郎

御普請方改役勤方

富澤 林藏殿

御普請方 濱野 安次郎殿

出役、小谷野應助、天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御留守居番太田善太夫内

高城左司馬印

小普請組岡村丹後守支配石井彌七郎内
松村勝藏印

圖略。天保十一年二月廿三日林大内記下屋鋪之渡ス。

巢鴨稻荷前 駿府勤番新見鍊次郎上地坪數貳百五拾六坪餘。

東南 西丸御書院番高力丹波守組三賀監物。

西南 道。右大將様御小性組蠅川越中守組秋山八郎。

西北 大御番建部内匠頭組都筑鍋五郎。

東南、西北 三十間壹尺。東北 八間三尺。

巢鴨稻荷前新見鍊次郎殿上地貳百五拾六坪餘、都筑鍋五郎被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預ハ。○以下同文。

天保十亥年四月十一日

大御番建部内匠頭組都筑鍋五郎内

山口直右衛門印

御普請方下奉行

近藤 義八郎殿

同改役勤方

富澤 林藏殿

御普請方 濱野 安次郎殿

出役、青木幸太。吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通、相違無御座ハ。爲後日仍如件。

西丸御書院番高力丹波守組三賀監物内

米村十兵衛印

右大將様御小性組蠅川越中守組秋山八郎内

檜山市藏印

大御番建部内匠頭組都筑鍋五郎内

山口直右衛門印

圖略。

四谷内藤宿新屋鋪 小普請方吟味役栗原治郎兵衛屋鋪坪數百拾坪餘。

東北 小普請組夏日向守支配高井貞太郎。西南 大御番石川伊豫守組井上鍊之助。

西北 御小性齋藏内藏頭組小笠原忠五郎、小普請組酒井壘之助支配世話取扱依田五郎八郎。

東南 道、御代官森覺藏手附御普請役格小原愚太夫。

東北 十三間貳尺、八間四尺。西南 貳十貳間餘。

東南 壹間四尺、八間四尺。西北 九間五尺餘。

四谷内藤宿新屋鋪關佳六上地百拾坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年四月十三日

小普請方吟味役 栗原 次郎兵衛印

御普請方改役 菴原 亮平殿

御普請方 濱野 中儀兵衛殿

出役、佐口伴右衛門。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處。御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

御代官森覺藏手附御普請役格

小原愚太夫印

御小性組齋藤内藏頭組小笠原忠五郎内

小野要輔印

大御番石川伊勢守組井上鍊之助内

吉田万五郎印

小普請組酒井蠱之助支配世話取扱依田五郎八郎内

豊田伊兵衛印

同 夏日向守支配高井貞太郎内

山下佐兵衛印

同

四谷内藤宿新屋鋪 御普請方竹内市十郎屋鋪坪數百坪餘。

圖略。

東北 御代官山本大膳支配所内藤新宿名主喜六預り地。 西南 西丸小十人山田三十郎組大木治兵衛。

東南 道。 御鐵炮御算箭奉行河口市郎右衛門組同心佐藤庄三郎、小普請組後藤佐渡守組岸多三郎。

西北 十八間三尺。

東南、西南 五間三尺餘。

四谷内藤宿新屋鋪相澤久助上地百坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕い。○以下同文。

天保十亥年四月十三日

御普請方 竹内市十郎印

御普請方改役 亮 平殿

御普請方假役 濱中儀兵衛殿

出役、佐口伴右衛門。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

御鐵炮御算箭奉行河口市郎右衛門組同心

佐藤庄三郎印

小普請組後藤佐渡守組

岸多三郎印

西丸小十人山田三十郎組大木治兵衛内

加藤佐兵衛印

前書御繪圖之通、百姓地境目立合い處、被遊御改い通、相違無御座い。爲後日仍如件。

四谷内藤宿名主見習

喜一郎

郎印

圖略。

大久保余町町 御書物同心市野市郎左衛門屋鋪坪數六拾坪餘。

東 道。 御鷹野方丸山奥右衛門。 北 大御番北條遠江守同心大繩組屋敷。

南 六間四尺餘。 西 小普請方酒井主馬支配岩出織部。

南 八間三尺餘。 北 七間餘。 八間五尺。

大久保余町町鈴木亦之進上地六拾坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之。○以下立合文同文ニ付略之。

天保十亥年四月十四日

御書物同心 市野市郎左衛門印

御普請方改役 亮 平殿

御普請方 濱野安次郎殿

出役、同心森由太郎。棟梁吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

殿 昌 期

八九七

市野市郎

前書御繪圖之通、大御番同心大繩組屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

御鷹野方丸山奥右衛門病氣之付名代同
高峯長兵衛印
小普請組酒井主馬支配岩出織部内
沼田一印
大御番北條遠江守同心
志村十次郎印

圖略○

市谷長延寺谷 御天守番朝倉六右衛門組山本作五郎屋鋪坪數百四坪餘。

東北 新規定式、富士見御寶藏番藤沼源左衛門組佐野助三郎。
西南 右大將樣御小納戸織田主水。
前記佐野助三郎。

西北 十八間三尺。
西南 十九間三尺。
東南 四間三尺。

市谷長延寺谷栗屋鐵三郎上地、并同人御預地上地之内二百四坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

天保十亥年四月十五日

御天守番朝倉六右衛門組
山本作五郎印

御普請方改役勤方
富澤林藏殿

御普請方
濱野安次郎殿

出役、宮路一平。三橋喜六。飯塚彌三郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

右大將樣御小納戸織田主水内
井上判助印

圖略○

市谷長延寺谷 富士見藤沼源左衛門組佐野助三郎屋鋪坪數百四坪餘。

東北 御小性組齋藤内藏頭組富永喜三郎、小普請組夏目日向守組神谷傳之丞、右大將樣御小性組近藤石見
守組三輪主水。

西南 御天守番朝倉六右衛門組山本作五郎、右大將樣御小納戸織田主水。
新規定式、右三輪主水、左山本作五郎。東南 織田主水、御小性組土屋伊賀守組依田新五郎。

西北 十六間。
西南 九間四尺餘、四間三尺。
東南 十間貳尺、四間五尺。

市谷長延寺谷栗屋鐵三郎上地并同人御預地上地之内二百四坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

富士見藤沼源左衛門組
御寶藏番藤沼源左衛門組

天保十亥年四月十五日

佐野助三郎印

御普請方改役勤方

富澤林藏殿

御普請方
濱野安次郎殿

出役、宮路一平。三橋喜六。飯塚彌三郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

小普請組夏目日向守組
神谷傳之丞印
右大將樣御小納戸織田主水内
井上判助印

御小性組齋藤内藏頭組富永喜三郎内
黒岩嘉平太印
同土屋伊賀守組依田新五郎内
安達彌兵衛印

佐野助三郎

前書御繪圖之通、屋敷境目立合ハ處、御改之通相違無御座、且親規道式出來ニ付、以來境目等不紛様可仕旨、被仰渡、奉畏ハ。爲後日仍如件。

右大將様御小性組近藤石見守組三輪主水内
木村 文 司印

圖略。

中島金次郎

牛込富士見馬場 富士見 番松下顯次郎組中島金次郎屋鋪坪數九拾七坪餘。

御寶藏 新御番松平主計頭組長谷川藤太郎、右大將様御側衆戶田阿波守。

東 道。西 小普請組後藤佐渡守組淺羽滋次郎。
南 大御臺様御廣敷伊賀者井上重左衛門、小普請組戶塚備前守支配今井虎之助。

東 三間四尺餘、九間四尺。
南 十四間三尺。

西 十壹間。
北 十間二尺、五間三尺。

牛込富士見馬場中岡三郎上地割殘九拾七坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之、四方間敷、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申ハ。爲後日仍如件。

富士見 番松下顯次郎組
御寶藏 中島 金次郎印

天保十亥年四月十六日

御普請方改役勤方

富澤 林 藏殿

御普請方 鈴木 莊五郎殿

出役、池田兼平。飯塚次郎兵衛。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

右大將様御廣敷伊賀者
井上 重左衛門印

天保十亥年

亥四月七日。星野又右衛門上地

一、澁谷羽根澤村百坪

亥四月十一日。新見鍊次郎上地

一、巢鴨稻荷前貳百五拾六坪餘

天保十一年二月廿三日林大内記下屋敷之渡。消印。

亥四月十三日。關佳六上地

一、四谷内藤宿新屋敷百拾坪餘

同日。相澤久助上地

一、同所百坪餘

亥四月十四日。鈴木亦之進上地

一、大久保余丁町六拾坪餘

亥四月十五日。栗屋鐵三郎上地并同人御預地上地之内之希

一、市谷長延寺谷百四坪餘

同日。同人同斷

一、同所百四坪餘

般 昌 期

右大將様御側衆戶田阿波守内

木村 庄右衛門印

新御番松平主計頭組長谷川藤太郎内

矢部 文左衛門印

小普請組後藤佐渡守支配淺羽滋次郎内

永島 半藏印

同戶塚備前守支配今井虎之助内

吉田 安右衛門印

——屋鋪渡預繪圖證文

御賄調方 吉田 茂七郎

大御番建部内匠頭組 都築 鍋五郎
御預地。

小普請方吟味役 栗原 次郎兵衛

御普請方 竹内 市十郎

御書物同心 市野 市郎左衛門

御天守番朝倉六右衛門組 山本 作五郎

御寶藏 番藤澤源左衛門組 佐野 助三郎

亥四月十六日。中岡三郎上地割殘
一、牛込富士見馬場九拾七坪餘

天保十亥年四月十三日

備後守殿○太田資始林阿彌を以御渡、豊前守○松平政周請取。

御普請奉行

品川氏繁

關彦十郎拜領屋敷袋貳番町
貳百八拾坪餘

關彦十郎

品川内記拜領屋敷目黒
五百坪

余語源三郎

佐藤忠次郎拜領屋敷小石川築地
三百坪

佐藤忠次郎

余語源三郎拜領屋敷小石川白山
貳百三拾八坪

龜田三郎

龜田三郎助拜領屋敷本所二ツ目三ツ目之間南割下水
五拾坪

本目權右

山口鐵五郎拜領屋敷同所
五百貳拾坪

龜田三郎助

本目權右衛門拜領屋敷本所三ツ目通三笠町
五拾坪

山口鐵五郎

同人拜領屋敷本所南割下水
貳百壹坪餘

富士見 番松下顯次郎組
御寶藏

中島 金次郎

屋敷書拔

表高家

品川内

記

大御番北條遠江守組

關彦十郎

御小納戸

余語源三郎

右大將様小十人西尾藤四郎組
佐藤忠次郎

西丸御小納戸

本目權右衛門

小普請組藤懸采女支配

龜田三郎助

明キ支配

山口鐵五郎

古坂與七郎

小野傳左衛門拜領屋敷鐵炮洲北紺屋町
貳百六坪

小野傳左

横山傳七郎拜領屋敷麴町元山王三軒家
四百拾三坪

横山傳七郎

古坂與七郎拜領屋敷鐵炮洲北紺屋町貳百六坪之内
五拾坪

松本理右

上川惣藏拜領屋敷牛込山伏町
貳百坪

上川惣藏

松本理右衛門拜領屋敷駒込貳百坪之内
百三拾坪

山名本次郎

森川頼母拜領屋敷青山新屋敷
貳百四拾六坪

森川頼母

山名本次郎拜領屋敷淺草堀田原
貳百五拾坪

藥科久三郎

赤井忠兵衛拜領屋敷赤坂築地
三百坪

赤井忠兵

藥科久三郎拜領屋敷青山權田原
貳百坪餘

小栗半右

中山半兵衛拜領屋敷市谷新本村四丁町
百三拾三坪餘

中山半兵

小栗半右衛門拜領屋敷下谷貳丁町
七拾四坪

本間角十郎

齋藤嘉兵衛拜領屋敷大久保外山
貳百坪

齋藤嘉兵

本間角十郎拜領屋敷牛込若宮臺
三百坪

御膳奉行

古坂與七郎

御作事下奉行格御徒目付組頭

小野傳左衛門

小普請組戸塚備前守支配

横山傳七郎

小普請組戸塚備前守支配組頭

松本理右衛門

御普請役

上川惣藏

御小性組逸見甲斐守組

山名本次郎

西丸御小性組本多日向守組

森川頼母

大御番大岡紀伊守組

藥科久三郎

横田筑後守組北條遠江守組預

赤井忠兵衛

大御番北條遠江守組

小栗半右衛門

御留守居松平内匠頭同心

中山半兵衛

小普請組戸塚備前守支配

本間角十郎

宮内卿殿納戸頭

齋藤嘉兵衛

横山十太郎
鈴木彌五郎

鈴木彌五郎拜領屋敷四谷内藤宿裏番衆町六百坪餘之内
三百坪餘
横山十太郎拜領屋敷同所表番衆町
三百坪餘

小普請組岡村丹後守支配
横山十太郎
鈴木彌五郎

右願之通、屋敷相對替被仰付之間、得其意、例之通可被致い。

亥○天保十年四月廿六日

備後守殿○太田資始。啓阿彌を以御下ケ、豊前守○松平政周請取。

御普請奉行

大久保忠
細川興建
村田矩勝
齋藤鐘次
川崎平六郎
栗原六右
松平順次郎

細川長門守拜領下屋敷目白臺關口
千三百七拾五坪
大久保仙丸拜領屋敷本所南割下水
千百坪
川崎平六郎拜領屋敷湯嶋四丁目
五百坪
外三拾坪永御預地。
村田幾三郎拜領屋敷集鴨新屋敷三百九拾坪之内
百五拾坪
齋藤鐘次郎拜領屋敷表六番町
三百六坪
青木市兵衛拜領屋敷市谷御門内三番町通り九百八拾壹坪之内
五百拾貳坪
同所之内
四百六拾九坪

大久保 仙丸
大御番 細川長門守○忠興
御勘定吟味役 村田幾三郎○矩勝
小普請組藤懸采女支配 齋藤鐘次郎
宮内卿殿奥詰 川崎平六郎
大御臺様御廣敷番之頭 栗原六右衛門
西丸御書院番高力丹波守組 松平順次郎

松下次郎
青木市兵
青木市兵
佐久間欽之丞
伊藤又一郎
附記、平川春屋表長屋修理

松平順次郎拜領屋敷湯嶋天神中坂下手代町八百七拾貳坪之内
三百四坪
栗原六右衛門拜領屋敷木挽町五丁目百八拾八坪之内
八拾八坪
松下次郎太郎拜領屋敷牛込若宮
七百坪
伊藤又一郎拜領屋敷四谷内藤宿新屋敷
四百坪
佐久間欽之丞拜領屋敷同所裏大番町
貳百五拾坪

小普請組後藤佐渡守支配 松下次郎太郎
藤懸采女支配 青木市兵衛
御書院番大久保紀伊守組 佐久間欽之丞
小普請組岡村丹後守支配 伊藤又一郎

〔附記〕 平川春屋表長屋修理

四月廿二日○天保十年

銀五枚。

小普請方 野口十郎兵衛

平川表長屋御表長屋屋根向其外御修復中、見廻り相勤い之付被下。

右於御右筆部屋縁類、越前守○水野忠邦申渡之。若年寄中侍座。

同二枚。

小普請方改役 坂入大三郎

同斷之付被下之。

右於燒火之間、林肥後守○忠申渡之。

柳營日記

兩國橋改架

廿六日辛卯

○天保十年(紀元二四九九年)四月○辛卯、三正綜覽。

兩國橋○市

ヲ改架シテ成リ、

是日

○天保十年(紀元二四九九年)四月廿六日。

掛員ヲ

賞ス。○柳營日記。慎徳院殿御實紀。藤岡屋日記。

兩國橋改架事蹟

兩國橋改架ハ

四月廿六日○天保十年。

金三枚。時服。

同二。

兩國橋掛直御普請御用相勤ハニ付被下之。

右於芙蓉之間、老中列座、備後守○太田申渡之。若年寄中侍座。

銀十枚ツ、別段同貳枚ツ、。

御徒目付

鈴木 萊助

三橋半之丞

右於焼失之間、林肥後守○忠申渡之。

廿六日○天保十年四月。町奉行大草安房守○高目付徳山五兵衛○秀兩國橋改架の事奉はりしにより黄金時服をたまふ。

屬吏また賜物あり。

——柳營日記

——慎徳院殿御實紀

兩國橋掛直御修復御用掛名前水野越前守殿○忠御差圖。

町奉行

大草安房守殿○高

御目付

徳山五兵衛殿○秀

大草安房守組與力

都筑彦右衛門

同組同心

佐野幾右衛門

神田

武八

片山門

左衛門

筒井紀伊守組與力

由比八十太夫

同組同心

川口万左衛門

大竹彦五郎

小川平兵衛

御徒目付

鈴木以來助

三橋貫之進

御小人目付

前田彦十郎

松永半六

鈴木忠五郎

十一月二十七日○天保九年晴

一、假橋小屋場取拂本橋會所取建中之付、一同西橋番所へ相詰ル。

本所道役
 藤村 太一郎
 家城 善兵衛
 清水 八郎兵衛
 家城 善十郎
 都筑 彦右衛門
 尾崎 新兵衛
 早出 由比八十太夫
 早出 佐野 幾右衛門
 神田 武八
 早出 大竹 彦五郎
 早出 小川 平兵衛
 道役早出 清水 八郎兵衛
 家城 善十郎

一、今九ツ時本橋ノ切、假橋往來通し、無滞相濟候事。

但、東西町役人并橋番請負人水防請負人共一同、東ノ渡始爲致、夫々往來相付候。

一、今夕相撲見物歸り候モノ多人數ニ付、假橋東西へ一同出役いし居候處、橋中程餘程震レ候ニ付、東之方繩張いし、人を計往來爲致、評議之上受負人傳吉へ申付、増筋違貫爲致候事。

十二月十九日○天保九年明廿日九時過手録式執行候ニ付、安房守殿○大草高好五兵衛殿○徳山秀起早々御退出ル御出之積り御折合相濟候旨、五兵衛殿被申聞候事。

二十日○天保九年晴。御退出ル九半時五兵衛殿御同道ニ御見廻有之候。右御揃ニて釘初式御覽夫々御見廻り有之候。

釘初式備物左之通、

- 一、幣 三本。 一、神酒 壹對。
- 一、大 備 三本。 一、榊 二本。
- 一、鬘 斗 壹臺。 一、壽留女 壹臺。
- 一、壽 餅 壹臺。 一、洗 米 壹臺。
- 一、盛 鹽 但、外に入。

右ハ小屋場内會所上之間前、橋之方被向孤を敷、右前に敷板三枚程並へ、上は右之品々銚、地覆木差置、敷物之向に幕一對張、右際に請負人傳吉同人伴傳之助宗五郎傳吉伴傳次郎傳之助伴東次郎弟子榮次郎右六人、麻上下を着、外弟子五人袴を着罷出、品々式有之候上、傳吉銚付前出、神拜唱事有之候上、曲尺釘打之式相濟。

右神酒傳吉差出候ニ付、御頭并五兵衛殿其外掛り一同少々宛吞候上、下ケ遣ス。

殷 昌 期

御頭 五兵衛殿 以上候分、

一、大 備

壹銚ツ、。

一、壽留女

拾枚ツ、。

一、壽 餅

十五ツ、。

一、長のし

壹枚ツ、。

一、壽 餅

一包ツ、。

大備二切ツ、掛り一同に差越。

用人 目安の遣し候分、

一、壽 餅

壹人の五ツツ、。

一、備

一切ツ、。

一、壽 餅

年番部屋へ遣し候事 五ツツ、十包。

右二口佐野幾右衛門御役所へ持參致。

一、幕

二張。

右ハ折初ニ付年番ヲ借受相用、右式相濟候間、幾右衛門持參返却致ス。

一、今日折初ニ付、七時仕込之夏。

廿五日

天保九年晴。當御場所今日限ニテ相休、來正月十二日

天保十年取掛り候ニ付、

受負人傳吉并橋番請負

人共、火之元ハ勿論、不取締無之様申渡候夏。

同^天十年正月十四日、明十五日明後十六日兩日共大工人足出方不宜候ニ付、休日仕度旨受請人相願候間

承候夏。

四月十一日^{天保十年晴。}評定所御退散ハ四ツ時過、安房守殿^{高好}御見廻、橋皆出來ニ付、上廻下廻りとも御見

分有之。

一、兩國橋御修復出來ニ付、渡り初可致、老人別帯之通隠密廻ハ差出候ニ付、奉伺候書付御直上ル。即剋承付致、本帯是又御直上ル。

十三日^{天保十年晴。}四半時安房守殿^{高好}五兵衛殿^{秀起}御詰出來榮下御見分有之。

十六日^{天保十年正月}曇少雨。下役壹人只今早々可出旨、御役所より呼ニ來候間、門左衛門越候處、明十七日四時

揃ニテ、御勘定奉行明樂飛驒守殿^{茂村}御目付柳生伊勢守殿^久當橋出來榮爲見分被相越候由、尤支配向ハ

正五半時揃ニテ罷越候旨、私三兵衛を以被仰渡候。

但、御徒目付鈴木承助ハ、三橋貫之進ハ、右之趣書面ニテ申來候。

十七日^{天保十年正月晴。}今日四ツ時揃、出來御見分有之候ニ付、掛り一同六半時ハ出ル。且見分方支配向も追々

相揃、姓名書爲取替候。名前左之通、

一、御勘定組頭關保右衛門。御勘定松永長作。支配勘定出役開田善藏。御普請役池永大之助。同見習藤井

鐵五郎。御徒目付加藤鎌藏。稻垣藤一郎。御小人目付神田作之丞。高松彦七郎。御使羽田重次郎。木村松

太郎。

一、五時、五兵衛殿^山引續安房守殿^{大草}御出有之、見分方掛り共相揃候ニ付、一同立合ニテ、下突合

有之、且西橋臺ニテ道役家城善十郎出來形帳并芥留杭出來形共讀上いさし、夫ハ橋上廻り見分有之、東橋

臺脇ハ御用船ニテ下廻り見分、南側ハ風烈之間を抜、北側ハ出、尙又御通船間を抜ケ、南側通七側八側目

之間を抜ケ、北之方橋臺際ハ一同上ル。

一、四時前明樂飛驒守殿^{茂村}引續柳生伊勢守殿^久御出、無程小屋場縁側ニテ道役清水八郎兵衛本橋并芥留

殿 昌 期

杭とも出来形讀上なし、夫も一同橋上御見分、本橋臺脇御一同御乗船、下廻り并芥留杭共御見分、船乗方下見分之通、船乗組左之通、

壹之船

神田 武 八

小川 平兵衛

鈴木 岩五郎

二之船

清水 八郎兵衛

明樂 飛驒守殿

柳生 伊勢守殿

關 保右衛門

加藤 鎌藏

三之船

都 筑十左衛門

御勘定方

御目付方

四之船

安房 守殿

五兵衛 殿

鈴木 歳助

尾崎 新兵衛

五之船

前田 彦十郎

由比 八十太夫

片山 門左衛門

大竹 彦五郎

松永 半六

家城 善十郎

右之艘にて下廻り御見分、尤外之役船貳艘之川上川下之壹艘ツ、控居、荷船遊山船等御見分船の不乘當様見張之差出置、尤佐野幾右衛門川口万右衛門と小屋場の控居。

一、御見分相濟、前西橋臺際北之方御一同御上り、見分方計小屋場の被參、打合有之候之付、安房守殿○大草高好五兵衛殿○德山秀起其外掛り之分を、橋臺小屋場脇々暫控罷在、見分方打合相濟候趣爲知候上、御兩人并掛り一同小屋場の立戻、御見分方御兩人御掛御兩人の御挨拶有之候。

一、見分方御兩人直之御引取、支配向も追々引取候上、掛り之者一同并掛り名主受負人共追々御兩人并前の罷出、無滞相濟候旨申上候處、出精骨折之旨、安房守殿○大草高好夫々相應之御挨拶有之候。十八日○天保十年正月晴風。當橋往來通し之付、一同五時出勤。

一、御目付方一同同斷。

一、安房守殿○大草高好内寄合濟九時過御出。

一、五兵衛殿○德山秀起御退出九時半頃御出、昨日之見分方御届、御進達相濟候旨被仰聞、御兩人共假橋御

渡越、東之方本橋御渡り、夫々老人并助成地請負人、東西最寄町役人共、連々東之方相渡り、尙西
の東に戻り、夫々老人計西之方小屋場前の罷出、渡初いし難有旨御兩人に申上候。

但、安房守殿○大草高好、五兵衛殿○德山秀起、橋上御渡り之節、橋中頃にて備慶斗壽留女神酒鋤置高欄を幣を結付、請
負人傳吉神拜唱事致し候。

一、右不殘相濟、橋中にて御用職を振相圖いしし、東西一同に往來相通し候。

一、安房守殿○大草高好、往來通不相濟以前、御退散。

一、五兵衛殿○德山秀起、往來通し相濟、八時過御退散。

五月十九日○天保十年晴。當橋御修復に付、先達て淺草邊材木屋共筏繋方入念差置候様申渡置候處、此節假橋杭

迄も取拂相濟候に付、淺草材木町名主權左衛門後見喜平次同所今戸丁同市郎左衛門淺草橋場丁同四郎兵衛
右三人代兼、同處聖天丁名主作左衛門呼出し、御普請相濟候旨申し渡す。尤請證文へ取不申候。

一、當橋御修復皆出來、假橋取崩、小屋場竹矢來共取拂相濟候に付、東西橋番請負人水防請負人共呼出
し、東西助成地替地元地所引移り、且西之方竹矢來之地所、米澤丁三丁目行事次郎八に引渡候様、名
主喜左衛門代新助に申渡、東之方竹矢來之地所へ、追て御普請奉行御材木石奉行支配向に引渡、先ツ是迄
之通見守いし候様、東橋番人共に申渡す。

御褒美

越前守殿○水野忠邦

兩國橋掛直御修復相勤候組與力同心共、御褒美之儀申上候書付

大草安房守○高好

町奉行

筒井紀伊守組與力

由比八太夫

大原安房守組與力

都筑十左衛門

尾崎新兵衛

筒井紀伊守組同心

三

大草安房守組同心

三

兩國橋懸直修復書留○編年史料

右に此度兩國橋掛直御修復御用附切、去戌年○天保九年十月下旬に假橋掛渡、引續本橋御修復、此節迄に出來仕、
何れも出精相勤、兩様共積日數を相縮、格別骨折相勤候に付、何卒御品宜御褒美被下置候様仕度、奉願候。

○天保十年二月ノ條、兩國橋懸直し也。

四月十九日○天保十年

町奉行大草安房守、御目付德山五兵衛○秀起懸り。

雜職人石舟と云。

龜井町平兵衛店

石

之
亥九十二。助

寛政元辰年四月十日出生。悴京都之罷在、永舟と云、六十歳也。

同人妻

同六十七。

安永二巳年三月二日出生。

右此度兩國橋致渡初、ハ長壽之夫婦。尤爲御手賞、壹人の拾貫文宛被下之。四月十九日天保十年。

藤岡屋日記

屋鋪受授

五月三日辛酉天保十年(紀元二四九九)年。○辛酉、三正綜覽。屋鋪預有リ。外ニ是月天保十年(紀元二四九九)年五月。若干屋鋪ヲ受授

ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事

屋鋪受授 天保十年五月受授スル所、左ノ各屋鋪也。

圖略。天保十一年三月十四日渡邊三郎助拜領之成ル。

小石川御殿跡 駿府勤番山中新八郎上地坪數貳百坪。

東 道。西 小普請組夏日向守組神尾保次郎、小普請組酒井主馬組田中幸之助。

南 道。北 道。東 貳十間貳尺餘。西 十九間三尺餘。南 十間壹尺餘。北 九間四尺餘。

小石川御殿跡新屋鋪山中新八郎上地貳百坪、拙者ハ被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座預リ申候。尤御預地内家作等一切仕間鋪旨被仰渡、奉承知ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年五月三日

小普請組夏日向守組 神尾保次郎 滑印

神尾保次郎

御普請方改役勤方

富澤林藏殿

御普請方 濱野安次郎殿

出役、青木幸七。吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小普請組夏日向守組 神尾保次郎 印
同 酒井主馬組 田中幸之助 印

圖略。天保十一年二月廿三日石津九兵衛屋鋪之渡ス。

小石川小原町 駿府勤番堀田伊左衛門上地坪數百九拾七坪餘。

東 北 酒井雅樂頭下屋鋪。西南 道。東南 民部卿殿抱屋敷。西北 小普請組久留十左衛門組澤井禮輔

東 南 九間五尺。西 南 十五間壹尺餘。東 北 十六間三尺。西 北 十四間貳尺餘。

小石川小原町堀田伊左衛門殿上地百九拾七坪餘、酒井雅樂頭酒井雅樂頭ハ當分被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預ハ。尤御預地内家作等一切仕間鋪旨被仰渡、奉承知ハ。爲後日仍如件。

天保十亥年五月十一日

酒井雅樂頭内 高須 八左衛門 滑印

御普請方下奉行 近藤義八郎殿

同改役勤方 富澤林藏殿

御普請方 濱野安次郎殿

殷昌期

酒井忠學

出役、水上源兵衛。上野三右衛門。青木幸太。河合玄作。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小普請組久留十左衛門組
澤井禮助印

前書御繪圖之通、下屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

酒井雅樂頭内
高須八左衛門印

前書御繪圖之通、民部卿殿抱屋敷境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

民部卿殿小石川屋敷奉行
田中三太郎天印

圖略。天保十一年四月三日御廣敷御膳所改役中村金藏拜領ニ成ル。

四谷北伊賀町 西丸元表小間遣久島定次郎上地坪數九拾八坪餘。

東 小普請組酒井主馬組菊間鑄太郎
南 東ニ同シ。
北 道。
小普請組岡村丹後守組河内音三郎

東 西 六間。
南 十六間壹尺。北 十六間四尺餘。

四谷北伊賀町久島定次郎上地九拾八坪餘、拙者ハ御預之、四方間敷、御繪圖之通、相違無御座預申ハ。○以下

天保十亥年五月十五日

小普請組酒井主馬組
菊間鑄太郎印

御普請方改役勤方
富澤林藏殿

御普請方
濱野安次郎殿

出役、小谷野應助。天野郷藏。

菊間鑄太郎

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

小普請組岡村丹後守組河内音三郎名代野崎榮左衛門組

久保田直八印
小普請組酒井主馬組
菊間鑄太郎印

圖略。○

小石川七軒町 小普請組戸塚備前守元組岡本銀次郎上地坪數百拾四坪餘。

東 新御番河内采女正組鈴木小市。
南 大御番細川長門守組與頭柳世甚八郎。
西 道、盛姫君様添番格御侍堀小十郎。
北 小普請組酒井主馬組星合金吾。

東 七間。
南 十貳間、十五間。
西 貳間、五間。
北 貳十七間餘。

小石川七軒町通岡本銀次郎上地百拾四坪餘、星合金吾ハ被成御預之、四方間敷、御繪圖之通、相違無御

座奉預ハ。○以下

小普請組酒井主馬支配星合金吾内
小川竹八印

天保十亥年五月十五日

御普請方奉行
近藤義八郎殿

同改役
菅原亮平殿

御普請方假役
木暮又右衛門殿

出役、山縣善十郎。青木幸吉。吾孫子丈助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

殿 昌 期

星合金吾

圖略。天保十一年四月八日久藏拜領之付相渡ス。

四谷内藤宿新屋鋪 駿府勤番大河内定之進上地坪數七拾貳坪餘。

東北 御書物同心世話役鈴木左兵衛。 西南 御先手太田運八郎組同心望月三五郎。
西北 道。 御書物同心世話役鈴木左兵衛。

四谷内藤宿新屋鋪 大河原貞之丞上地七拾貳坪餘、拙者に御預之、四方間數、御繪圖之通相違無御座預申
由。尤御預地内家作等一切仕間鋪旨被御渡奉承知由。爲後日仍如件。

天保十亥年五月十九日

御書物同心世話役

鈴木左兵衛印

御普請方改役勤方

富澤林藏殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、佐口伴右衛門。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合由處、御改之通相違無御座由。爲後日仍如件。

御先手太田運八郎組同心

望月三五郎印

鈴木左兵

吉田四郎三郎

圖略。天保十一年二月廿九日福田繁右衛門屋鋪之渡ス。

澁谷 駿府勤番大河原貞之丞上地坪數百貳拾六坪。

東南 西丸御裏御門番之頭中根七郎左衛門組同心山本鐵之助。
西北 小普請組藤懸采女支配三間藤三郎。
東北 稻葉丹後守下屋敷。

東南 天文方吉田四郎三郎。
西南 道。

東南 西北 二十三間。
西南 五間餘。 東北 六間。

澁谷稻葉丹後守上地大河原貞之丞殿上地百貳拾六坪餘、吉田四郎三郎に被成御預之、四方間數、御繪圖之
通、相違無御座預由。○以下
同文。

天保十亥年五月廿三日

天文方吉田四郎三郎内

木村伴右衛門印

御普請方下奉行

近藤義八郎殿

同改役

菅原亮平殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、水上游兵衛。佐口伴右衛門。天野郷藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合由處、御改之通相違無御座由。爲後日仍如件。

西丸御裏御門番之頭中根七郎左衛門組同心

山本鐵之助印

天文方吉田四郎三郎内

木村伴右衛門印

小普請組藤懸采女支配三間藤三郎内

山田常五郎印

殷昌期

前書御繪圖之通、下屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

稻葉丹後守内

片口 鎌太郎印

圖略○

前原源右

麻布狸穴 御膳所御臺所人前原源右衛門屋鋪坪數百拾坪餘。

東 道。西 御代官野村彦右衛門手附御普請役格山崎準之進、小普請組戸塚備前守支配朝倉勝之助。
南 小普請組戸塚備前守支配津金理右衛門。北 小普請組久留十左衛門組重本藤五郎。
東 五間三尺。西 九間餘。
南 十間。北 十壹間三尺。

麻布狸穴三島寛太夫上地百拾坪餘、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡之。

○以下

御膳所御臺所人 前原源右衛門印

天保十亥年五月廿五日

御普請方改役

菴原亮

平殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、小谷野應助。天野郷藏。中村爲三郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御代官野村彦右衛門手附御普請役格山崎準之進在出之付名代同人手附

鈴木逸八印
小普請組久留十左衛門組 重本藤五郎印
小普請組戸塚備前守支配津金理右衛門内 竹田喜兵衛印
右同人支配朝倉勝之助内 坂崎角藏印

春野又助

圖略○

麻布筜橋 御臺様御膳所御臺所人春野又助屋鋪坪數七拾五坪餘。

東 道。西 學問所下番櫻井久之助。
南 道。北 御天守番朝倉六右衛門組山内總左衛門。
東 十間餘。
南 七間三尺。

麻布筜橋石寺八藏上地之内七拾五坪餘、今度願之通拙者拜領仕、御渡之。

○以下

御臺様御膳所御臺所人 春野又助印

天保十亥年五月晦日

御普請方改役

菴原亮

平殿

御普請方

濱野安次郎殿

出役、池田衆平。天野郷藏。安川長藏。

前書御繪圖之通、屋敷境目立合ハ處、御改之通相違無御座ハ。爲後日仍如件。

御天守番朝倉六右衛門組

山内總左衛門印

圖略○

麻布筜橋 學問所下番櫻井久之助屋敷坪數七拾五坪。

東 御臺様御膳所御臺所人春野又助。西 御徒目付尾島三十郎。
北 御天守番朝倉六右衛門組山内總左衛門。南 道。
東 十間餘。
南 七間三尺。

麻布筜橋石寺八藏上地之内七拾五坪餘、今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡之。四方間敷、御繪圖之面、御

殷昌期

櫻井久之助

定杭之通、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

天保十亥年五月晦日

學問所下番

櫻井久之助印

御普請方改役

菴原亮

平殿

御普請方

濱野

安次郎殿

出役、池田兼平。天野郷藏。安川長藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハ處、御改之通相違無御座申上。爲後日仍如件。

御天守番朝倉六右衛門組

御徒目付

山内總左衛門印

尾島

三十三郎印

——屋鋪渡預繪圖證文

天保十亥年

亥五月三日。山中新八郎上地

一、小石川御殿跡新屋敷貳百坪

(朱) 天保十一子年三月十四日渡邊三郎助拜領之相成。消印。

亥五月十一日。堀田伊左衛門上地

一、小石川小原町百九拾七坪餘

(朱) 天保十一子年二月廿三日石津九兵衛拜領之成。消印。

亥五月十五日。久嶋定次郎上地

一、四谷北伊賀町九拾八坪餘

(朱) 天保十一子年四月三日中村金藏拜領之成。消印。

小普請組夏日向守組

神尾保次郎

御預地

酒井雅樂頭

當分御預地

○忠

小普請組酒井主馬組

菊間鑄太郎

御預地

同日岡本銀次郎上地

一、小石川七軒町通百拾四坪餘

(朱) 天保十一子年二月廿三日平石清左衛門拜領之成。消印。

亥五月十九日。大河原貞之丞上地

一、四谷内藤宿新屋敷七拾貳坪餘

(朱) 天保十一子年四月八日久藏拜領之成。消印。

亥五月廿三日。大河原貞之丞上地

一、澁谷稻葉丹後守上地百貳拾六坪餘

(朱) 天保十一子年二月廿九日福田繁右衛門拜領之成。消印。

亥五月廿五日。三嶋寛太夫上地

一、麻布狸穴百拾坪餘

亥五月晦日。石寺八藏上地之内

一、麻布斧橋七拾五坪餘

同日。同人同斷。

一、同所七拾五坪餘

亥○天保十年。五月十日

越前守殿。○水野啓阿彌を以御渡、豊前守。○松平請取。政所請取。

御普請奉行。〃

朝倉小左衛門拜領屋敷四谷内藤新宿追分

八千五百坪

大久保駿河守拜領下屋敷南本所猿江

千八拾坪

殷昌期

小普請組酒井主馬支配

星合

金吾御預地

御書物同心世話役

鈴木左兵衛

御預地

天文方

吉田

四郎三郎御預地

御膳所御臺所人

前原

源右衛門

御臺様御膳所御臺所人

春野

又助

學問所下番

櫻井

久之助

——屋敷書拔

西丸御側

大久保

駿河守

同御小性組酒井隱岐守組

朝倉

小左衛門

九二五

大久保忠
朝倉小左

東京市史稿

九二六

水野藤右
村垣與三郎
阿部勘左
水野新衛門
稻垣藤一郎
安藤典膳
鈴木長之助

村垣與三郎拜領屋敷麻布長坂六拾貳坪餘
阿部勘左衛門拜領屋敷八丁堀築地六百貳拾坪餘
水野藤右衛門拜領屋敷小日向龍慶橋七百七拾坪餘之内三百坪
稻垣藤一郎拜領屋敷巢鴨新屋敷三百貳拾四坪之内百四坪
水野新衛門拜領屋敷湯嶋四丁目百坪
鈴木長之助拜領屋敷濱町元矢之倉貳百坪餘
安藤典膳拜農屋敷牛込平山町三百六拾坪餘之内百五拾坪

右願之通、屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致い。

亥○天保十年五月晦日

越前守殿○水野新阿彌を以御渡、備前守○井上請取。

御普請奉行い。

蒔田權佐
松野右京
本多勝五郎
鈴木四郎

松野右京拜領屋敷關口目白臺七百坪
本多勝五郎拜領屋敷小川町裏猿樂町三百五拾六坪
鈴木四郎拜領屋敷小日向馬場三百拾六坪之内貳百八拾坪
蒔田權佐拜領屋敷同所貳千六百貳拾五坪餘之内百八拾貳坪

寄合
蒔田 權 佐い
御小性組秋田淡路守組 松野 右 京い
杉浦出雲守組 本多 勝 五 郎い
新御番本目信濃守組 鈴木 四 郎い

山口四郎
畠山五郎
七郎

畠山五郎七郎拜領屋敷澁谷弁橋百五拾坪餘
山口四郎左衛門拜領屋敷麻布谷町貳百坪

大御番細川長門守組 山口 四郎左衛門い
小普請組酒井八十之丞支配 畠山 五郎七郎い

右願之通屋敷相對替被仰付の間、得其意、例之通可被致い。

〔附記、一〕 百姓武藝等制禁

天保十亥年五月廿三日相模守殿○小笠原長貴。廿六日○天保十年五月。觸。

近來在方い浪人者杯留置、百姓共武藝を學ひ、又ハ百姓同士相集り稽古致いを相聞え、農業を妨い計にも無之、身分をわなまき、氣かさう成行基い得え、堅く相止可申い。勿論故かくして、武藝師範いさしい者取と、猥ニ村方へ差置申間敷い。

一、百姓共之内、江戸町方火消人足之身體をまね、出火い事よせ大勢まで遺恨有之者かとの家作打あわし、或は頭分と唱へ組合を立、喧嘩口論を好い者共悉有之由、甚以不埒之事い。急度相慎、惣風儀宜可致い。右之趣村役人共申教、不作法をの無之様ニ心を附可申い。若相背ものハ召連可訴出い。右之通文化二丑年御勘定奉行ハ關東内領分知行有之面々家來呼出申渡置い處、近來猥ニ相成、心得違之者有之哉ニ相聞、如何之事い。此上右申渡い趣相背いをの於有之を、當人オ勿論、村役人共迄、急度可申付條、關八州御料之御代官、私領之領主地頭、嚴重ニ可被申渡い。

五月○天保十年

右之通可被相觸い。尤西丸并右大將様御目付を、可有通達い。

——政保間記

附記、一
百姓武藝
等制禁

近來在方之浪人もの杯を留置○下略。上
文二同シ。
右之通御書付出の間、町中不洩様可相觸い。

五月廿四日○天保十年

——撰要永久録

附記、二
貨幣制

〔附記、二〕 貨幣制

同日○天保十年
五月廿五日。肥後守殿○林
忠英。來ル廿八日○天保十年
五月。觸。○撰要永久録
五月
廿六日町觸。

近來上方筋金直段下落致い之付、おのつら諸色高直之至い趣も相聞い間、以來金壹兩之付銀六拾目内之相場を以、兩替致間敷、尤六拾目以上之相場相立い儀ハ不苦い間、其旨兼る相心得、一統通用可致い。

右之趣可被相觸い。尤西丸并右大將様御目付にも可有通達い。

五月○天保十年

——政保間記

附記、三
淺草米廩修理

〔附記、三〕 淺草米廩修理

六月二日○天保十年
○中略。

銀七枚。

同。

御藏奉行
竹村 九郎 右衛門
大岩 太郎 左衛門

淺草御藏其外御修復中骨折い之付被下之。
右於御右筆部屋縁頼、越前守○忠
那申渡之。林肥後守○忠
英侍座。

——柳營日次記

屋鋪受授

六月四日戊辰○天保十年(紀元二四九
九年)。○戊辰、三正綜覽。黑鍬組屋鋪收上地ヲ返給ス。外ニ是月○天保十年(紀元二
四九九年)六月。屋

屋鋪受授事
蹟

屋鋪受授 天保十年六月屋鋪受授若干有リ。

圖○

四谷内藤宿新屋鋪 元御膳所六尺源六上地坪數六拾壹坪餘。

東 黑鍬之者村田市郎兵衛。 西 黑鍬頭中山金三郎預地。
南 道。 小普請組戸塚備前守支配河村又十郎。

東西 十七間三尺。 北 三間。
南 四間。

四谷内藤宿新屋鋪源六上地六拾壹坪餘、黑鍬組屋鋪大繩之内ニ御座い之付、御請取、直ニ右組被成御差戻、四方間敷、御繪圖之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

天保十年六月四日

黑鍬之者
小川 彦 六印

御普請方改役

御普請方

菅原 亮 平殿

濱野 安次 郎殿

出役、小谷野應助。三橋喜六。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

黑鍬之者
村田 市郎 兵衛 印
小普請組戸塚備前守組河村又十郎内
酒井 勘次 印

股 昌 期

前書御繪圖之通、中山金三郎預地境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

石井甚五郎印

圖略。

永井尙典

元矢之倉 永井山城守典。屋鋪坪數三千三百四拾五坪。

東北 宗對馬守中屋鋪。道。

東南 八十間貳尺。西南 七十壹間四尺。

西北 四十九間五尺。

大名小路永井山城守屋鋪家作共差上、元矢之倉津輕大隅守殿下屋鋪、山城守拜領任、并濱町新大橋際水野壹岐守殿家作被下、引取い様被仰付い之付、大隅守殿上地三千三百四拾五坪被成、御渡、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取い。爲後日仍如件。

天保十亥年六月十三日

永井山城守内 小嶋和兵衛印

御普請方下奉行

吉際源藏殿

同改役 亮平殿

御普請方假役

西宮宗左衛門殿

同

木暮又右衛門殿

御普請奉行井上備前守秀榮渡之。

出役、山縣善十郎。小島吉三郎。上野三右衛門。鈴木三平。長谷川善三郎。河合玄作。三橋喜

六。天野郷藏。安川壽三郎。

前書御繪圖之通、中屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

宗對馬守内 村倉次郎印

圖略。

村田矩勝

湯島四町目 御勘定吟味役村田幾三郎矩勝。永御預地坪數三拾五坪餘。

東 西丸御書院番小笠原若狹守組稻葉大膳。

南 御勘定吟味役村田幾三郎。

東 貳間三尺。西 壹間貳尺。

南 十八間壹尺。北 十八間壹尺。

西 圓滿寺御預地。

北 西丸御小納戸松平傳兵衛御預地。

湯島四町目川崎平六郎殿屋鋪、村田幾三郎屋敷相對替、當亥天保十年四月被仰付い之付、右屋鋪續永御預地

三拾五坪餘、此度幾三郎村田被成、御預替之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉預い。

尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

御勘定吟味役村田幾三郎内 武藤久兵衛印

天保十亥年六月十六日

御普請方下奉行出役

森川小太夫殿

同改役 亮平殿

御普請方 高橋八十太郎殿

出役、加納帶藏。池田衆平。河合玄作。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

西丸御書院番小笠原若狹守組稻葉大膳内 毛利直印

殷昌期

九三一